

1947/100
內閣官報局長奧田義人君序文
博文館編輯局編纂

現行
日本法令大全

42736

東京 博文館藏版



CZ
F
028

現行日本法令大全

凡 例

一本書ハ明治元年ヨリ同廿五年十二月ニ至ルマテ現行規則ノ全般ニ涉ランコトヲ
欲スルカ故ニ法律勅令ハ勿論省令訓令布達告示ニ至ルマテ必用ト認ムル者ハ
盡ク之ヲ載ス

一本書ハ現行規則ヲ知ルノ便ニ供スルノミナラス兼テ改正若クハ廢止ニ垂ンダ
ルモノト雖モ舊法ヲ參照シテ新法ヲ解スルニ便ナルヘキモノハ盡ク之ヲ載ス
例ヘハ度量衡改定規則若クハ約束手形條例爲替手形條例ノ如キ是ナリ
一本書末尾ノ追録ハ本書ニ遺漏ノ分若クハ最近ノ發布ニ係ル諸規則ヲ載ス
一本書ハ素ト日本現行規則ヲ世人ニ遍ク知了セシムルヲ以テ目的ト爲スモノナ
レハ一年毎ニ諸規則ノ改廢等ヲ明記シテ改刊スルモノトス

明治廿五年十二月

編 者 識

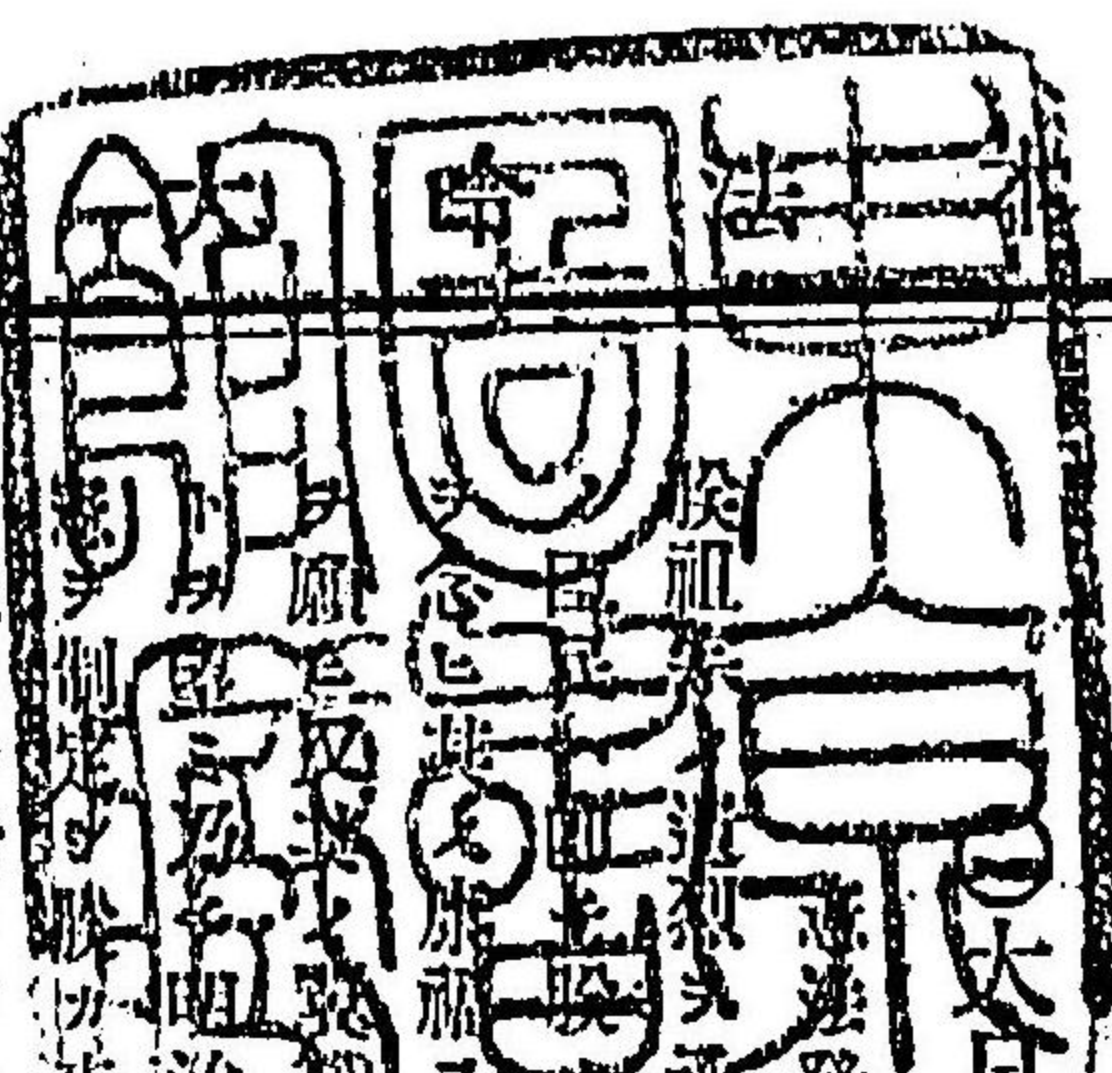
現行
日本法令大全

博文館編輯局編纂

第一類 憲法 議會 法例 公文式

皇室典範

第一章 憲法 議會



大日本帝國憲法 明治二十二年二月十二日
朕祖神孫萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所
皇宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナル
ヲ朕ノ爲メニ
治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大
子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承クテ之ヲ子孫ニ傳フル
所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フ
コトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此
ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキ

ニトテ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ
以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ
將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見
ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會
ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スル
ノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之ヲ紛更ヲ試ミルコトヲ得サル
ヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任ス
ヘシ朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ
義務ヲ負フヘシ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條
規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發シシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル
 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ
 第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラルヘシ及他ノ公務ニ就クコトヲ得
 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス
 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ
 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ
 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ヲクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコトナシ
 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ
 第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ
 公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨クス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ刑ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合

ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ
 第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス
 第三章 帝國議會
 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス
 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セララルタル議員ヲ以テ組織ス
 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セララルタル議員ヲ以テ組織ス
 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス
 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス
 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得
 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス
 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ
 第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
 臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニ依ル
 第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セララルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セララルヘシ
 第四十五條 衆議院解散ヲ命セララルトキハ勅令ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ
 第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非ツレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得
 第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得
 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得
 第五十一條 兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲ケタルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
 第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ
 第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラルコトナシ
 第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得
 第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルハコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ヲクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫算ノ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカヲサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ職ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

出席總員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ職ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用井タルニ拘ラズ此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○議院法 明治廿二年二月 法律第廿二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四

十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅令ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

第十七條 書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十八條 書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

第十九條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第二十章 議員

第二十一條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三

類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十二條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十三條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聴ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第二十五條 各委員會ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十六條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第二十七條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第三十二條 但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依リ

第三十三條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決

ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聴人ヲ退去セシメ討論ヲ用非スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルコトニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大

臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サルトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ助議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルトコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ助議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議院ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ同付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ助議ヲ爲スコトヲ許サズ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ

用非可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院ニ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規定ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依ルル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ探擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラントル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院ニ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院ニ受クルコト

トヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院ニ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受テ互ニ相干預セズ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルトコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ク時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモ

現行日本法令大全

臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルトコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非ザルハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ同付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ之ニ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サズ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ

現行日本法令大全

用非可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於テ議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院ニ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規定ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ職員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ毎週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メララル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院ニ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院ニ受クルコト

トヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院ニ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ干預セズ

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルトコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルトコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルトコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ク時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモ

現行日本法令大全

ノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス
 第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セザルハ至ルマ
 テハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審
 査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ
 預カルコトヲ得ス
 第十六章 請假辭職及補闕
 第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ
 許可スルコトヲ得其一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之
 ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス
 第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出ス
 シテ會議又ハ委員會ニ出席スルコトヲ得ス
 第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得
 第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生ジタ
 ルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ
 第十七章 紀律及警察
 第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察
 ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長
 之ヲ施行ス
 第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派
 出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム
 第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他
 議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ
 發言ヲ取消シシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ
 終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得
 第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ
 會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之
 ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サ
 シムルコトヲ得
 傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムル
 コトヲ得
 第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委
 員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得
 第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言辭論說ヲ爲ス
 コトヲ得ス
 第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用井ルコトヲ得ス及他
 人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
 第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員
 ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ
 得ス
 第十八章 懲罰
 第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス
 第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員
 ヲ設ク
 懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ
 議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス
 各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部
 長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ
 第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ
 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

現行日本法令大全

四 除名
 衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之
 ヲ決スヘシ
 第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ
 得ス
 第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲
 スコトヲ得
 懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ
 第九十九條 議員正當ノ理由ヲクシテ勅諭ニ指定シタル期日
 後一週間内ニ召集ニ應セザルニ由リ又ハ正當ノ理由ヲクシ
 テ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ過キ
 タルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後
 一週間内ニ仍故ナク出席セザル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出
 席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除
 名スヘシ
 ○衆議院議員選舉法 明治二十二年二月
 法律第三號
 朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之
 ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ
 選舉ヲ施行セシムルコトヲ命ス
 衆議院議員選舉法
 第一章 選舉區畫
 第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシ
 ム其選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此法律ノ附
 録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス
 一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管
 理ス
 第三條 一選舉區ニシテ郡市ニシテハ郡長又ハ市長其ノ
 郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ選舉長ヲラシムヘシ
 第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區
 長ヲシテ其ノ選舉長ヲラシムヘシ
 第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
 第二章 選舉人ノ資格
 第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
 第一 日本臣民ノ男子ニシテ年滿二十五歲以上ノ者
 第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内
 ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者
 第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内
 ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
 但シ所得稅ニ付テハ八名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年
 以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル
 第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財
 產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス
 第三章 被選人ノ資格
 第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲
 以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉
 府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
 タルヘシ
 但シ所得稅ニ付テハ八名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之
 ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

現行日本法令大全

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人ヲ
ルコトヲ得ス
前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌル
コトヲ得
第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タル
コトヲ得ス
第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區
ニ於テ被選人タルコトヲ得ス
第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス
第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ常
選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス
第十四條 選舉人及被選人ニ通スル規定
一 瘋癲白癡ノ者
二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經
サル者
五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セ
ラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年
ヲ經サル者
七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者
第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被
選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコ
トヲ得ス
第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁
判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコ
トヲ得ス
第五章 選舉人名簿
第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一
ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿ニ
本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ
選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所年月納ムル
所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ
第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合
ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ
第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ
於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉
長ニ差出サシムヘシ
第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其
ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ
調製シ之ヲ差出サシムヘシ
第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ
市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ
第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅
ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ
得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村
長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

現行日本法令大全

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シ
タル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ
郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事
ニ送致スヘシ
第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選
舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役
所ニ於テ縦覽セシムヘシ
第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱
漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ
具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコト
ヲ得
縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ
第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ
理由及證憑ヲ審查シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之
ヲ判定スヘシ若シ其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキ
ハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ
市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ
第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ
理由及證憑ヲ審查シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告
人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判
定スヘシ若シ誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其
ノ由ヲ被告所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併
セテ選舉區内ニ告示スヘシ
第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セザ
ルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキ
ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ
第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコト
ヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得
第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次
年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判官渡書ニ依リ改
正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨ
リ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在
地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告
示スヘシ
第六章 選舉ノ期日及投票所
第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議
院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ
定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ
第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所
ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス
第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設
クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村
及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ
第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉
人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期
日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參
會セシムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス
第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ク其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ而前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選舉人ノ姓名ヲ記載シテ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由テ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用フヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルトトテ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ク投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモノ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其

ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人コシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ

現行日本法令大全

當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シ
テ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補選

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後
仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補選選舉ヲ
開クヘキ旨ヲ命セテラントキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケ
タル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行
ヒ補選議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補選議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要
ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ル
コトヲ許サズ

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又
ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ
之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出
セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク
外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコ
トヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ
法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事

由テ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シ
テハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ
選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條
ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選
ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ
第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以
内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又
ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判官渡ノ日ヨリ七日
以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ
控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲
シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判官渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣
告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ
訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新
開紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係
スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲

現行日本法令大全

スエトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシム
ヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所
轉刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ
裁判官渡書ノ原本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會ス
ルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ
上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマ
テ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普
通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事
項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラントル者ハ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ
爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接
ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與
スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ
選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ
他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑

止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者
亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ
爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行
ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票
ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者
ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾
シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ
嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上
百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月
以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加
フ

第九十五條 選舉ノ際管理若ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴
行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀
壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二
十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加
フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄

現行日本法令大全

ニ處ス
其情ヲ知テ囑聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者或器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ
第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前條ノ罪ヲ犯シメタル者ハ刑法第五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス
第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入リタル者ハ三回以上三十回以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス
第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四回以上四十回以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 前條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラシ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラシタル者ハ三年以上七年以下ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス
第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五回以上五十回以下ノ罰金ニ處ス
第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ
第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ選クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ
此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ
第八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
第九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ
第十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ
第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス
衆議院議員選舉法附錄
東京府 議員總數十二人
第一區 麹町區 一人
第二區 赤坂區 一人

現行日本法令大全

區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第	區十第	區十一第	區十二第
京橋區	日本橋區	本所區	淺草區	神田區	下谷區	小石川區	牛込區	四谷區	東多摩郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
京都府 議員總數七人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	大阪府 議員總數十八人	
上京區	下京區	愛宕郡	野田郡	葛城郡	紀伊郡	宇治郡	久米郡	相模郡	南桑田郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
兵庫縣 議員總數十二人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第	區十第
久我郡	篠山郡	三木郡	高砂郡	龍野郡	赤松郡	高砂郡	高砂郡	高砂郡	高砂郡
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人
神奈川縣 議員總數七人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第	區九第	區十第
横濱區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區	磯谷區
一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人	一人

現行日本法令大全

第一類 第一節 栃木縣 議員總數五人	區一第 芳賀郡 一 人	區六第 北相馬郡 一 人	區五第 新治郡 一 人	區四第 碓冰郡 一 人	區三第 真壁郡 一 人	區二第 那珂郡 二 人	區一第 那珂郡 二 人	茨城縣 議員總數八人	區八第 長岡郡 一 人	區七第 天沼郡 一 人
第一類 第一節 三重縣 議員總數七人	區二第 河內郡 一 人	區一第 三河郡 一 人	區三第 吉野郡 一 人	區二第 高市郡 二 人	區一第 式部郡 一 人	奈良縣 議員總數四人	區四第 那賀郡 一 人	區三第 磯城郡 一 人	區二第 上郡 二 人	
第一類 第一節 愛知縣 議員總數十一人	區五第 中島郡 一 人	區四第 丹波郡 一 人	區三第 春日井郡 一 人	區二第 愛知郡 一 人	區一第 名古屋區 一 人	區六第 伊賀郡 一 人	區五第 北見郡 二 人	區四第 豐田郡 一 人	區三第 朝日郡 一 人	
第一類 第一節 靜岡縣 議員總數八人	區四第 城東郡 一 人	區三第 益津郡 一 人	區二第 麻原郡 一 人	區一第 有安郡 一 人	區一十第 八幡郡 一 人	區十第 南田郡 一 人	區九第 東加茂郡 一 人	區八第 額田郡 一 人	區七第 磐田郡 一 人	區六第 海東郡 一 人

第一類 第一章 憲法 議會

現行日本法令大全

第一類 第一節 長崎縣 議員總數七人	區三第 南高來郡 一 人	區二第 北高來郡 一 人	區一第 四彼杵郡 二 人	區十第 三津郡 一 人	區九第 朝日郡 二 人	區八第 佐賀郡 二 人	區七第 神戶郡 一 人	區六第 加多郡 一 人		
第一類 第一節 新潟縣 議員總數十三人	區七第 東頸城郡 二 人	區六第 刈羽郡 一 人	區五第 三島郡 二 人	區四第 南蒲原郡 一 人	區三第 中蒲原郡 一 人	區二第 東蒲原郡 二 人	區一第 新潟區 一 人	區六第 下縣郡 一 人	區五第 南松浦郡 一 人	區四第 石田郡 一 人
第一類 第一節 群馬縣 議員總數五人	區一第 北勢郡 一 人	區五第 秩父郡 一 人	區四第 男衞郡 二 人	區三第 北埼玉郡 二 人	區二第 比企郡 二 人	區一第 新田郡 一 人	區九第 羽茂郡 一 人	區八第 中野郡 二 人		
第一類 第一節 千葉縣 議員總數九人	區六第 長柄郡 一 人	區五第 武射郡 一 人	區四第 匝上郡 一 人	區三第 香取郡 一 人	區二第 南相馬郡 二 人	區一第 市原郡 一 人	區五第 碓氷郡 一 人	區四第 香取郡 一 人	區三第 南相馬郡 一 人	區二第 新田郡 一 人

第一類 第一章 憲法 議會

現行日本法令大全

<p>山梨縣 議員總數三人</p> <p>區一第 西山梨郡 一人 區二第 北山梨郡 一人 區三第 南山梨郡 一人</p>	<p>滋賀縣 議員總數五人</p> <p>區一第 高島郡 一人 區二第 栗原郡 一人</p>	<p>山梨縣 議員總數三人</p> <p>區一第 西山梨郡 一人 區二第 北山梨郡 一人 區三第 南山梨郡 一人</p>	<p>區七第 駿河郡 一人 區六第 濱名郡 一人</p>	<p>區五第 周知郡 一人 區四第 長良郡 一人</p>	<p>區三第 犬上郡 二人 區二第 神戶郡 一人 區一第 愛宕郡 一人</p>	<p>岐阜縣 議員總數七人</p> <p>區一第 厚見郡 一人 區二第 不破郡 一人 區三第 下石津郡 一人 區四第 多摩郡 一人 區五第 武儀郡 一人 區六第 加茂郡 一人 區七第 土岐郡 一人</p>	<p>長野縣 議員總數八人</p> <p>區一第 上水内郡 一人 區二第 下高井郡 一人 區三第 小縣郡 一人 區四第 東筑摩郡 二人 區五第 南安曇郡 一人 區六第 上伊那郡 一人 區七第 下伊那郡 一人</p>	<p>福井縣 議員總數四人</p> <p>區一第 大野郡 一人 區二第 吉田郡 一人 區三第 南條郡 一人 區四第 丹生郡 一人 區五第 三友郡 一人 區六第 敦賀郡 一人</p>	<p>宮城縣 議員總數五人</p> <p>區一第 仙台區 一人 區二第 名取郡 一人 區三第 登米郡 一人 區四第 刈田郡 一人 區五第 大田郡 二人</p>	<p>福島縣 議員總數七人</p> <p>區一第 信夫郡 一人 區二第 伊達郡 一人 區三第 安積郡 一人 區四第 安積郡 一人 區五第 南會津郡 一人 區六第 北會津郡 一人 區七第 大河津郡 二人</p>
---	---	---	---	---	--	---	--	---	--	---

第一類 第一章 憲法 議會

二十二

現行日本法令大全

<p>青森縣 議員總數四人</p> <p>區一第 東津輕郡 二人 區二第 上北郡 一人 區三第 下北郡 一人</p>	<p>機手縣 議員總數五人</p> <p>區一第 南機手郡 一人 區二第 北機手郡 一人</p>	<p>山形縣 議員總數六人</p> <p>區一第 南村山郡 二人 區二第 東村山郡 二人 區三第 西村山郡 一人 區四第 北村山郡 一人</p>	<p>石川縣 議員總數六人</p> <p>區一第 金澤區 二人 區二第 江沼郡 一人 區三第 羽咋郡 二人 區四第 鹿島郡 一人</p>	<p>島根縣 議員總數六人</p> <p>區一第 邑美郡 一人 區二第 八束郡 一人 區三第 八束郡 一人 區四第 八束郡 一人</p>	<p>福井縣 議員總數四人</p> <p>區一第 大野郡 一人 區二第 吉田郡 一人 區三第 南條郡 一人 區四第 丹生郡 一人</p>	<p>宮城縣 議員總數五人</p> <p>區一第 仙台區 一人 區二第 名取郡 一人 區三第 登米郡 一人 區四第 刈田郡 一人 區五第 大田郡 二人</p>	<p>福島縣 議員總數七人</p> <p>區一第 信夫郡 一人 區二第 伊達郡 一人 區三第 安積郡 一人 區四第 安積郡 一人 區五第 南會津郡 一人 區六第 北會津郡 一人 區七第 大河津郡 二人</p>
---	---	---	---	---	---	--	---

第一類 第一章 憲法 議會

二十三

現行日本法令大全

第一類 第一章 憲法 議會

愛媛縣 議員總數七人		區一第 溫氣早氣泉 下伊久野風和 下伊久野風和 下伊久野風和	區二第 周桑越 周桑越 周桑越	區三第 上喜多 上喜多 上喜多	區四第 宇新居 宇新居 宇新居	區五第 東宇和 東宇和 東宇和	區二第 大川內 大川內 大川內	區三第 阿野足 阿野足 阿野足	區四第 那多度 那多度 那多度	區五第 三野田 三野田 三野田
高知縣 議員總數四人		區一第 長土佐 長土佐 長土佐	區二第 香高多 香高多 香高多	區三第 安香美 安香美 安香美	區六第 北南宇和 北南宇和 北南宇和	福岡縣 議員總數九人		區一第 早志怡 早志怡 早志怡	區二第 夜下上 夜下上 夜下上	區三第 福嘉樓 福嘉樓 福嘉樓
山口縣 議員總數七人		區一第 吉原那 吉原那 吉原那	區二第 大見阿 大見阿 大見阿	區三第 豐赤間 豐赤間 豐赤間	區四第 大熊部 大熊部 大熊部	區五第 玖島 玖島 玖島	區六第 豐田 豐田 豐田	區七第 世御羅 世御羅 世御羅	區八第 安沼津 安沼津 安沼津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
德島縣 議員總數五人		區一第 勝那東 勝那東 勝那東	區二第 海那賀 海那賀 海那賀	區三第 麻阿名 麻阿名 麻阿名	區四第 板野 板野 板野	區五第 三美好 三美好 三美好	區六第 宇下毛 宇下毛 宇下毛	區五第 東國東 東國東 東國東	區一第 和歌山 和歌山 和歌山	區二第 伊那郡 伊那郡 伊那郡
熊本縣 議員總數八人		區一第 熊本 熊本 熊本	區二第 宇能 宇能 宇能	區三第 阿合菊 阿合菊 阿合菊	區四第 直大 直大 直大	區五第 日玖連 日玖連 日玖連	區六第 上藥津 上藥津 上藥津	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
佐賀縣 議員總數四人		區一第 佐賀 佐賀 佐賀	區二第 三養基 三養基 三養基	區三第 藤存島 藤存島 藤存島	區四第 竹生山 竹生山 竹生山	區五第 下上三 下上三 下上三	區六第 三山門 三山門 三山門	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
大分縣 議員總數六人		區一第 大分 大分 大分	區二第 南海部 南海部 南海部	區三第 直大 直大 直大	區四第 日玖連 日玖連 日玖連	區五第 下上三 下上三 下上三	區六第 三山門 三山門 三山門	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
香川縣 議員總數五人		區一第 小川 小川 小川	區二第 海那賀 海那賀 海那賀	區三第 麻阿名 麻阿名 麻阿名	區四第 板野 板野 板野	區五第 三美好 三美好 三美好	區六第 宇下毛 宇下毛 宇下毛	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲

二十五

現行日本法令大全

第一類 第一章 憲法 議會

岡山縣 議員總數八人		區一第 岡上野山 岡上野山 岡上野山	區二第 津高 津高 津高	區三第 和赤阪 和赤阪 和赤阪	區四第 下賀屋 下賀屋 下賀屋	區五第 後小淺 後小淺 後小淺	區六第 知海 知海 知海	區七第 久米北 久米北 久米北	區八第 安沼津 安沼津 安沼津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
廣島縣 議員總數十人		區一第 廣島 廣島 廣島	區二第 佐伯 佐伯 佐伯	區三第 山高宮 山高宮 山高宮	區四第 三三高 三三高 三三高	區五第 加茂 加茂 加茂	區六第 東北條 東北條 東北條	區七第 勝野南 勝野南 勝野南	區八第 安沼津 安沼津 安沼津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
山口縣 議員總數七人		區一第 吉原那 吉原那 吉原那	區二第 大見阿 大見阿 大見阿	區三第 豐赤間 豐赤間 豐赤間	區四第 大熊部 大熊部 大熊部	區五第 玖島 玖島 玖島	區六第 豐田 豐田 豐田	區七第 世御羅 世御羅 世御羅	區八第 安沼津 安沼津 安沼津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
德島縣 議員總數五人		區一第 勝那東 勝那東 勝那東	區二第 海那賀 海那賀 海那賀	區三第 麻阿名 麻阿名 麻阿名	區四第 板野 板野 板野	區五第 三美好 三美好 三美好	區六第 宇下毛 宇下毛 宇下毛	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
熊本縣 議員總數八人		區一第 熊本 熊本 熊本	區二第 宇能 宇能 宇能	區三第 阿合菊 阿合菊 阿合菊	區四第 直大 直大 直大	區五第 日玖連 日玖連 日玖連	區六第 上藥津 上藥津 上藥津	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
佐賀縣 議員總數四人		區一第 佐賀 佐賀 佐賀	區二第 三養基 三養基 三養基	區三第 藤存島 藤存島 藤存島	區四第 竹生山 竹生山 竹生山	區五第 下上三 下上三 下上三	區六第 三山門 三山門 三山門	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
大分縣 議員總數六人		區一第 大分 大分 大分	區二第 南海部 南海部 南海部	區三第 直大 直大 直大	區四第 日玖連 日玖連 日玖連	區五第 下上三 下上三 下上三	區六第 三山門 三山門 三山門	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲
香川縣 議員總數五人		區一第 小川 小川 小川	區二第 海那賀 海那賀 海那賀	區三第 麻阿名 麻阿名 麻阿名	區四第 板野 板野 板野	區五第 三美好 三美好 三美好	區六第 宇下毛 宇下毛 宇下毛	區七第 田企川 田企川 田企川	區八第 上藥津 上藥津 上藥津	區九第 三奴甲 三奴甲 三奴甲

二十四

現行日本法令大全

第一區	鹿兒島縣 議員總數三人	第一區	宮崎縣 議員總數三人
第二區	鹿兒島縣 議員總數七人	第二區	鹿兒島縣 議員總數七人
第三區	鹿兒島縣 議員總數七人	第三區	鹿兒島縣 議員總數七人
第四區	鹿兒島縣 議員總數七人	第四區	鹿兒島縣 議員總數七人
第五區	鹿兒島縣 議員總數七人	第五區	鹿兒島縣 議員總數七人
第六區	鹿兒島縣 議員總數七人	第六區	鹿兒島縣 議員總數七人
第七區	鹿兒島縣 議員總數七人	第七區	鹿兒島縣 議員總數七人

○衆議院議員選舉法施行規則 明治三十三年一月
 第一條 選舉人ノ年齢ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歲ニ達スルヲ以テ合格トス
 第二條 選舉法第六條第二ニ掲ケル居住ノ期限内ニ選舉人其

ノ居住ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラス其ノ期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラス
 第三條 選舉人及被選舉人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス
 賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ
 滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上土地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併シ七十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ
 第四條 賃入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ
 第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地家帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ
 第六條 被選舉人ノ年齢ハ選舉期日ノ前滿三十歲ニ達スルヲ以テ合格トス
 被選舉人家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選舉人ノ例ニ同シ
 第七條 警視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選舉人タルコトヲ得ス
 第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十

現行日本法令大全

一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ被選舉人タルコトヲ得ス
 第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神官トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ
 第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス
 選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス
 選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス
 第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ
 第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス
 第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セザルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ
 第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ
 入場券ノ配付ヲ受ケタル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得
 第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ
 第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得
 第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若シ到着番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番號ノ順序ニ從ヒ番號札ヲ引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ
 第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得
 第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ
 第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セザル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函

現行日本法令大全

ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日 選舉法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選 舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗 讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入 セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被 選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 點檢済ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ 選舉長ハ選舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ

連名投票ニシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保 存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカサル事故ニ依リ投票 行フコトヲ得ヌ又ハ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投 票所管理者又ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由 ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投 票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ選 クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘ シ

第二十七條 選舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ 差ニ依テ常選ヲ得タル者其ノ常選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ 期限内ニ其承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ常選ヲ 失ヒタル者ヲ以テ常選人ト定ムヘシ

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六 十條ニ依リ常選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議ア

ル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル 者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉 法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬 ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

○衆議院議員選舉法施行規則ノ事務 及書式ノ準據方 明治二十三年一月 內務省訓令第二號

衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等 左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一 號ノ式ニ依リ調製スヘシ

第二條 投票所管理者ハ選クトモ投票期日ノ五日前ニ投票所 ヲ指定シテ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定 ム之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ 正當ノ事故ニ由リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ 三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之 ヲ通知スヘシ但臨時已ムテ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一 兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉法施行規則第 十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中ヨリ 之ヲ指名スヘシト雖投票所管理者ハ豫メ其當日指名セント スル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル 前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙、投票函、入場券、及到着番號札ハ別紙第二號 第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

現行日本法令大全

第五條 投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所 ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ鑿柝又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ 投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉 ヲツヘシ

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ 多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、選舉人扣所、投票用紙交 付所、投票記載所、投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ 投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選舉法第三十六條ニ依リ立 會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人 ノ而前ニ於テ其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會 人列席ノ卓上ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜選舉 人數名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ選舉法施行 規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲 ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ

投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入ラタル各選舉人遲滞 ナク記載シ得ル丈ニ數箇ノ筆視墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ 特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ 其第一蓋ノ輪ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ輪ハ投票所管 理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ

記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記 入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ 選舉明細書ハ副本ヲ製シ選舉人又ハ被選人ノ請求アリタル トキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ常選人ニ付 與スヘキ常選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場 ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘシ 書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

○衆議院議員選舉法罰則補則 明治二十三年五月 法律第四十號

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲 ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投 票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ 供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往來ハル爲車馬ノ類ヲ給 シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ 投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辨 シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル 者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引 シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ク若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉 權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ 例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ

現行日本法令大全

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ヲシトシテ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百條ノ例ニ依ル

○貴族院令 明治二十二年二月 勅令第七十二號

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ル

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各、其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各、其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各、總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラズ

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

現行日本法令大全

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラレヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

○貴族院伯子男爵議員選舉規則

明治二十二年六月 勅令第七十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各、其ノ同爵者ノ貴

族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅令ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各、一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラレ、コトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各、其ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

現行日本法令大全

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載ス
 第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同會場中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證據ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ
 第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ
 第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ
 第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ジ及其ノ期日ヲ指定スヘシ
 補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ
 第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
 第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス
 第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同會者ノ支辨タルヘシ

○貴族院多額納稅者議員互選規則
明治二十二年六月 勅令第七十九號
 朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ
 貴族院多額納稅者議員互選規則
 第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ
 第二條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス
 第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス
 第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス
 一 瘋癲白癡ノ者
 二 公權ヲ剝奪セララル者又ハ停止中ノ者
 三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
 六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者
 第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職

現行日本法令大全

停職ニ在ル者亦同シ
 第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス
 第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セラルヘシ
 第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ
 互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細則及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ
 第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第十條 府縣知事ハ四月二十日マテ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ
 第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ら互選名簿ニ記載セザルナルコトヲ發見シタルトキハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得
 凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカザル者ノ互選名簿ニ記載セザルナルコトヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得
 期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ
 第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ
 第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス
 第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ發スヘシ
 第十六條 互選人ハ自ら選舉會場ニ至リ投票スヘシ
 投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ
 第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得
 第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ
 第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス
 第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ
 當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル
 第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ録シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ
 第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ
 第二十四條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏

シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

○貴族院多額納稅者議員互選規則
取扱方

明治二十二年三月
內務省勅令第七號

明治二十二年(六月)勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前滿二十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接納稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接納稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云

第四條 賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及賃入地ノ地租及敷入共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接納稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族(公侯伯)ノ當主ヲモ包含ス

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコトアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス

第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

○貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者宮内省中兼職ヲ得サル部局

明治二十三年七月
宮内省令第二十號

- 侍從職
- 式部職
- 皇太后宮職
- 皇后宮職
- 東宮職
- 大膳職
- 主殿寮
- 主馬寮
- 主儀局
- 帝室會計審査局
- 皇族家職

○貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

明治二十三年十月
勅令第二百二十一號

朕貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊要ニ屬シ而シテ時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間効力ヲ有スヘシ

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審查スル爲ニ當任委員ヲ選舉スヘシ

第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選ハ貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス

第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルルノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

第九條 被告人期日内ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハザリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル爭訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條 補闕議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第

十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラズ

○議會及議員ノ保護

明治二十二年十一月法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ四ノ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○兩議院成立規則

明治二十三年十月勅令第百二十號

朕帝國議會初度ノ召集ニ際シ議院時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ必要ヲ認メ兩議院ノ爲ニ假ニ成立規則ヲ公布セシメ成立ノ際各議院ヲシテ遵依スル所アラシム

貴族院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充テタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二ニ依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齡ニ依リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス

第六條 議長ハ各部員ノ中ニ入ラス

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同

年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス
第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス
第十條 理事ハ部長ヲ輔ク部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ
第十一條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由テ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ
第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ書記官長ハ議員ヲシテ議長候補者ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ選記スヘシ
第五條 議員ハ點呼ニ應ジ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

第六條 投票終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サズ
第七條 投票終リタルトキハ書記官長ハ書記官ト俱ニ議員ノ而前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿テサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ
第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルコトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ
第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ
第十五條 議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長書記官長ハ議長及副議長ヲ著キタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十六條 議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

現行日本法律大令

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス
總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部
ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ
議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ
部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ
當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同
年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス
理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔少部長故障アルトキハ之ヲ代理
スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ
由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日
午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充テタルトキハ議席及
部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘ
シ

○貴族院令並貴族院伯子男爵議員選
舉規則及貴族院多額納稅者議員互
選規則施行ノ詔勅 明治二十三年二月二十七日
朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令並貴族院伯子男爵議員選

舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スル
コトヲ命ス但シ未ダ一般ノ地方制度ヲ進行セサル北海道沖繩
縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行
ノ効力ヲ及ボサス

貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ
員數ヲ選舉スヘシ

伯爵	十五人
子爵	七十人
男爵	二十人

○衆議院議員選舉法及貴族院令ニ稱
スル直接國稅ノ種目 明治二十二年三月
勅令第四十一號

朕衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目
ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左
ノ如シ

地租
所得稅

第二章 法例 公文式 官報

○法例 明治二十三年十月六日
法律第九十七號

朕法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一
月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

法例 第一條 法律ハ公布アリタル日ヨリ滿二十日ノ後ハ之ヲ遵守

現行日本法律大令

ス可キモノトス但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニアラ
ズ

第二條 法律ハ既往ニ遡ル効力ヲ有セス

第三條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ニ從フ

親屬ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

第四條 動産、不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ
然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國
法ニ從フ

第五條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ
默示ノ意思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム
當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ
其本國法ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最
大ノ關係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス

第六條 外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ爲ストキハ外國
人ノ能力ニ付テハ其本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立
ニ最モ有益ナル法律ヲ適用ス

第七條 不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ
生シタル地ノ法律ニ從フ

第八條 本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分
限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民
ハ其住所ノ法律ニ從フ若シ住所ノ知ラサルトキハ其居所ノ法
律ニ從フ

日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又ニ
簡以上ノ外國國民分限ヲ有スル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル
國ノ法律ニ從フ

第九條 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ

從フ但一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ其
本國法ニ從フコトヲ得

第十條 要式ノ合意又ハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フ
トキハ方式上有効トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルト
キハ此限ニ在ラス

第十一條 外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不
動產物權ヲ移轉スル行爲ニ係ルトキハ其不動産所在地ノ地
方裁判所長又他ノ行爲ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所
ノ地方裁判所長其證書ノ適法ナルコトヲ檢認シタル上ニ非
サレハ日本ニ於テ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第十二條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ方式ハ不動
產ニ係ルトキハ其所在地ノ法律、他ノ場合ニ於テハ其原因ノ
生シタル國ノ法律ニ從フ

第十三條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

裁判及ヒ合意ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ

第十四條 刑罰法其他公法ノ事項ニ關シ及ヒ公ノ秩序又ハ善
良ノ風俗ニ關スルトキハ行爲ノ地、當事者ノ國民分限及ヒ財
産ノ性質ノ如何ヲ問ハズ日本法律ヲ適用ス

第十五條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ牴觸シ又
ハ其適用ヲ免カレントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス

第十六條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カルル合意又ハ
行爲ハ無効トス

第十七條 判事ハ法律ニ不明、不備又ハ欠缺アルヲ口實トシテ
裁判ヲ爲スヲ拒絕スルコトヲ得ス

○公文式 明治十九年二月二十四日
勅令第一號

朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

公文式

第一 法律命令

- 第一條 法律命令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
第二條 法律命令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ
第三條 法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任大臣ト俱ニ之ニ副署ス其各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス(二十二年十二月二十八日勅令(第三百三十九號)ヲ以テ本條改正)
第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各官廳事務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム
第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル
第二 布告
第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣應到達

日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル
第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セザルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス
第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス
第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス
第三 印璽
第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス
國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス
第十五條 法律命令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス
第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス
四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス
第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス
○官報到達日數 明治十六年五月二十六日 大政官布達第十四號
今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム
到達日數
京都府 四日 大坂府 四日
神奈川縣 即日 兵庫縣 四日

現行日本法律大全

Table with 3 columns: Prefecture/County (e.g., 長崎縣, 埼玉縣), Date (e.g., 十一日, 即日), and Destination (e.g., 新潟縣, 群馬縣).

○奈良縣香川縣官報到達日數

官報到達日數奈良縣ハ大坂府ニ香川縣ハ愛媛縣ニ同シ

○北海道ニ施行セサル法律 明治十五年二月

今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被置候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セザルモノハ當分ノ内仍ホ從前ノ通タルヘシ(十九年一月第一號布告ヲ以テ函館札幌根室三縣ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置ク)

○官報發行 明治十六年五月十日 大政官布達第二十二號

今般太政官ニ於テ官報ヲ發行候ニ付左ノ條件相違候但シ發行ノ期ハ追テ可相違事
第一條 太政官中ニ「文書局」ヲ置キ官報編輯ノ事ヲ管掌セシム(十八年十二月第七號內閣通達)
(以テ文書局ヲ廢シ更ニ官報局ヲ置ク)
第二條 官報ハ別紙ニ記シタル事項ヲ掲載スヘキニ付各官廳ニ於テ主任ヲ定メ官報ニ掲載スヘキ書類ヲ取纏メ「文書局」ニ當テ送付スヘシ(上同)
第三條 各般ノ事項一時ニ掲載スルコト能ハサルトキハ其綴急ヲ量リ順次ニ掲載シ其大部ニ渉ル者ハ數日ニ分載スル等都テ「文書局長」ノ意見ニ任ス(同上)
第四條 官報ハ別紙ニ記シタル事項ヲ掲載スヘキニ付各官廳ニ付直チニ同局ニ就テ購求スヘシ(十九年六月閣令第十七號)
但官報購讀義務者ハ其代價ヲ本官廳ニ前納シ本官廳ハ之ヲ官報局ニ送付スヘシ(十八年五月大政官布達第十九號)
第六條 官廳ノ廣告其官報ヲ以テスルノ外同時他ノ新聞紙ニ

掲載スルハ各官廳ノ便宜ニ任ス但シ其官報ヲ以テスル者ハ
 廣告料ヲ要セス
 第七條 左ニ掲グル者ハ官報ヲ購読スヘキ義務ヲ有スルモノ
 トス但シ各官廳ハ其定額ヲ以テ購読スヘシ
 第一
 省院廳府縣裁判所警察署郡役所(十八年十二月第八十號内閣
 通達)參謀本部監軍本部近衛局鎮臺營所鎮守府憲兵本部
 及屯警官立學校
 第二
 上長官以上ノ武官奏任以上ノ文官(同上通達ヲ以テ文官ノ下
 及郡區長ノ四字ヲ刪ル)
 官報
 一 勳勳
 二 賞勳
 三 叙任
 四 官令
 布告
 布達
 達公示ヲ妨ケサル官省院廳及東京府ノ達
 告示官省院廳及東京府ノ告示
 官廳廣告
 雜件
 行幸行啓觀謁
 參事院回答并審理
 諸官廳何指令
 軍艦出入
 官吏轉職出入等

九 雜事
 外報
 公使領事報告
 外國新聞抄譯
 說明正誤
 十 學藝教育ニ關スル事項
 十一 農工商業及山林ニ關スル事項
 十二 統計報告
 十三 氣象報告
 十四 氣象報告
 十五 漁船出入
 十六 廣告
 官報定價
 一〔壹部定價 郵送部送
 〔但シ一箇月分定價金七十五錢〕 金三錢〕
 ○官報定價ヲ定ム明治二十一年十二月廿七日
 内閣訓令
 明治十六年五月太政官第二十二號達官報定價ハ明治二十二年一
 月ヨリ一箇月金五拾錢一部金貳錢ト改ム
 ○官報ニ記載スヘキ事項ハ官報局長
 ノ斟酌ニ任ス明治十六年六月廿九日
 太政官達第二十九號
 本年五月第二十二號達中官報ニ記載スヘキ事項ハ其概目ヲ示ス
 モノニ付實際施行ニ臨ミ其欄次節目ハ總テ「文書局長」ノ斟酌
 ニ任ス此旨相達候事(十八年十二月第七十六號内閣達ヲ
 以テ文書局長ノ職官報局長ヲ置ク)
 ○官報報告主任官明治十八年十二月
 内閣第八十一號達

官報ノ報告ヲ徹達精確ナラシムル爲メ其報告主任官ヲ精選シ
 常ニ官報局ト氣脈ヲ相通シ事務ノ利便ヲ計ルヘシ
 ○官報代價送納方法明治十九年六月
 逓信省令第十二號
 官報賣捌代價送納ノ方法左ノ通相定ム
 一各官廳ニ於テ購読スル官報代價ハ仕掛切符又ハ送金手形ヲ
 以テ東京郵便局ヘ送付スルモノトス
 ○官報購読義務ヲ有スル官吏官報代
 價納付方改正明治二十三年三月二十六日
 内閣訓令第三號
 官報購讀ノ義務ヲ有スル官吏ニシテ官報局ヨリ直買スル官報
 ノ代價ハ從來所管ノ官廳ヘ前納ノ手續ノ處來ル四月一日以降
 ハ前月中ニ一箇月分ヲ(數月分ノ代價ヲ前納)官報局ヘ納付スヘシ若
 シ之ヲ怠ル者アルトキハ官報局長直ニ其旨ヲ所管ノ長官ニ通
 知スヘシ
 第三章 皇室典範明治二十二年二月
 ○皇室典範明治二十二年二月
 天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ
 以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナ
 ルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成
 典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮
 詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所ア
 ラシム
 第一章 皇位繼承

等一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼
 承ス
 第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ
 第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子
 孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例
 ス
 第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ
 皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル
 第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ
 第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ
 子孫ニ傳フ
 第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於
 テ最近親ノ皇族ニ傳フ
 第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長
 ヲ先ニシ幼ヲ後ニス
 第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事
 故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼
 承ノ順序ヲ換フルコトヲ得
 第二章 臨卞即位
 第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク
 第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ
 第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト
 明治元年ノ定制ニ從フ
 第三章 成年立后立太子
 第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス
 第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太子トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ヲスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫アツサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 內親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從テ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アツサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サルハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇太孫ニ至ルマテ皇男ヲ親王女子ヲ內親王トシ五世以下ハ男ヲ女王ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王ヲタル者ニ特ニ親王內親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮內大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮內ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後

見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル皇族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮內大臣之ニ副書ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラズ但シ特旨ニ係リ仍內親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮內大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮內省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訴訟ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族遺產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ內大臣樞密院議長宮內大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シ議長ヲラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王內親王嗣女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

第二類 官制及勳章位記

第一章 官制 官職 俸給 旅費

任免 服務 懲罰

第一款 官制

官制改正詔勅

朕惟フニ經國ノ要ハ官其制ヲ定メテ機關各其所ヲ得ルニ在リ内閣ハ萬機親裁專ヲ統一簡捷ヲ要スヘシ今其組織ヲ改メ諸大臣ヲシテ各其重責ニ當ラシメテ統フルニ内閣總理大臣ヲ以テシ以テ從前各省太政官ニ隸屬シ上申下行經由繁複ナルノ弊ヲ免レシム乃各部ニ至テハ官守ヲ明カニシ以テ濫弊ヲ除キ選敘ヲ精クシ以テ才能ヲ待テ繁文ヲ省キ以テ淹滯ヲ通シ冗費ヲ節シ以テ急要ヲ舉ク規律ヲ嚴ニシ以テ官紀ヲ肅ニシ徐クニ以テ施政ノ整理ヲ圖ラント是レ朕カ諸大臣ニ望ム所ナリ中興ノ政一タヒハ進ミ一タヒハ退クヘカラス華ヲ去リ實ヲ務メ綱舉リ目張リ永遠繼クヘカラス諸臣其レ朕カ意ヲ體シテ奉行スル所アレ

明治十八年十二月二十三日

奉勅

内閣總理大臣 伊藤博文

○奏議

太政大臣 奏議

臣朝台鼎ノ重キヲ荷ヒ日夕憂懼以テ報効ヲ圖ル嚮キニ親シク陛下内閣ヲ改制スルノ旨ヲ承ク幸ニ微衷ヲ披キテ以テ

聖聽ヲ仰クノ機ヲ得タリ竊ニ思フ今日ノ事前途猶遠シ立憲ノ基ヲ建テ以テ中興ノ業ヲ終ヘントセハ區々前轍ニ因習スルノ能ク成スヘキ處ニ非サルナリ維新ノ初

陛下幼冲臣寵擢ヲ叨リニシ大政ヲ董督ス實ニ己ムコトヲ得サルニ出ツ蓋シ大寶ノ令庶ノ尙書省ニ倣ヒ太政官ヲ以テ八省ヲ統ヘ八省ハ左右辨ニ分屬シ官符ヲ得テ施行ス明治二年職員令ヲ定メ六省ヲ置クニ當テ仍大寶ノ制ニ依リ太政官ヲ以テ諸省ノ冠首トシ諸省ヲ以テ隸屬ノ分官トス此レヨリノ後諸省ハ專ヲ指令テ太政官ニ仰キ太政官ハ批テ下シテ施行セシム凡ソ文書ノ上奏スル者ハ皆太政官ニ經由シ往復ノ間省ノ察ニ於ケルニ均シ此レ蓋シ一時ノ權宜ニシテ獨リ親政統一ノ體ヲ得サルノミナラス亦各省長官ノ責任ヲ輕クシ徒ニ曠滯ノ弊ヲ爲ス者ナリ方ニ今

陛下聖德日ニ躋リ大政ヲ綜攬シ事ヲ内閣ニ視諸宰臣ヲ引見シ文武ノ務親シク奏議ヲ聽キ玉フ而シテ中外ノ事盤錯多端官制宜シク更張スヘク財政宜シク節度ニ就カシムヘク要務ノ經畫施措スヘキ者一ニシテ足ラス此レ宜シク時宜ヲ斟酌シ古今ヲ變通シ太政官諸省ニ冠首タルノ制ヲ改メ併セテ太政官諸職ヲ廢シ内閣ヲ以テ宰臣會議

御前ニ事ヲ奏スルノ所トシ萬機ノ政專ヲ簡捷敏活ヲ主トシ諸宰臣入テハ大政ニ參シ出テハ各部ノ職ニ就キ均シク陛下ノ手足耳目ナリ而シテ其中一人ヲ撰ヒ專ラ中外ノ職務ニ當リ旨ヲ承クテ宣奉シ以テ全局ノ平衡ヲ保持シ以テ各部ノ統一ヲ得セシムヘシ此レ乃

祖宗簡實ノ政親裁ノ體制ニシテ立憲ノ義亦是ニ外ナラス此ノ如クニシテ綱紀振張シ各部宰臣均シク其責ニ任シ用テ節

シ實ヲ務メテ立國ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ天下ト之ヲ公ニスヘシ宇内各邦ト之ヲ競フヘク

陛下中興ノ大業始メテ成緒ヲ終ヘ 徵臣犬馬ノ勞亦與リテ餘榮アラシク若シ其人ニ至テハ必

陛下ノ聖鑑ニ由リ大局ニ明達シ時務ニ精練ナル者ヲ得テ以テ之ニ任スヘシ而シテ中外多端ノ機務ニ當ルカ如キハ實ニ臣カ堪フル處ニ非サルナリ伏テ願クハ

陛下臣カ誠ヲ察シ今ノ時ニ及テ内閣ノ組織ヲ改メ併セテ臣カ職ヲ解キ臣ヲシテ獎勵贊襄ノ微忠ニ負カサシメハ獨臣カ幸ノミニ非サルナリ言非常ナルカ如クニシテ實ニ時宜ノ己ムコトヲ得サルニ出ツ惟テ

陛下之ヲ斷シ玉ヘ謹奏

明治十八年十二月 太政大臣公爵三條實美

○内閣組織 明治十八年十二月 太政官達第六十九號

今般太政大臣左右大臣參議各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ内閣總理大臣及宮内外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ置ク

内閣總理大臣及外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ諸大臣ヲ以テ内閣ヲ組織ス

○内閣官制 明治二十二年十二月 勅令第三百三十五號

朕茲ニ内閣官制ヲ裁可ス

内閣官制 第一條 内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス

第二條 内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承クテ行政各部ノ統一ヲ保持ス

第三條 内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得

第四條 凡ソ法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署スヘシ勅令ノ各省專任ノ行政事務ニ屬スル者ハ主任ノ各省大臣之ニ副署スヘシ

第五條 左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ

- 一 法律案及豫算決算案
- 二 外國條約及重要ナル國際條件
- 三 官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令
- 四 諸省ノ間主管權限ノ爭議
- 五 天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
- 六 豫算外ノ支出
- 七 勅任官及地方長官ノ任命及進退

其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第六條 主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス内閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條 事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リテ之内閣ニ下付セラレ、ノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條 内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ク其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條 各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時攝任シ又ハ命

ヲ承ク其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條 各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員ニ列セシメラル、コトアルヘシ

○賞勳局官制 明治二十三年九月 勅令第三百九號

朕賞勳局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賞勳局官制

第一條 賞勳局ハ内閣ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 勳位勳章及年金ニ關スル事項
- 二 記章褒章其他賞件ニ關スル事項
- 三 外國ノ勳章記章受領及佩用ニ關スル事項

第二條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

副總裁 一人

議定官 十五人以内

書記官 二人

屬 十六人

第三條 總裁ハ勅任一等トス局中一切ノ事務ヲ統督シ賞勳會議ノトキハ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

第四條 副總裁ハ勅任二等トス總裁ヲ佐ケ局中ノ事務ヲ提掌シ總裁事故アルトキハ之ヲ代理ス

賞勳會議ノトキハ議定官ノ席ヘ列ス

第五條 議定官ハ皇族及大臣陸海軍將官其他勅任官勅任官ニシテ勳一等以上ノ者ヲ以テ之ニ勅任ス但シ俸給ヲ支與セス

第六條 議定官ハ勳位勳章及年金ノ敘賜又ハ視察ノ當否ヲ議

定ス

賞勳會議ノトキ總裁副總裁事故アレハ首席ノ議定官議長ト爲リ議事ヲ整理ス

第七條 書記官ハ委任四等以上トス總裁ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス

第八條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條 奏任官ノ進退ハ總裁之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

○法制局官制 明治二十三年六月 勅令第九十一號

朕法制局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法制局官制

第一條 法制局ハ内閣ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申ス
- 二 法律命令ノ新定廢止改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ内閣ニ上申ス
- 三 各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ内閣ニ上申ス
- 四 前項ニ掲グルモノ、外内閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申ス

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人 勅任

部長 二人 勅任 (又ハ委任一等) (二十四年四月勅令第四十號ヲ以テ三十八人ヲ二人ト改メ同年七月同第八十六號ヲ以テ又ハ委任一等ノ六字ヲ削除ス)

第二類 第一章 第一款 官制

參事官 十八 奏任 (二十四年四月勅令第四十號)
 書記官 二人 奏任 (二十四年四月勅令第四十號)
 試補 六人 兼本シム
 屬 二十人 判任 (同上勅令ヲ以テ三十人ヲ二十八ト改ム)
 第三條 奏任官ノ進退ハ長官之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專行ス
 第四條 法制局ニ二部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(同上勅令)
 第一部 内務外務軍制教育及帝國議會ニ關スル事項
 第二部 財務勸業運輸通信及民法商刑法民事訴訟法刑事訴訟法恩赦其他司法ニ關スル事項
 第五條 長官ハ法制局ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ部長參事官ヲ統轄ス
 第六條 長官ハ各部ノ分掌ニ拘ラス臨時ニ調査委員ヲ命シ又ハ書記官ヲシテ議案ヲ調製セシムルコトヲ得
 第七條 長官故障アルトキハ席次ニ依リ部長ヲ指定シテ長官ノ事務ヲ代理セシムヘシ
 第八條 部長ハ各部ノ事務ヲ提掌シ部會議ヲ整理ス
 第九條 法制局ニ於テ要用アルトキハ總會議ヲ開キ部長參事官合同會議シ長官議事ヲ整理シ主査ノ參事官又ハ書記官職案ヲ辨明ス
 長官ハ臨時ニ部長ノ一人ヲ指定シテ議事整理ノ任ヲ代理セシムルコトヲ得
 第十條 參事官ハ第二條ニ掲ケルモノ、外各廳ノ高等官ヨリ兼任セシムルコトヲ得(同上)
 第十一條 法制局ニ於テ要用アルトキハ各省ノ主任官ヲ呼出

スコトヲ得
 附 則 (二十四年七月廿四日勅令)
 (第八十六號ヲ以テ追加ス)
 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○文官試驗委員會官制 明治二十三年三月 勅令第四十八號

朕文官試驗委員會官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 文官試驗委員會官制
 第一條 高等試驗ヲ施行スル爲ニ文官高等試驗委員長及高等試驗委員ヲ置キ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬セシム
 第二條 高等試驗委員長及高等試驗委員ハ内閣總理大臣臨時各官廳ノ勅任官及官立學校ノ教官ヨリ選定シ奏請裁可ノ後内閣ニ於テ之ヲ命ス
 第三條 高等試驗委員長及高等試驗委員ニハ其事務ノ繁簡ニ從ヒ貳百圓以内ノ手當ヲ給ス
 第四條 高等試驗委員長ハ高等試驗委員ヲ監督シ高等試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
 第五條 高等試驗委員ハ高等試驗委員長ノ監督ニ屬シ其招集ニ應ジ高等試驗ノ事ヲ掌ル
 第六條 高等試驗ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ書記ヲ置キ内閣ニ奉職スル判任官ヲ以テ之ニ充ツ
 第七條 普通試驗ヲ施行スル爲ニ各中央官廳及各地地方官廳ニ於テ普通試驗委員長及普通試驗委員ヲ置ク
 第八條 中央官廳ノ普通試驗委員長及普通試驗委員ハ長官其官廳ノ高等官ヨリ選任スヘシ
 地方官廳ノ普通試驗委員長及普通試驗委員ハ長官其官廳ノ

第二類 第一章 第一款 官制

官吏及府縣立學校ノ教官ヨリ選任スヘシ
 第九條 普通試驗委員長ハ普通試驗委員ヲ監督シ普通試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
 第十條 普通試驗委員ハ普通試驗委員長ノ監督ニ屬シ其招集ニ應ジ普通試驗ノ事ヲ掌ル
 第十一條 普通試驗ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ書記ヲ置キ各官廳ニ奉職スル判任官ヲ以テ之ニ充ツ
 ○内閣所屬職員官制 明治二十三年六月 勅令第四十四號
 朕内閣所屬職員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 内閣所屬職員官制
 第一條 内閣所屬ノ職員左ノ如シ
 書記官長
 恩給局長
 記録局長
 統計局長
 官報局長
 會計局長
 書記官
 内閣總理大臣秘書官
 恩給局審査官
 【技師】(同上ヲ以テ本項ヲ追加シ同年七月九日勅令第八十五號ヲ以テ削除ス)
 【試補】(二十四年勅令第八十號ヲ以テ削除ス)
 【技師試補】(二十四年勅令第三十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ同年勅令第八十五號ヲ以テ削除ス)

技手

第二條 書記官長ハ勅任トシ其他ノ高等官ハ奏任トス(二十四年九月九日勅令第三十九號ヲ以テ本條改正)
 第三條 書記官長ハ命ヲ内閣總理大臣ニ承テ機密ノ文書ヲ管掌シ内閣ノ庶務ヲ統理シ及屬以下ノ任免ヲ專行ス
 第四條 各局長ハ事ヲ内閣總理大臣ニ承ケ又ハ内閣書記官長ノ指揮ニ從ヒ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統轄ス
 第五條 恩給局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 恩給及扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ノ審査並裁決ニ關スル事項
 二 恩給及扶助料ノ支給ニ關スル事項
 第六條 記録局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 大日本帝國憲法及法律勅令ノ原本ノ保存並内閣記録ノ編纂及出納ニ關スル事項
 二 内閣所屬圖書ノ類別購買保存及出納並其目錄調製ニ關スル事項
 三 内閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項
 第七條 統計局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 諸般ノ統計表編製ニ關スル事項
 二 統計材料ノ樣式ニ關スル事項
 三 統計材料ノ徵集ニ關スル事項
 四 各官廳統計主任ノ招集及會議ニ關スル事項
 五 内外統計表ノ交換ニ關スル事項
 第八條 官報局長ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 官報ノ編輯印刷發賣及配送ニ關スル事項
 二 官報ニ登載スヘキ外國文書ノ翻譯ニ關スル事項

現行日本法令大全

三 法令全書ノ編輯及發賣ニ關スル事項
 四 官報及法令全書ノ諸收入並納付ニ關スル事項
 第九條 (同上勅令)
 第十條 書記官ハ左ノ事務ヲ掌ル專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス (同上勅令)
 一 詔勅法律命令ノ淨寫及發布ニ關スル事項
 二 公文ノ査閱起草及受授ニ關スル事項
 三 機密文書ノ保存ニ關スル事項
 四 官印ノ管守ニ關スル事項
 五 各廳商等官履歷ニ關スル事項
 六 内閣ノ會計ニ關スル事項
 第十一條 内閣總理大臣秘書官ハ大臣官房ニ關スル事務ヲ掌ル專任秘書官ハ二人ヲ以テ定員トス
 第十二條 恩給局審査官ハ恩給局ノ事務ヲ掌ル專任審査官ハ二人ヲ以テ定員トス
 第十三條 技師、試補及技師試補ハ各二人ヲ以テ定員トス (同上勅令ヲ以テ)
 第十四條 屬ハ百三十人ヲ以テ定員トス (二十四年四月勅令第三十三號ヲ以テ百五十人ト改メ、三十年ト改メ)
 第十五條 技手ハ五人ヲ以テ定員トス
 第十六條 内閣所屬ノ高等官ハ本務ノ外内閣各局ノ事務ヲ兼勤スルコトヲ得 (同上勅令)
 附則 (同上勅令)
 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○樞密院官制及事務章程

明治二十一年四月勅令第二十二號

朕元勳及練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス
 第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人書記官長一人書記官五人ヲ以テ組織ス (二十三年十月七日勅令第二百二十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ奏任トス
 第四條 何人ヲリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス
 第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼テシムルコトヲ得
 第二章 職掌
 第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス (同上勅令ヲ以テ本條並ニ各項共改正ス)
 一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項
 二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義
 三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令
 四 列國交渉ノ條約及約束
 五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項
 六 前諸項ニ掲ケルモノ、外臨時ニ諮詢セラレタル事項

現行日本法令大全

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ
 第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タルト雖モ施政ニ干與スルコトナシ
 第三章 會議及事務
 第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ
 第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議長ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲シムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス
 第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル
 第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス
 副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス
 第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ事務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス
 書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス
 前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辯及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅令ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述ブ
 第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス
 第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス
 第四條 議長ハ樞密院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シ之ヲ審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム
 議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ
 第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ
 第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遷延スルコトヲ許サス
 内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日

ヲ限定スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ登錄スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第三會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整理スヘシ

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人ヲリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スルコトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲シシム(同上ヲ以テテ)

議決ノ結果ハ議長之ヲ宣明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セサルトキハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事

筆記理由書又ハ要領書ニ記入セラレシコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

○樞密院ニ屬テ置ク明治二十二年五月勅令第四十二號

樞密院ニ屬テ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樞密院ニ屬テ置ク判任トス

○宮内省官制明治二十二年七月宮内省令第十號

宮内省官制ヲ改定スルコト左ノ如シ

宮内省官制

第一條 宮内大臣ハ皇室ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ所部各官ヲ統督シ兼テ華族ヲ監督ス

第二條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタルモノヲ除クノ外勅ヲ奉シテ皇室ニ關スル諸法規ヲ制定施行スルコトヲ得但法律勅令ニ牴觸スルコトヲ得ス

第三條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタル主務及前條法規ニ關シ施行細則ヲ定ムルコトヲ得但其重要ナルモノハ裁可ヲ經可シ

第四條 宮内大臣ハ例規ニ依リ宮儀祭典行幸啓其他主任ニ屬スル皇室事務ニ關シ臣民ニ命令告示スルコトヲ得

第五條 宮内大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依リ救恤褒賞

贈賜ノ事ヲ施行ス

第六條 宮内大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得又次官事故アルトキ及所部各部局長缺員若クハ事故アルトキハ裁可ヲ經テ所部高等官ニ其代理ヲ命スルコトヲ得

第八條 宮内大臣ハ次官及所部各部局長ニ其事務ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得

第九條 宮内大臣ハ所部各部局内ニ各課ヲ廢置分合シ及其職務規程ヲ定ムルコトヲ得

第十條 宮内大臣ハ所部委任官ノ進退ハ之ヲ上奏シ判任官ノ進退及委任官以下俸給定限内ノ増減ハ之ヲ奉行ス准官モ亦同シ

第十一條 宮内大臣ハ所部各官定員内ニ於テ委任官試補判任官見習ヲ置クコトヲ得准官モ亦同シ

第十二條 宮内大臣ハ裁可ヲ經ルニ非ザンハ官制定限外ニ所部高等官ヲ増加シ又ハ兼任ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十三條 宮内大臣ハ皇室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅委任官又ハ華族ニ委員ヲ命スルコトヲ得其所部外ニ渉ル者ハ豫メ該長官ノ承諾ヲ受ク可シ

第十四條 宮内大臣ハ皇室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ補助員顧問評議員ヲ置クコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フ可シ

第十五條 宮内大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ資格ヲ定メ華族ニ勤務ヲ命スルコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ上奏ス可シ

第十六條 宮内大臣ハ豫算金額内ヲ以テ所部官吏及委員補助員顧問評議員勤務華族ニ賞與又ハ報酬ヲ爲スコトヲ得其賞與ノ委任以上及同等ノ待遇ニ屬スルモノハ上奏ス可シ

第十七條 宮内大臣ハ旨ヲ奉シテ皇族ノ叙勳ヲ賞勳局總裁ニ示命ス可シ又所部官吏ノ叙勳ハ賞勳局總裁ニ申牒ス可シ

第十八條 宮内大臣ハ例規ニ依リ文武官宮内官及華族士民ノ叙位ヲ上奏及奉宣ス

第十九條 宮内大臣ハ事務ノ現況ニ依リ所部官吏ニ非職休職ヲ命シ又ハ復職セシムルコトヲ得其勅任官ニ係ルモノハ裁可ヲ請フ可シ

第二十條 宮内大臣ハ例規ニ照シ所部官吏及華族ヲ懲戒スルコトヲ得

第二十一條 宮内大臣ハ毎年二月後年度ノ收支豫算ヲ調製シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム可シ但已ムテ得サルノ事故アリテ臨時増額又ハ別途支出ヲ要スルコトアルトキハ裁可ヲ請フ可シ

第二十二條 宮内大臣ハ毎年八月前年度ノ收支結算ヲ了シ之ヲ上奏ス可シ

第二十三條 宮内大臣ハ帝室會計審査ノ實務ニ關涉スルコトヲ得ス

第二十四條 宮内省ニ宮内次官一人ヲ置ク勅任一等トス宮内大臣ヲ輔クテ省務ヲ管理ス又大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事務ハ之ヲ專行ス

第二十五條 宮内省ニ宮内書記官六人ヲ置ク委任トス宮内大臣及次官ノ命ヲ承ク省務ヲ掌理ス

但親王ニ專屬スル書記官ヲ置クハ此限ニ在ラス

第二十六條 宮内大臣官房ニ左ノ職員ヲ置キ官房ノ庶務ヲ管

<p>理ス</p> <p>宮内大臣秘書官 二人 奏任</p> <p>大臣ニ專屬シテ文書往復其他官房内ノ庶務ヲ掌理ス但省務ノ現況ニ依リ書記官又ハ各部局ノ事務ヲ補助セシムルコトアル可シ</p> <p>宮内局 判任</p> <p>第二十七條 宮内省ニ内事外事調査ノ三課ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ掌理ス</p> <p>内事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p> <p>内事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス</p> <p>内事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p> <p>課務ヲ掌理ス</p> <p>外事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p> <p>外事ニ屬スル事務ヲ掌理シ課員ヲ監督ス</p> <p>外事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p> <p>課務ヲ掌理ス</p> <p>調査課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p> <p>帝室ニ關スル法令法規及財産財務ニ關スル文案ヲ起草審査シ兼テ報告統計ノ事ヲ掌理シ課員ヲ監督ス</p> <p>調査課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補</p>	<p>課務ヲ掌理ス</p> <p>宮内局 判任</p> <p>第二十八條 宮内省ニ左ノ各部局ヲ設ケ事務ヲ分管ス</p> <p>侍從職</p> <p>式部職</p> <p>皇太后宮職</p> <p>皇后宮職</p> <p>内藏寮</p> <p>御料局</p> <p>符位局</p> <p>大膳職</p> <p>主殿寮 附皇宮警察署</p> <p>圖書寮</p> <p>内匠寮</p> <p>主馬寮</p> <p>諸陵寮</p> <p>侍醫局</p> <p>主獵局</p> <p>調度局</p> <p>帝室會計審査局</p> <p>第二十九條 侍從職ニ左ノ職員ヲ置キ常侍奉仕ノ主管ニ屬スル御服御物ヲ管掌ス</p> <p>侍從長 一人 親任</p> <p>職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス</p> <p>侍從 十五人 勅任二等又ハ奏任四等以上</p> <p>常侍奉仕シ御服御物ヲ分掌ス</p>
---	---

<p>侍從試補 三人 奏任五等六等</p> <p>掌侍從ニ亞ク 判任</p> <p>第三十條 式部職ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ祭儀典式及雅樂ノ事ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル</p> <p>但式部官掌典ハ名譽職ヲ置クコトヲ得</p> <p>式部長 一人 勅任</p> <p>職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス</p> <p>式部次長 一人 勅任二等</p> <p>職務ヲ掌理ス</p> <p>式部主事 二人 奏任</p> <p>庶務ヲ掌理ス 式部官ヨリ兼任</p> <p>式部官 十五人 奏任</p> <p>儀式ノ務ニ服ス 判任</p> <p>掌典長 一人 勅任</p> <p>祭典ヲ掌ル 九人 奏任</p> <p>祭典ニ從事ス 判任</p> <p>掌典補 一人 准奏任三等四等</p> <p>雅樂部長 式部官掌典ノ内ヨリ兼補</p> <p>樂部ヲ掌理シ部員ヲ監督ス</p> <p>雅樂部副長 一人 准奏任五等六等</p> <p>掌部長ニ亞ク</p> <p>伶人長 准判任</p> <p>伶人 准判任</p>	<p>伶員 等外</p> <p>樂師長 准判任</p> <p>樂師 准判任</p> <p>樂手 准判任</p> <p>樂生 等外</p> <p>第三十一條 皇太后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服用度營繕及主管ニ屬スル會計ヲ掌ル</p> <p>皇太后宮大夫 一人 勅任</p> <p>職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス</p> <p>皇太后宮亮 一人 奏任</p> <p>職務ヲ掌理ス</p> <p>皇太后宮屬 判任</p> <p>宮丁 等外</p> <p>第三十二條 皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事及内廷ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル</p> <p>皇后宮大夫 一人 勅任</p> <p>職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス</p> <p>皇后宮亮 一人 奏任</p> <p>職務ヲ掌理ス 判任</p> <p>皇后宮屬 判任</p> <p>第三十三條 内藏寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室經費及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス</p> <p>内藏頭 一人 勅任</p> <p>寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス</p> <p>内藏助 一人 奏任</p> <p>寮務ヲ掌理ス</p>
---	---

<p>内務局 第三十四條 御料局ニ左ノ職員ヲ置キ世傳御料及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス 御料局長 一人 勅任 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス 御料局主事 三人 奏任 局務ヲ掌理ス 御料局理事 五人 奏任<small>(二十三年六月第八號宮内省令ニ依リテ四人ヲ五人ニ改ム)</small> 支廳長ニ任ス其職制ハ別ニ之ヲ定ム 御料局屬 御料局技師 二十二人 奏任<small>(二十三年九月第十七號宮内省令ニ依リテ十八人ヲ二十二人ニ改ム)</small> 御料地ノ實業ニ従事ス 御料局技手 判任 御料局技手補 判任四等<small>(二十三年七月第十三號宮内省令ニ依リテ六等ヲ四等ニ改ム)</small> 御料局監守 准判任四等以下<small>(二十三年六月第十四號宮内省令ニ依リテ六等ヲ四等ニ改ム)</small></p>	<p>華族懲戒審理ノ事ヲ掌ル 第三十六條 大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御饗宴及其器具ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル 但皇太后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス 大膳大夫 一人 勅任二等又ハ奏任一等 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス 大膳亮 一人 奏任二等以下 職務ヲ掌理ス 大膳屬 判任 膳部長 准判任三等以上 膳部副長 准判任三等四等<small>(二十三年七月第十三號宮内省令ニ依リテ四等以下ニ改ム)</small> 膳部 准判任四等以下<small>(同上宮内省令ニ依リテ六等ヲ四等ニ改ム)</small> 膳部補 等外</p>
<p>第三十五條 爵位局ニ左ノ職員ヲ置キ爵位及華族ニ關スル事務ヲ管理ス 爵位局長 一人 勅任 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス 爵位局主事 三人 奏任 局務ヲ掌理ス 爵位局屬 判任 爵位局審理官 臨時省中高等官ヨリ兼補</p>	<p>第三十七條 主殿寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮及其附屬物件並ニ鎖鑰洒掃鋪設ニ關スル事務ヲ管理シ兼テ皇宮警察署ヲ統轄ス 但侍從職皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス 主殿頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス 主殿助 二人 奏任二等以下 寮務ヲ掌理ス但一人ハ京都出張所長ニ補ス 主殿屬 判任 皇宮警察長 一人 奏任二等三等</p>

<p>宮殿離宮ノ守門防火警察ノ事ヲ掌理シ部下ヲ監督ス 皇宮警察次長 一人 奏任四等以下 署務ヲ掌理ス 皇宮警部 判任五等以上<small>(二十三年六月第十四號宮内省令ニ依リテ八等以上ニ改ム)</small> 皇宮警部補 判任六等以上<small>(同上省令ニ依リテ九等ヲ六等ニ改ム)</small> 皇宮警手 等外 舍人 准判任四等以下<small>(同上省令ニ依リテ六等ヲ四等ニ改ム)</small> 内舍人 等外 仕人 等外</p>	<p>内匠局 第三十八條 圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室ノ圖書記録ヲ保管シ皇統譜皇族簿籍ニ關スル事務ヲ管理ス 圖書頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス 圖書助 一人 奏任二等以下 寮務ヲ掌理ス 圖書屬 判任</p>
<p>第三十九條 内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭園及廳舎ノ土木ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル 但皇太后宮職ノ主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス 内匠頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス 内匠助 一人 奏任二等以下 寮務ヲ掌理ス</p>	<p>第四十條 主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬及牧場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル 主馬頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス 主馬助 一人 奏任二等以下 寮務ヲ掌理ス 主馬屬 判任 車馬監 一人 奏任三等以下 車馬乘具ヲ管守シ馬匹飼養調習醫療ノ事ヲ監督ス 調馬師 二人 奏任四等以下 乘馬調習ニ従事ス 馬醫師 一人 奏任四等以下 馬匹醫療ニ従事ス 主馬寮技師 二人 奏任 牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ従事ス 馬醫 判任 主馬寮技手 判任 調馬手 准判任 馭者 准判任 掌車 准判任</p>
<p>第四十一條 諸陵寮ニ左ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル</p>	

諸陵頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
 諸陵助 一人 奏任二等以下
 寮務ヲ掌理ス
 諸陵屬 判任
 守長 等外
 守部 等外
 第四十二條 侍醫局ニ左ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛生ニ關スル事務ヲ管理ス
 侍醫局長 一人 勅任侍醫ヨリ兼任
 侍醫 十六人 勅任二等又ハ奏任
 診候醫藥衛生ニ從事ス
 侍醫局主事 三人 奏任ヨリ兼任
 局務ヲ掌理ス
 醫員 判任
 藥劑師長 一人 奏任四等以下 (二十三年十二月二號ヲ以テ追加)
 藥品製煉鑑査及調劑ヲ掌理ス
 藥劑師 判任
 侍醫局屬 判任
 第四十三條 主獵局ニ左ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 但主獵官ハ名譽職トス
 主獵局長 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス

主獵局主事 一人 奏任二等以下
 局務ヲ掌理ス
 主獵官 十人 勅任二等又ハ奏任
 狩獵ニ從事ス
 主獵局屬 判任
 主獵局監守長 准判任
 主獵局監守 等外
 第四十四條 調度局ニ左ノ職員ヲ置キ御服御物及宮中需用物品被服購買修繕運搬ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル兼テ省中洒掃ノ事ヲ掌ル
 但皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
 調度局長 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 調度局主事 一人 奏任二等以下
 局務ヲ掌理ス
 調度局屬 判任
 第四十五條 帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ財計ヲ監査ス
 帝室會計審査局長 一人 勅任
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 帝室會計審査局主事 一人 奏任ヨリ兼任
 帝室會計審査官 五人 奏任
 帝室ノ財計審査ヲ掌ル
 帝室會計審査局屬 判任
 第四十六條 前條々各官勅奏判ノ等級ニ規定ナキモノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ一等ヨリ六等ニ至リ判任ハ一等ヨリ

六等ニ至ルモノトス准官モ亦同シ但俗人長俗人藥師長樂師樂手監守長ハ等級ヲ設クス (二十三年七月第十三號宮内省令)
 第四十七條 省中各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル准官モ亦同シ
 第四十八條 奏任官二等三等ハ每等在職五年四等五等六等ハ每等在職三年ヲ除ユルニ非サシハ陸軍スルコトヲ得ス其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サシハ其期ヲ除ユルコト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ (二十三年六月第四號宮内省令)
 第四十九條 判任官二等三等ハ每等在職四年四等五等六等ハ每等在職二年ヲ除ユルニ非サシハ陸軍スルコトヲ得ス但其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サシハ定期ヲ除ユルコト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ (二十三年七月第十三號宮内省令)
 第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三表ノ定ムル所ニ依ル (二十三年六月第四號宮内省令) 但表甲中屬員藥劑師樂師典醫等ハ別紙乙丙中屬員中御料局監守主事寮内舍人ノ官等俸給ヲ改メ同年七月第十三號宮内省令ニ依リテ改メ
 第五十一條 勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸ヲ賜フコトアル可シ
 第五十二條 奏任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ハ上奏ニ依リ其俸六分ノ一マテ増賜スルコトアル可シ
 第五十三條 判任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ三年ヲ除ヘ勞績拔群顯著ナル者ハ漸次百圓マテ増賜スルコトアル可シ
 第五十四條 等外ハ一年ヲ除ユルニ非サシハ増給スルコトヲ得ス但其每給定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サシハ増給スルコトヲ得ス

第五十五條 各部局長ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内奏任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得
 第五十六條 次官各部局長及書記官ハ皆命ヲ大臣ニ承ルモノトシ其他各部局員ハ皆命ヲ主務上官ニ承ルモノトシ其直ニ旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ命ヲ承ルトト問ハス其主任ノ事務ニ付テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ
 但經常旨ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ委任ヲ承ク可キ條項及其處務規程ハ別ニ之レヲ定ム
 第五十七條 第十一條ノ奏任官試補判任官見習ハ試験ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内試験ヲ要セス
 第五十八條 試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ除ユルニ非サシハ本官ニ任スルコトヲ得ス但其本官ニ任スルハ試補ハ四等以下トシ見習ハ五等以下トス
 第五十九條 各官應ニ於テ曾テ滿五年以上奏任官ヲ奉職セシ者ハ前條ノ例ニ依ラス試験ヲ經テ直ニ本官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ
 第六十條 各部局長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ備員ヲ置クコトヲ得其給額ハ本官俸ヲ除ユルコトヲ得ス准官モ亦同シ
 第六十一條 各部局長ハ前條ノ外雜役ニ供スル備員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得
 第六十二條 省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ供スル備員ノ定員ハ宮内大臣之ヲ定ム可シ

宮内省高等官俸給表		親任官		奏任官	
官等	俸給	親任官	奏任官	俸給	俸給
第一級俸	六千圓	一等	二等	三千圓	二千四百圓
第二級俸	五千五百圓	二等	三等	二千八百圓	二千二百圓
第三級俸	五千圓	三等	四等	二千二百圓	千六百圓
第四級俸	四千五百圓	四等	五等	千八百圓	千二百圓
第五級俸	四千圓	五等	六等	千六百圓	千圓
第六級俸	三千五百圓	六等		千四百圓	千圓
第七級俸	三千圓			千二百圓	千圓
第八級俸	二千五百圓			千圓	八百圓

- 一 俸額ハ親任官四級勅任官每等各七級奏任官每等各八級トシ左項ノ別ニ依リ之ヲ賜給ス
- 一 親任官
 - 一 宮内大臣ハ第一級俸ヲ賜フ
 - 一 侍從長ハ第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ
- 一 勅任官
 - 一 宮内次官ハ第一級俸第二級俸第三級俸ノ内ヲ賜フ
 - 一 式部長次長皇太后宮大夫皇太后宮内藏頭御料局長衛位局長大膳大夫主殿頭圖書頭内匠頭主馬頭諸陵頭主獵局長調度局長帝室會計審查局長ハ各其等位ニ依リ第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜フ
 - 一 侍醫局長侍醫ハ第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸ノ内ヲ賜フ
 - 一 侍從典長ハ各其等位ニ依リ第四級俸第五級俸第六級俸第七級俸ノ内ヲ賜フ

宮内省判任官		馬醫		技手		醫師		藥劑師		屬員		官名	
官等	俸給	級下	級上	級下	級上	級下	級上	級下	級上	級下	級上	官名	官等
一	七千五百圓	六千四百圓	七千五百圓	六千四百圓	七千五百圓	六千四百圓	七千五百圓	六千四百圓	七千五百圓	六千四百圓	七千五百圓	侍醫	一
二	五千五百圓	五千圓	五千五百圓	五千圓	五千五百圓	五千圓	五千五百圓	五千圓	五千五百圓	五千圓	五千五百圓	侍從	二
三	四千五百圓	四千圓	四千五百圓	四千圓	四千五百圓	四千圓	四千五百圓	四千圓	四千五百圓	四千圓	四千五百圓	侍從	三
四	三千五百圓	三千圓	三千五百圓	三千圓	三千五百圓	三千圓	三千五百圓	三千圓	三千五百圓	三千圓	三千五百圓	侍從	四
五	二千五百圓	二千圓	二千五百圓	二千圓	二千五百圓	二千圓	二千五百圓	二千圓	二千五百圓	二千圓	二千五百圓	侍從	五
六	一千五百圓	一千圓	一千五百圓	一千圓	一千五百圓	一千圓	一千五百圓	一千圓	一千五百圓	一千圓	一千五百圓	侍從	六

(乙)二十三年六月第四號同年七月第十號宮内省通ヲ以テ項目中改正

- 一 侍醫官祿甘官内藏頭御料局長主事理事各技師車馬監調馬師馬醫師侍醫局主事侍醫帝室會計審查局長主事審查官ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ
- 一 侍從侍從試補式部職主事式部官皇太后宮亮皇太后宮亮衛位局長主事大膳大夫亮主殿頭圖書頭内匠頭主馬頭諸陵頭主獵局長調度局長主事調度局長主事皇宮警察長次長ハ各其等位ニ依リ第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸ノ内ヲ賜フ
- 一 掌典ハ各其等位ニ依リ第五級俸第六級俸第七級俸第八級俸ノ内ヲ賜フ

表	
主 監	守 守
皇宮警察署警	手
六七八九十	十至百六
四四四四四	四四四四四

一表中准奏任ノモノ及諸陵寮守長守部主監局監守長監守ヲ除ク外ハ皆月俸トス

○内大臣并宮中顧問官及内大臣秘書官官制

明治十八年十二月
大政官達第六十八號

宮中ニ内大臣并宮中顧問官及内大臣秘書官ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

内大臣 一人

一御璽國璽ヲ尙藏ス

二常侍輔弼シ及宮中顧問官ノ職事ヲ總提ス

宮中顧問官 十五人以内三等官ニシテ(十九年二月十五日宮内省)帝室ノ典範儀式ニ係ル事件ニ付諮詢ニ奉對シ意見ヲ具上ス

内大臣秘書官 一人又ハ二人 奏任

内大臣ニ專屬ス

○宮内省判任官中陸叙年限區別

明治二十三年六月
宮内省達第六號

宮内判任官中屬醫員藥劑師典補警部補准判任中内舍人監守ノ陸叙年限ハ二等三等ハ毎等在職四年四等五等六等ハ毎等在職二年トス

皇宮警察長 一人 奏任

皇宮警察守門ノ事ヲ掌ル 皇宮警察次長 一人 奏任

皇宮警部 判任

皇宮警部補 判任

皇宮警手 等外

皇宮警察長皇宮警察次長官等俸給

皇宮警察長 奏任三等 上二千四百圓 下千六百圓

皇宮警察次長 奏任四等 上二千四百圓 下千三百圓

皇宮警部 奏任五等 上九百圓 下七百圓

皇宮警部補 奏任五等 上九百圓 下七百圓

皇宮警手 奏任五等 上九百圓 下七百圓

○東宮職官制

明治二十二年十一月
宮内省達第二十二號

宮内省中東宮職ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

東宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服用度營繕及主

管ニ屬スル會計ヲ掌ル

東宮主事 一人 奏任(二十四年六月宮内省達甲第)職事ヲ整理シ判任官以下ノ職員ヲ監督ス(同上ヲ以テ水)

東宮主事補 一人 奏任二等以下(同上ヲ以テ水)

東宮侍從長 一人 勅任二等 常侍奉仕シ侍從ヲ監督ス

東宮侍從 三人 奏任 常侍奉仕ス

〔東宮武官〕(二十二年宮内省達第二十) 七號ヲ以テ本項ヲ削除ス

東宮内舍人 准判任四(六)等以下(二十三年同省達第) 五號ヲ以テ六ヲ四

宮丁 等外

○侍從職幹事官制

明治二十三年十月
宮内省達第十八號

侍從職ニ幹事ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

幹事 一人 勅任 侍從長ヲ輔ケ職務ヲ整理シ職員ヲ監督ス

○錦鷄間祇候

明治二十三年十一月
宮内省達第二十一號

錦鷄間祇候ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク

○文事祕書局官制

明治二十三年十二月
宮内省達第二十三號

宮中ニ文事祕書局ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

文事祕書局官制

第一條 文事祕書官長 一人 勅任

旨ヲ奉シ文事ニ關スル内廷ノ文書ヲ管掌ス

第二條 文事祕書官 二人 勅任二等又ハ奏任 官長ノ指揮ヲ承ケ文書ヲ掌理ス

第三條 屬 判任

○皇宮警察署官制

明治十九年五月
宮内省達第五號

主殿寮中門監門監補門部消防防監消防防監消防防防手ヲ應シ同寮中更ニ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

一主事主事補ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表奏任官ノ部第一項ニ依ル(二十四年六月宮内省達甲第)

一東宮内舍人及宮丁俸給ハ同條准官俸給表主殿寮内舍人及皇太后宮職宮丁ニ同シ

一東宮武官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○東宮武官官制

明治二十四年六月十二日
勅令第六十一號

東宮武官官制

第一條 東宮武官長武官ヲ置ク其定員左ノ如シ

東宮武官長 一人

陸軍將官 陸軍佐官 陸軍尉官 陸軍少佐官 陸軍少尉官 陸軍中尉官 陸軍少中尉官 陸軍少少尉官 陸軍少少尉官 陸軍少少尉官

第二條 東宮武官長ハ 皇太子殿下獎匡輔弼ノ責ニ任ス

第三條 東宮武官ハ 皇太子殿下ニ常侍奉仕シ且軍務ヲ輔翼シ威儀整飾ヲ奉助シ觀兵演習行啓其他祭儀禮典宴會謁見等ニ扈從スルヲ任トス

第四條 東宮武官長武官ハ行啓祭儀禮典宴會謁見等ノ事項ニ於テハ宮内省ノ規則ヲ遵奉スヘシ

第五條 東宮武官長ハ武官ノ勤務細則ヲ規定ス

○帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館官制

明治二十二年五月十六日
宮内省達第六號

圖書寮附屬博物館ヲ廢シ更ニ帝國博物館帝國京都博物館帝國

奈良博物館ヲ置キ其官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 帝國博物館長 一人 勅任 陸軍少將

第二條 帝國京都博物館長 一人 勅任 陸軍少將

第三條 帝國奈良博物館長 一人 勅任 陸軍少將

第四條 各博物館長ハ其管內ノ事務ヲ掌理シ且其管內ノ職員ヲ監督ス

第五條 各博物館長ハ其管內ノ規則ヲ制定ス

第六條 各博物館長ハ其管內ノ職員ノ俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

奈良博物館ヲ置キ左ノ如ク官制ヲ定ム

帝國博物館

總長 一人 勅任一等又ハ二等

帝國博物館一切ノ事務ヲ管理シ兼テ帝國京都博物館帝國奈良博物館ノ事務ヲ統理ス(二十二年第十三號ヲ以テ管理シテ追加シ廿三年第三號ヲ以テ右九字ヲ廢ス)

主事 一人 自奏任一等

書記 一人 自奏任一等

理事 五人 自奏任一等

技手 五人 自奏任一等

帝國京都博物館

館長 一人 自奏任一等

書記 一人 自奏任一等

理事 四人 自奏任一等

技手 四人 自奏任一等

帝國奈良博物館

館長 一人 自奏任一等

書記 一人 自奏任一等

理事 三人 自奏任一等

技手 三人 自奏任一等

(二十二年七月宮内省達第十四號ヲ以テ四人ヲ五人ニ改ム)

○帝國博物館外二館官吏ノ外評議員

學藝委員ヲ設ケ其待遇人員ヲ定ム

帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館官吏ノ外評議員學藝委員ヲ設ケ其待遇人員ヲ左ノ如ク相定ム

帝國博物館

評議員 九人以内勅任又ハ奏任ノ待遇トス(二十二年宮内省達第十四號ヲ以テ本項中改正ス)

學藝委員 五人 奏任ノ待遇トス(同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)

帝國京都博物館

評議員 二人 勅任又ハ奏任ノ待遇トス

帝國奈良博物館

評議員 二人 勅任又ハ奏任ノ待遇トス

○御料局支廳職制

御料局支廳職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

御料局支廳職制

第一條 御料財產ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料局支廳ヲ置キ支廳ノ下ニ出張所ヲ置ク其位置並ニ管轄區域ハ宮内大臣之ヲ定ムヘシ

第二條 御料局支廳ニ左ノ職員ヲ在勤セシム

理事

技師

技師試補

技手

技手補

監守

第三條 支廳管内廣濶ナルトキハ監督ヲ置キ技師屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ監督ス

第四條 支廳長ハ御料局長ノ命ヲ承ケ其部内ノ財產及一切ノ

業務ヲ掌理シ所轄官吏ヲ監督ス

第五條 技師屬技手技手補監守ハ各其主務ニ從事ス

第六條 出張所長ハ屬又ハ技手技手補ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 支廳及出張所ノ處務規定ハ宮内大臣之ヲ定ム

第八條 支廳ノ會計ハ其業務ノ都合ニヨリ御料局長ニ於テ宮内大臣ノ認可ヲ經テ特別會計規則ニ據ルコトヲ得其規則ハ

第九條 支廳長ハ業務ノ都合ニヨリ特ニ備員ヲ置クコトヲ得

○大阪製煉所職制

御料局生野支廳附屬大阪製煉所職制左ノ通相定ム

大阪製煉所職制

第一條 大阪製煉所ハ御料局生野支廳長ノ監督ニ屬シ鐵物製煉ノ業務ヲ掌理ス

第二條 大阪製煉所ニ所長ヲ置キ左ノ職員ヲ在勤セシム

技師

技師試補

屬

技手

第三條 大阪製煉所長ハ技師ノ内ヲ以テ之ニ充テ該所ノ業務ヲ總理ス

第四條 所長ハ便宜備員ヲ置クコトヲ得

第五條 所長ハ便宜課ヲ置キ業務ノ分掌ヲ命スルコトヲ得

第六條 技師ハ所長ノ指揮ニ依リ各其業務ニ從事ス

第二條 王子製造所ニ左ノ職員ヲ在勤セシム

技師

技師試補

屬

技手

第三條 王子製造所ニ所長ヲ置キ技師ノ内ヲ以テ之ニ充テ該所ノ業務ヲ總理ス

第四條 所長ハ便宜備員ヲ置クコトヲ得

第五條 所長ハ便宜課ヲ置キ業務ノ分掌ヲ命スルコトヲ得

第六條 技師ハ所長ノ指揮ニ依リ各其業務ニ從事ス

第七條 技師試補ハ所長及技師ノ指揮ニ依リ業務ニ從事ス

第八條 屬ハ上司ノ命ニ依リ庶務計算ノ事務ニ從事ス

第九條 技手技手補ハ上司ノ命ニ依リ各其業務ニ從事ス

○皇族職員職制

明治二十三年一月 宮内省達第一號

皇族職員職制左ノ通相定ム

皇族職員職制

第一條 親王家
別當
輔翼ノ責ニ任シ家務會計ヲ總理シ家令以下ヲ監督ス
家令
別當ノ職務ヲ助ク家務會計ヲ管理ス
家扶
家務會計ヲ掌理ス
家從
庶務ニ従事ス
第二條 諸王家
家令
輔翼ノ責ニ任シ家務會計ヲ管理シ家扶以下ヲ監督ス
家扶
家務會計ヲ掌理ス
家從
庶務ニ従事ス
第三條 宮内省官制第四十八條第四十九條第五十一條第五十二條第五十三條ハ本制ニモ亦適用ス

○學習院官制 明治二十二年十二月 宮内省達第二十二號

第一條 學習院ニ左ノ職員ヲ置キ學生教育ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
學習院長 一人 勅任

學習院教育ノ主管及學制其他宮内大臣ノ令達ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ監督シ學生育成ノ責ニ任ス
學習院幹事 二人 奏任
長ノ命ヲ承ク院務ヲ掌理ス
判任四等以下 (二十三年六月宮内省達第二號ヲ以テ五等ヲ四等ニ改ム)
幹事ノ指揮ヲ承ク庶務ニ従事ス
學習院教授 奏任
長ノ命ヲ承ク教育ニ従事ス
判任
學習院助教 判任
教授ノ職務ヲ補助ス
學習院學生監 一人 奏任四等五等
長ノ命ヲ承ク學生ヲシテ院内ノ法規ヲ遵守シ軍隊ノ紀律ニ慣熟セシメ且其風儀ヲ監督シ又武課ノ教習ニ従事シ兼テ寄宿舎及庶舎ヲ管理ス
學習院學生監副官 一人 奏任 學生監ノ次等以下
學生監ノ職務ヲ補助ス
判任四等以下 (二十三年六月宮内省達第二號ヲ以テ本項ヲ改正ス)
學習院學生監助手 判任四等以下 (二十三年六月宮内省達第二號ヲ以テ本項ヲ改正ス)
學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ク其職務ノ細節ニ従事ス
判任四等以上 (同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)
學習院主計 奏任六等又ハ判任四等以上 (同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)
長ノ命ヲ承ク學習院會計規則ニ依リ出納ヲ掌理ス
判任四等以下 (同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)
學習院主計 奏任五等以下又ハ判任四等以上 (同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)

長ノ命ヲ承ク醫藥衛生ニ従事ス
第二條 教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員ヲ置クコトヲ得
第三條 院内ノ紀律及職員分掌服務規程ハ長之ヲ定メ宮内大臣ニ申牒スヘシ
第四條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官五等以上ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官六等ハ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ判任官官等俸給ハ同條屬官官等俸給ニ依ル (同上ヲ以テ本項ヲ改正ス)
第五條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ
第六條 囑托員ノ報酬備員ノ俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム
第七條 宮内省官制第四十八條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制ニモ亦適用ス (二十三年六月宮内省達第二號ヲ以テ本條中第四十九條ノ五字ヲ削除ス)
但判任官ノ陞叙年限ハ本年六月宮内省達第六號ニ依ル (同上ヲ以テ本項ヲ追加ス)

○華族女學校職員及官等俸給 明治十九年二月 宮内省達第二號

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ
第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク
學監

幹事 二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
教授 二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク教授及校中ノ事務ヲ掌理ス
助教 二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
書記 二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
第二條 長一人 勅任トス宮内大臣ノ命ヲ受ク學校ノ事ヲ總理ス
第三條 學監一人 奏任トス長ノ命ヲ受ク教授及校中ノ事務ヲ掌理ス
第四條 幹事二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
第五條 教授二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク教授及校中ノ事務ヲ掌理ス
第六條 助教二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
第七條 書記二人 奏任トス長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理ス
第八條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ長ハ第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ奏任官ハ各其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜ヒ判任官官等俸給ハ同條屬官官等俸給ニ依ル (二十二年六月宮内省達第二號ヲ以テ本條中第四十一條ノ五字ヲ削除ス)
第九條 教授助教ニハ其授業時間ノ多少學課ノ難易等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコトアルヘシ (宮内省達第二十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス)
第十條 教授上必要アルトキ又判任官缺員アルトキハ長適當ナル者ヲ撰テ囑托員備員ヲ置クコトヲ得其報酬及俸給ハ長適宜ニ之ヲ定ム (同上ヲ以テ本項ヲ追加ス)
第十一條 宮内省官制第四十八條第五十一條第五十二條第五十三條第六十一條ハ此官制ニモ亦適用ス (二十三年六月第十一號ヲ以テ本條中第四十一條ノ五字ヲ削除ス)

但判任官ノ陞叙年限ハ本年六月宮内省達第六號ニ依ル
(二十三年六月宮内省達第十)
(二十三年六月宮内省達第十)

各省官制通則

明治二十三年三月
勅令第五十號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

第一條 本則中各省トアルハ外務省内務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省逓信省ヲ合稱ス
第二條 各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任スヘシ
主任ノ事務兩省以上ニ關涉スルトキハ關涉ノ各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セザルトキハ之ヲ開議ニ提出スヘシ
第三條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ開議ニ提出スヘシ
第四條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範圍内ニ於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メ各省令ヲ發スルコトヲ得
第五條 各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ職務細則ヲ定ムルコトヲ得
第六條 法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外各省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得
次官事故アルトキハ大臣其省中ノ高等官ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得
第八條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督スヘシ若シ警視總監北海道廳長官府縣知事ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
第九條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ之ヲ奏薦宣行シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
府縣奏任官ノ進退ハ内務大臣之ヲ奏薦宣行シ其收稅長ニ係ルモノハ大藏大臣之ヲ奏薦宣行ス(二十四年七月勅令第八十)
第十條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敘位敘勳[及恩給]ヲ上奏スヘシ(同上ヲ以テ本)
第十一條 各省大臣ハ毎年六月中ニ前會計年度ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ上奏スヘシ
第十二條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ(同上ヲ以テ本)
第十三條 各省大臣ハ其省ノ豫算定額内ニ於テ高等官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得(同上ヲ以テ本)
第十四條 各省大臣ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ部下ノ官吏ヲ懲戒ス
第十五條 各省職員ヲ置ク左ノ如シ
次官
局長
參事官
祕書官

書記官

試補

第十六條 各省ニ次官一人ヲ置ク勅任トス
第十七條 次官ハ命ヲ大臣ニ承ク省務ヲ整理シ各局課ノ事務ヲ監督ス(同上ヲ以テ本)
第十八條 次官ハ大臣ノ命ヲ承ク第六條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指令シタル範圍内ニ於テ委任ノ事務ヲ處理ス(同上ヲ以テ本)
第十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得(同上ヲ以テ本)
第二十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク(同上ヲ以テ本)
大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 機密文書ニ關スルコト
二 機密事務ニ關スルコト
三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
五 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト
六 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト
七 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
八 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
九 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト
十 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト

十一 其他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムルモノ陸軍省海軍省ニ於テハ前項第九第十ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ特ニ局ヲ置クコトヲ得
第二十一條 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得(同上ヲ以テ本)
第二十二條 各省ノ便宜ニ從ヒ總務局ヲ置カス大臣官房ニ於テ其事務ヲ掌ルコトヲ得(同上ヲ以テ本)
第二十三條 各省中省務ヲ分掌スル爲メ各局ヲ置ク其分掌事務ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
第二十四條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣其省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メ内閣總理大臣ニ報告スヘシ(同上ヲ以テ本)
第二十五條 各局ニ局長一人ヲ置ク勅任又ハ奏任トシ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム(同上ヲ以テ本)
第二十六條 局長ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ク其主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
第二十七條 局長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項ハ之ヲ處理專行ス
第二十八條 局長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ本)
第二十九條 參事官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
前項ノ外特ニ參事官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
第三十條 參事官ハ其省ノ便宜ニ從ヒ局課ノ事務ヲ兼任シ若

現行日本法令大全

クハ臨時命ヲ承ク其事務ヲ助クルコトアルヘシ

第三十一條 秘書官ハ委任トシ二人ヲ以テ定員トス(同上ヲ以テ本條非改正ス)

秘書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ク各局ノ事務ヲ助ク

第三十二條 秘書官ハ臨時命ヲ承ク各局ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ(同上ヲ以テ本條非改正ス)

第三十三條 書記官ハ委任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ク大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ク各局ノ事務ヲ助ク(同上ヲ以テ本條非改正ス)

第三十四條 各省專任參事官專任書記官ハ併セテ八名以下トシ其定員ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十五條 試補ハ定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

各省試補ノ定員ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十六條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ委任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ク課務ヲ掌理ス(同上ヲ以テ本條非改正ス)

陸軍省海軍省中ノ課長ハ武官及理事主理ヲ以テ之ニ充ツ

第三十七條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ク書記簿記及計算ノ事ニ從フ

第三十八條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

各省大臣ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第三十九條 本則ニ掲クルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ得ス

トヲ要スルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十條 各省中特ニ補助員ヲ要シ又ハ顧問員ヲ要スルトキハ每次狀ヲ具ヘテ閣議ニ提出シ裁可ヲ請フヘシ(同上ヲ以テ本條非改正ス)

附則(同上ヲ以テ本條非改正ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○各省事務ヲ整理スルノ綱領

本月廿三日ノ 聖詔ヲ奉體シ左ニ各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ舉ク以テ將來ノ標準ヲ示ス各省大臣此範圍内ニ於テ便宜斟酌シ案ヲ具ヘテ閣議ニ提出スヘシ

明治十八年十二月二十六日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

各省大臣各位閣下

○一 官守ヲ明ニスル事

我カ官制ハ草創ノ餘未ク限ルニ定員ノ制ヲ以テセス濫弊從テ生シ官愈多クシテ務愈繁カルコトヲ免カレンス十年ニ一ニシテ其過半數ヲ罷メテ然ルニ當時定員ノ制ヲ設ケテ以テ將來ヲ防範セザリシニ因リ其後又更ニ漸クニ増員シ從テ減テ從テ加ハリ以テ其初メニ倍スルニ至レリ今ニ於テ各省大臣宜シク 詔意ヲ奉體シ左ノ節目ニ依リ各省內局課ノ設置ヲ定メ官吏ノ員數ヲ限リ節減淘汰ノ意見ヲ具ヘテ閣議ニ付シ各省官制ヲ均一ナラシメ成案トナシ然ル後上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

一 各省次官一人ニ限ル

一 各省書記官ハ其省ノ須要ニ從ヒ定員ヲ限ル

一 省中各局ニ屬セザルノ分課ハ其省書記官ノ内ヲ以テ課

現行日本法令大全

長ニ充ツ

一 省務ノ枝分シテ別ニ一部ヲ爲シ經常ニ繼續スヘキ者ヲ局トス局ニ局長一人又ハ局長局長長ヲ置ク

一 本省又ハ局中ノ事務ヲ分テ課ヲ設クルハ各省ノ便宜ニ從フ

一 局長及局長次長ハ委任トス局中ノ課長ハ判任ヲ以テ之ニ充ツ

一 局ノ等給ヲ分テ一等局二等局トナスハ事務ノ繁簡輕重ニ從ヒ各省大臣ノ具狀スル所ニ依リ裁定ヲ經ヘシ

一 局課ノ設置一定ノ後省務ノ變更ニ依リ新ニ廢置ヲ要シ又ハ新ニ委任官ノ定員ヲ増サント要スルトキハ理由ヲ具ヘテ閣議ノ後裁可ヲ請フヘシ

一 各省ノ須要スル所ニ從ヒ定員ヲ限リ參事官ヲ置キ審議立案ノ職ニ供アルコトヲ得

一 以上定員ノ外出仕又ハ御用掛ノ名義ヲ以テ補任スルコトヲ得ス

一 各省大臣ハ局課ノ規程ヲ定メ局長課長ヲシテ責任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス

前項ノ規程ハ可成各省均一ヲ要スル爲ニ閣議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

一 八等官以下ハ各省ノ須要ニ從ヒ定額俸給項内ニ於テ各省大臣之ヲ判任スヘシ

一 官省大臣ハ臨時事務ノ爲ニ判任常員ノ外ニ定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ得

一 學術專科ニ係ル官制及警視收稅典獄ノ類ハ別ニ定ムル所ニ依ル

一 特ニ一事件ヲ審査セシムル爲ニ委員ヲ設ク又ハ臨時ノ事務ヲ擔當セシムル爲ニ掛ヲ設ク省中定員ノ人ヲ使用スルハ各省大臣ノ權内トス

一 各省ニ試験ヲ經タル試補ヲ置キ省局ノ事務ヲ練習セシメ爾後官アルヲ待チテ補任ス各省試補ノ數ハ閣議ノ定ムル所ニ依ル

一 試補ニ關スル規則ハ退テ裁定ヲ經公布スヘシ

一 官吏一省内ニ於テ二ツノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得ルモノ二省ニ涉リテ兼テシムルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サルノ要用ニ依リテ兼官セシムルモ兼官ハ一年ヲ過ルコトヲ得ス

一 他省ニ涉リテ兼官スルモノハ兼ナル所ノ官俸三分ノ一ヲ増給スヘシ但武官ニシテ文官ニ任スルハ此例外タリ

以上ハ官制ノ綱領トス各省案成ルノ後裁可ヲ經一定公布スル所アルヘシ

委任以上ハ官ニ職權アリテ各機關ノ一部ニ當ル者ナリ屬官ハ使用ヲ受ル者ナリ從前官制ノ區別明ナラスシテ雇外ノ年ヲ經タル者ハ進テ屬官ニ昇リ屬官ノ年資ヲ經タル者ハ進テ委任ニ列ス是レ試験法ナキノ致ス所ニ由ル今既ニ試験法ヲ定ムルトキハ凡ソ委任ノ官ハ必ス高等試驗ヲ經ル者ニ限リ屬官ノ年勞ヲ積ム者ハ漸クニ其ノ俸給ヲ増シ委任初等官等官現七ト相匹等セシムルコトヲ得ヘシ其陸ヲ委任ト爲スニ至テハ必異常功績アリテ大臣ヨリ狀ヲ具ヘ奏請シ又ハ高等試驗ヲ經ル者ニ限ルヘシ此皆冗濫ヲ防クノ道ナリ

明治四年ニ官等ヲ定メテ以來俸給ヲシテ官等ト相配當セシメ以テ才ヲ使フノ道ヲ狹限シメリ今之ヲ改正シ凡ソ何ノ官

ヲ論セテ試験ニ由テ進ム者ハ各官警備ニ從ヒ各數等俸ヲ定メ次第二階ヲ增俸ヲ得セシムヘシ本項俸給ニ關スル規則ハ追テ開議ノ後裁可ヲ經テ公布スル所アルヘシ

〇二 選拔ノ事

選拔ノ法未ダ定マラスシテ人各知ル所ヲ舉ク而シテ成學ノ士或ハ其進ム所ヲ失フ此ノ皆制度ノ未ダ備テタル者ニシテ勢ノ免テタル所ナリ今官制一タヒ定タマリ官仕限アルニ及テ選拔ノ法仍設ケサルトキハ情弊ノ至ル處其失ニ堪ヘス而シテ行政部局其人ヲ得ルニ由ナカラントス

選拔ノ法ヲ行フニハ事創始ニ屬スルヲ以テ其規則節目ノ詳ナルハ委員ヲシテ審査セシメ閣議ヲ經ルノ後成案トナシ裁可ヲ請フヘシ今其大要ヲ舉グテ以テ標準ヲ示ス

第一 仕進ハ試験ニ由ラシムル事

第二 試験ニ學術試験ト普通試験ヲ分ツ事

第三 學術試験ニ初等試験ト高等試験ヲ分ツ事

第四 學術試験普通試験ノ外ニ專科試験ヲ設ケル事會計官吏ヲ試験シ外務官吏ハ外國語ヲ試験シ其他技術ヲ試験スルノ類

第五 試験人ハ定リタル試験科目ノ外ニ隨意ニ其學ヲ所ノ專門學ノ試験ヲ受クルコトヲ得セシメ試験委員ニ於テ他ノ科目ト斟酌シテ之ヲ採取シ其優等ナル者ハ別ニ優等證ヲ付シ以テ才ヲ試ミルニ遺漏ナカラシムル事

第六 内閣中ニ試験委員ヲ設ケル事

第七 各省ニ許可ヲ得テ設ケル專科試験法ハ試験委員ト各省大臣トノ間ニ叶議制定セシムル事

第八 試験ニ依リ進ムヘキ官吏ノ出身ハ年齢性行健全才能ノ四件ヲ合セテ共ニ試験委員ノ審査ヲ經然ル後選用スル

第九 學術試験合格者ハ一定ノ期限内試補トナシ事務ヲ見習ハシメ又ハ候補簿ニ登記スル事
第十 現勤判任官ヨリ奏任ニ昇ル者ハ少クモ初等學術試験ヲ經セシムル事
第十一 判任ノ缺官又ハ需要アルトキハ普通試験ヲ行ヒ選用スル事
第十二 現勤等外及雇ヨリ等内官又ハ本官ニ任スル者其判任官ハ皆普通試験ヲ經セシムル事但特ニ一階アル者ハ選用ヲ許ス
第十三 現勤判任及准奏判任御用掛雇等外官ニシテ學術試験ヲ請フ者ハ其情願ニ任スル事
第十四 試験委員ノ紀律ヲ嚴ニシ其公正ヲ保タシムル事
第十五 地方ノ屬官ヲ試験スルハ別段ノ方法ニ依ル事
右ハ其概略ノ目的ヲ定ムル者ニシテ此レヲ實行スルニ至テハ更ニ委員ヲ命シ精確ノ審査ヲ經セシメントス

〇三 繁文ヲ省ク事

維新ノ後舊ヲ變シ新ニ就クノ際下司ノ上司ノ稟請ヲ命テ得テ始メテ施行スルヲ例トシ細大多端往復續ルカ如ク相因テ一ノ慣習ヲ成シ一令出ルコトニ疑問百出經伺ノ文簿積テ堆テ爲シ往々半年或ハ一年ニシテ始メテ定マル此レ從前各省及太政官ノ事務繁劇官吏冗多ナル所以ニシテ始メハ已ムテ得サルノ勢ニ出テ終リニ因習ノ弊ニ堪ヘサル者ナリ文書繁多ノ弊ハ

第一 事務ヲ掩滯シテ疏通便捷ナラシメ公私ノ障害ヲ

第二 官吏冗多ナラシム

第三 一部ヲ擔任スルノ官僚ヲシテ文書ニ倚賴シテ責任ノ意ヲ輕カラシム

今此弊ヲ除カントモ左ノ方法ニ依ルヘシ

第一 凡ソ布告ノ法律ハ疑問ナカラシムル爲ニ其説明ヲ要スル者ハ可成説明書ヲ附シ各官廳ニ達スル事

第二 府縣長官及其他一局部長タル者ハ法律命令ヲ施行スルニ付テ其明文アル者ニ付經伺シテ指令ヲ請フコトヲ得ス其明文ナキ者モ實際ノ事務ヲ延滯セシムル爲メニハ法律ノ精神ニ由リ處分施行スルヲ以テ當然トナス事

其他公文ノ底滯シテ或ハ歲月ヲ經過シ緩慢ニシテ被活ナラサルハ施政ノ大弊ニシテ公私ノ病患此ヨリ大ナルハナシ今此ヲ救フノ要領ハ左ノ數點ニ外ナラサルヘシ

第一 文書受付往復ノ程限ヲ設ケ事務ノ輕重緩急ニ從ヒ相當ノ期日ヲ定メ稽滯ヲ以テ過失トシ主任ノ官吏其實ニ任セシムル事

第二 事務ノ各局課ニ關涉スル者ハ各局課ノ間或ハ會議法ヲ設ケ或ハ主任官互ニ而議ヲ行ヒ議決ノ即時ニ捺印シ從前ノ回覽法ニ換ヘ異議附箋ノ煩ヲ除ク事

第三 文書ニ記録ノ要用ト不要トヲ分テ其不要ナル者ハ件銘日時ヲ日記ニ登錄スルニ止メ原文ノ謄寫ヲナササル事

第四 各局長ハ每週一次又ハ二次其局ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滯ヲ檢明シ各省次官ハ毎月一次又ハ二次其省ノ文書往復ノ簿冊ヲ査閱シ稽滯ヲ檢明スルノ類ノ方法ヲ行フ事

第五 各局長以下ハ大臣又ハ次官ノ命ナクシテ定期ノ外文書ヲ留置クノ權ナキ事

以上ハ其大概ヲ密説スルニ止マル者ニシテ其實施ノ順序節

目ニ至テハ固ヨリ各省ノ便宜ニ屬シ各省大臣其規程ヲ設ケルノ權内ニ在ル者ナリ但タ此事各省ノ整理ニ關シ可成均一ヲ要スルヲ以テ茲ニ之ヲ提擧シテ以テ標準ヲ示ス

〇四 冗費ヲ節スル事

凡ソ行政官務整頓嚴謹ナルノ國ハ其經費必節省ナラサルハナシ蓋富強ノ道ハ多費ニ在ラスシテ施ス處其實ヲ務メ緩急其要ヲ得テ以テ成功ヲ永久ニ期スルニアリ維新以來歲出ノ歲ヲ逐フテ増加スルハ内外政務ノ多端ナル實ニ已ムコトヲ得サルニ由ルト雖モ明治六年ノ會計表ニ據リ此レ昨十七年度ノ歲出ト比較スルニ幾ント四分ノ一ヲ増加シタリ又俸給一項ヲ以テ之ヲ言フニ明治六年ノ概數ニ據リ之十七年度ニ比較スルニ即チ十分ノ六ヲ増加シ又九年十年度ノ概數ニ據リ之十六七年度ニ比較スルニ即チ三分ノ一ヲ増加シタリ實務ノ擧カル處成果ノ得ル處未ダ經費ノ遞増ト相比例スルニ至ラス今宜シク務メテ省減ヲ行ヒ各省ノ定額内閣ニ於テ事務ノ緩急ヲ料リ之ヲ總判畫定シ越ユヘカラサルノ限ヲ爲シ各省大臣ハ全局ノ平衡ヲ顧ミ以テ各々其省ノ費用ヲ節省スヘシ表任以上ハ官ニ定員アリ判任以下ハ各省大臣定額俸給項内ニ於テ便宜ニ使用スルコトヲ得今變更ノ際一タヒ節省ヲ行ヒ更ニ永久ニ繼續シテ濫弊ヲ防制スル爲ニ各省院府廳ハ毎月官吏ノ員數并俸給ヲ統計シ翌月十日迄ニ之ヲ検査院ニ報告セシメ検査院ニ於テ其制ヲ除ニ限ニ過ル者ヲ檢出シタルトキハ内閣總理大臣ニ上申シテ處分ヲ請ハシムヘシ

検査院ハ單ニ會計出入ノ検査ニ止マルノミナラス需費ノ成續ニ就テ事業ノ得失ヲ察シ各廳内部ノ處務ニ注目シ務メテ儉省確實ノ方法ヲ計畫シテ内閣ニ提出シ以テ行政各部ノ注

意ヲ促スコトヲ得セシムヘシ
各省ノ事務互相重複スル者ハ開議ヲ經テ其一ヲ減省スヘシ

○五 規律ヲ嚴ニスル事

官吏ノ品格ハ實ニ政府ノ威信ニ係リ官吏ノ忠順慎密勤勉清
廉ハ政務ノ得失ニ於テ密接ノ關係ヲ相爲ス此レ宜シク其規
律ヲ嚴シテ秩序ヲ正シクシ一ハ以テ官務ヲ整理シ一ハ以テ
忠順廉潔ノ風ヲ維持セサルヘカラス九年ニ官吏懲戒例ヲ設
クテ而シテ監督審理ノ方法備フスモ文具文ノ法タル事ヲ免
レズ將來懲戒裁判ヲ設ク懲戒及罷免ノ規則ヲ定メ以テ官紀
ヲ肅シ且以テ官吏ノ位置而目ヲ保護スルコト實ニ止ムヘカ
ラサルノ必要アリ但テ此事他ノ官制ノ細目ト相關係スルヲ
以テ現時未ダ舉行シ易カラサル者アリ抑モ官吏ノ規律ヲ張
リ其品格ヲ保ツハ以テ一日モ緩慢ニ付スヘカラス各省大臣
ニ在リテ宜シク

詔意ヲ奉體シ各其權内ニ於テ振勵監督シ凡ソ官吏忠順誠實
ノ大義ニ乖キ法律ヲ恪守セズ機事ニ慎密ナラス務ヲ執テ勤
勉ナラサル者其情狀ニ從ヒ之ヲ告戒罷免シ或ハ之ヲ懲罰ス
ヘク贈還ノ禁ハ細大ニ及カシ職務曠廢ノ戒メハ其有意無心
ヲ問ハス老朽務メニ堪ハサル者ハ其官ヲ退カシムヘク務メ
テ核實嚴明ニシテ効力アルコトヲ要スヘシ其規則ニ涉ル者
ハ更ニ裁テ經テ制定スル處アルヘシ

○外務省官制

明治二十四年七月
勅令第八十七號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外務省官制

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行及外國ニ於ル帝
國商利ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ交際官及領事官ヲ監督
ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノ、外帝國ニ駐在
スル外國交際官、領事官、外國人使節、外國ニ於ル内外人結婚、
海外移住民取締及條約書保管ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 外務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ四人ヲ以テ定
員トス
- 第四條 外務省ニ左ノ四局ヲ置ク
政務局
通商局
取調局
翻譯局
- 第五條 政務局長ハ勅任トシテ通商局長、取調局長、翻譯局長
ハ奏任トス
- 第六條 政務局ニ於テハ外交政略ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 通商局ニ於テハ通商航海ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 取調局ニ於テハ法律ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 翻譯局ニ於テハ翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 外務省ニ翻譯官六人ヲ置ク奏任トス翻譯局ニ屬シテ
其事務ニ從事ス
- 第十一條 外務省試補ハ八人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 外務省屬ハ八十八人ヲ以テ定員トス
附則
- 第十三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

外務省分課規程

○分課規程 明治二十四年八月十七日
官報

第一 大臣官房

外務大臣官房ニ秘書課、移民課、記錄課、庶務課、會計課ヲ置キ
其事務ヲ分掌セシム

秘書課

- 一 大臣親展書ノ接受
- 一 電信ノ發送接受及其事務
- 一 大臣次官ノ官印及省印ヲ管守スルコト
- 一 移民課
- 一 海外出稼及移住民ニ關スル一切ノ事項
記錄課
- 一 條約書、批准書及圖書ノ保管
- 一 本省文書ノ編纂及保存
- 一 圖書ノ保管及保存
- 一 統計報告及官報掲載ニ關スル事項
- 一 公使領事ノ報告公刊ニ關スル事項
- 一 公文書類ノ接受發送ニ關スル事項
庶務課
- 一 本省所轄官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 一 帝國ニ駐在スル外國交際官ノ謁見待遇及交渉ノ儀式ニ
關スル事項
- 一 帝國ニ駐在スル外國領事ノ認可狀ニ關スル事項
- 一 外國人使節ニ關スル事項
- 一 旅券ニ關スル事項
- 一 外國人ノ携帶スヘキ内地旅行免狀ニ關スル事項

會計課

- 一 在帝國外國公使館雇入鑑札ニ關スル事項
- 一 本省及在外公館ノ豫算決算及金錢ノ出納ニ關スル事項
- 一 金錢出納ノ當否及各般證書ノ檢査
- 一 本省所管ノ地所建物其他一切ノ需用物品ニ關スル事項
第二 政務局
- 一 政務局ニ於テ掌理スル事務左ノ如シ
- 一 外交信書及訓令ニ關スル事項
- 一 政略ニ關スル各般ノ條約、宣言其他ノ事項
- 一 條約ノ實行ニ關スル事項
- 一 萬國會議ニ關スル事項
- 一 交際官ノ職務及權限ニ關スル事項
- 一 交際官ノ委任狀信任狀及御親書ニ關スル事項
- 一 翻譯局ニ於テ掌理スル事務左ノ如シ
- 一 法律規則ノ翻譯
- 一 本省文書ノ翻譯
- 一 帝國官衙ニ於ケル官譯ノ檢閱
- 一 官譯ノ例文文格ニ關シ帝國各官衙ノ質問ニ答フル事

○外交官及領事官官制

明治二十三年十月
勅令第二百五十七號

朕外交官及領事官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官官制

- 第一條 外交官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ
特命全權公使 勅任
辦理公使 勅任二等奏任一等

代理公使 奏任一等二等
 公使館參事官 奏任一等二等
 公使館書記官 奏任二等三等四等五等
 交際官試補 奏任五等六等

第二條 特命全權公使ハ親任官中ヨリ之ヲ兼テシムルコトアルヘシ

第三條 公使ヲ置カサルノ地ニ於テハ領事官ヲシテ外交事務官ヲ兼テシムルコトヲ得

第四條 領事官ノ制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總領事 奏任一等二等
 副領事 奏任二等三等四等
 領事 奏任五等六等

第五條 無任所外交官及無任所領事官ヲ以テ外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得(二十四年七月勅令第百二號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第六條 領事ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜貿易事務官ヲ置クコトヲ得

貿易事務官ハ奏任二等以下トス

第七條 領事又ハ貿易事務官ヲ置カサルノ地ニ於テハ便宜名譽領事又ハ領事代ヲ置クコトヲ得

第八條 公使館及領事館ニ書記生ヲ置ク書記生ハ判任トス

第九條 外務大臣必要ト認ムルトキハ公使館及領事館ニ補助員ヲ置クコトヲ得

第十條 無任所外交官及無任所領事官ハ併セテ十五名トス但外務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ無給ノ無任所外交官ヲ

五名マテ増置スルコトヲ得(同上ヲ以テ本條ヲ改正シ非第一項ヲ追加ス)

無任所外交官及無任所領事官ハ滿三年ヲ以テ期トス期滿ノハ其官ヲ免ス

第十一條 明治十九年三月勅令第五號交際官及領事官制ハ之ヲ廢ス

附則(同上ヲ以テ本條ヲ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○外交官領事官及書記生定員

明治二十三年十二月勅令第百八十三號

特命全權公使辦理公使代理公使ハ通シテ十名トス
 公使館參事官、公使館書記官及交際官試補ハ通シテ三十八名トス

總領事、副領事及貿易事務官ハ通シテ二十七名トス
 公使館及領事館書記生ハ通シテ七十二名トス
 無任所外交官及無任所領事官ハ右定員ノ内ニ算入セス

○外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則

明治二十四年七月勅令第七十四號

朕外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生

第一條 外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生引續歐米諸國ニ滿四年以上又ハ東洋及南洋諸國ニ滿三年以上在勤シタルトキハ外務大臣ハ公務ニ差支ナキ場合ニ限リ本人ノ願ニ依リ賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第二條 歐米諸國ト東洋及南洋諸國ノ間ニ轉勤シタル場合ニ於テハ前條ノ在勤年期ハ新任國在勤ノ例ニ依ル但轉勤ノ後滿二年以上在勤スルヲ要ス

第三條 賜暇歸朝ノ者ハ往復日數ヲ除キ滿六ヶ月以内ニ出發歸任スヘシ但相當ノ理由アリテ期限内ニ出發シ難キ者ハ外務大臣ニ於テ豫メ日ヲ限り特ニ出發延期ヲ許可スルコトアルヘシ

○內務省官制

明治二十四年七月二十四日勅令第八十八號

朕內務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

內務省官制

第一條 內務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、氣象、社寺、出版、版權、戶籍、賑恤、救濟及鐵道ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會、鐵道廳長官、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス(明治二十五年七月勅令第六十六號ヲ以テ「賑恤」ノ下「及」ノ一字ヲ加ヘ「及鐵道」ノ三字ヲ削除ス)

第二條 內務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第三條 參事官書記官ハ通則ニ揭クル職務ノ外監獄巡閱ノ事ヲ掌ル

第四條 內務省ニ左ノ六局ヲ置ク

縣治局
 警保局
 土木局
 衛生局
 社寺局
 庶務局

第五條 縣治局長、警保局長及土木局長ハ勅任トシ衛生局長、社寺局長、庶務局長ハ奏任トス

第六條 縣治局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議員選舉ニ關スル事項
- 二 府縣會、府縣經濟其他總テ府縣行政ニ關スル事項
- 三 郡區會、郡ノ經濟其他總テ郡區行政ニ關スル事項
- 四 市會、町村會及市町村經濟其他總テ市町村行政ニ關スル事項
- 五 府縣費ニ關スル事項
- 六 賑恤及救濟ニ關スル事項
- 七 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、瘋癲院、育兒院其他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
- 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 九 地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項

第七條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 行政警察ニ關スル事項
- 二 高等警察ニ關スル事項
- 三 監獄ニ關スル事項
- 四 假出獄及監視假免ニ關スル事項

第八條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
- 二 府縣經營ノ土木工事ノ監督ニ關スル事項
- 三 河港道路其他公共ノ土木工事ニ關スル事項
- 四 直轄工費及府縣工費ノ補助ニ關スル事項
- 第九條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船ニ關スル事項
 - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 - 四 地方衛生工事ノ監督ニ關スル事項
 - 五 地方衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第十條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 神宮、官國幣社、招魂社並神社社格及古社寺保存ニ關スル事項
 - 二 神佛各派ノ教規、宗制、神職僧侶教師ノ身分、社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其他總テ宗教ニ關スル事項
- 第十一條 庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
 - 二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
 - 三 官有地處分並管理ニ關スル事項
 - 四 土地收用ニ關スル事項
 - 五 地名稱並地種目變換ニ關スル事項
 - 六 水面埋立ニ關スル事項
 - 七 氣象ニ關スル事項
 - 八 戶口及民籍ニ關スル事項

- 九 褒賞ニ關スル事項
 - 十 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
 - 十一 圖書保存ニ關スル事項
 - 第十二條 內務省ニ警保局主事一人ヲ置ク委任トス
 - 第十三條 警保局主事ハ高等警察ノ事務ヲ掌理ス
 - 第十四條 內務省ニ技師三人ヲ置ク
 - 第十五條 內務省試補ハ十八人ヲ以テ定員トス
 - 第十六條 內務省ニ技師試補十五人ヲ置ク
 - 第十七條 內務省屬ハ二百六十八人ヲ以テ定員トス
 - 第十八條 前各條ニ定ムルモノ、外臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ左ノ職員ヲ置ク
 - 技師 四人
 - 技手 二十八
 - 屬 十五人
- 附則
第十九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
- 分課規程 明治二十四年八月十七日 官報
- 大臣官房
 - 一 秘書課
 - 一 機密文書ニ關スル事
 - 一 機密事務
 - 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事
 - 一 大臣ノ官印及省印ヲ管守スル事
 - 一 文書課
 - 一 各局ノ成案ヲ審査スル事

- 一 各局ノ主管ニ屬セサル事項
- 一 往復課
- 一 公文書類ヲ接受發送スル事
- 一 報告課
- 一 報告統計ノ調査ニ關スル事
- 一 記録課
- 一 公文書類ヲ編纂保存スル事
- 縣治局
 - 一 府縣課
 - 一 議員選舉ニ關スル事項
 - 一 府縣及郡ノ行政事務ニ關スル事項
 - 一 徵兵及徵發ニ關スル事項
 - 一 地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項
 - 一 市町村課
 - 一 市町村ノ行政事務ニ關スル事項
 - 一 賑恤及救濟ニ關スル事項
 - 一 地方費課
 - 一 府縣費ニ關スル事項
 - 一 警務課
 - 一 行政警察ニ關スル事項
 - 一 保安課
 - 一 高等警察ニ關スル事項
 - 一 監獄課
 - 一 監獄ニ關スル事項
 - 一 假出獄及監視假免ニ關スル事項

- 土木局
 - 一 道路課
 - 一 道路橋梁等ノ工事並其府縣工事ノ監督ニ關スル事項
 - 一 鐵道ニ關スル事項
 - 一 治水課
 - 一 河川堤防港灣等ノ工事並其府縣工事ノ監督ニ關スル事項
 - 一 製圖課
 - 一 技術ニ屬スル圖書並統計ニ關スル事項
 - 一 計算課
 - 一 工費及府縣土木費補助ニ關スル事項
 - 一 臨時建築掛
 - 一 明治二十三年勅令第四十九號ニ依リ土木局ノ管掌ニ屬セザル臨時建築ノ事務
- 衛生局
 - 一 衛生課
 - 一 傳染病地方病豫防檢疫停船其他公衆衛生ニ關スル事項
 - 一 地方衛生會ニ關スル事項
 - 一 地方衛生工事ノ監督ニ關スル事項
 - 一 醫務課
 - 一 醫師藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 - 一 地方病院ニ關スル事項
 - 一 社寺局
 - 一 神社課
 - 一 神社ニ關スル事項
 - 一 神道各派ノ教規神職及教師ノ身分等ニ關スル事項

- 一 寺院ニ關スル事項
- 一 佛道各派ノ宗制僧侶ノ身分其他總テ宗教ニ關スル事項
- 庶務局
- 地理課
- 一 官有地處分並管理ニ關スル事項
- 一 土地收用ニ關スル事項
- 一 地所名稱並地種目變換ニ關スル事項
- 一 水面埋立ニ關スル事項
- 一 氣象ニ關スル事項
- 戶籍課
- 一 戶口及民籍ニ關スル事項
- 一 褒賞ニ關スル事項
- 圖書課
- 一 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
- 一 圖書保存ニ關スル事項
- 會計課
- 一 豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整理並計算表ノ調製ニ關スル事項
- 一 金錢出納ノ當否及各般ノ證書ノ檢查ニ關スル事項
- 一 用度課
- 一 所轄地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事項

○土木監督署官制 明治二十三年八月勅令第五百五十七號
 朕土木監督署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 土木監督署官制
- 第一條 內務省直轄ノ土木工事ヲ施行シ及地方ノ土木工事ヲ監視スル爲メ土木監督區ヲ置ク左ノ如シ
- 第一區 武藏 上總 下總 常陸 上野 下野 安房 相模 伊豆 駿河 甲斐 遠江 信濃ノ内
 - 第二區 磐城 岩代ノ内 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後
 - 第三區 越後 岩代ノ内 越中 佐渡 能登 加賀 越前 飛騨ノ内 信濃ノ内 若狹
 - 第四區 三河 尾張 美濃 信濃ノ内 飛騨ノ内 伊勢 志摩 伊賀 近江 山城 大和 攝津 河内 和泉 紀伊 丹波 丹後 但馬 播磨 淡路
 - 第五區 阿波 讚岐 伊豫 土佐 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 美作 因幡 伯耆 出雲 隱岐 石見
 - 第六區 豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 薩摩 大隅 日向 壹岐 對馬
- 第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ內務大臣ノ管轄ニ屬シ左ノ職員ヲ置ク
- 署長
 - 技師
 - 技師試補

- 技手
 - 書記
 - 第三條 監督署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク署務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス
 - 第四條 監督署長ハ部內地方ノ土木事業ヲ巡視シ利害得失ヲ精査シ之ヲ內務大臣ニ報告ス可シ
 - 第五條 監督署長ハ內務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ意見ヲ內務大臣ニ開申シ其命令ニ依リ之ヲ施行ス可シ
 - 第六條 監督署長ハ內務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ檢査スルトキハ意見ヲ內務大臣ニ開申ス可シ
 - 第七條 技師ハ奏任トシ(二十八)十六人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ク署務ヲ分掌ス(二十四年七月勅令第四百四號ヲ以テ二十八人ヲ以テ定員トス)
 - 第八條 技師ハ判任トシ(二百二十五)百人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ク工務ニ從事ス(同上ヲ以テ二百二十五人ヲ以テ定員トス)
 - 第九條 書記ハ判任トシ(四十八)三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ク庶務ニ從事ス(同上ヲ以テ四十八人ヲ以テ定員トス)
- 附 則 (同上ヲ以テテ)
- 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

- 土木監督區署位置 明治十九年七月內務省令第十四號
- 第一區 武藏國東京(廿一年內務省令第六號)
(テ以テ木項ヲ改正ス)
- 集治監假留監官制 明治二十三年八月勅令第五百五十三號
 朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 集治監假留監官制
- 第一條 各集治監假留監ニ左ノ職員ヲ置ク
- 典獄
 - 書記
 - 看守長
 - 監獄醫
- 第二條 各監ニ典獄一人ヲ置ク奏任三等以下トス內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク監獄ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ判任官ノ進退ハ內務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス
- 第四條 典獄ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官以下俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第五條 典獄ハ一週年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其判任官ニ係ルモノハ內務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス(二十四年七月勅令第四百七號ヲ以テ本條中括弧ノ内五字ヲ削除ス)
- 第六條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス

現行日本法令大全

其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第七條 書記ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ク庶務ヲ分掌ス

第八條 典獄事故アルトキハ上席書記内務大臣ノ命ヲ承ケテ其事務ヲ代理ス

第九條 看守長ハ判任ニ等以下トス典獄ノ命ヲ承ク監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第十條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ク監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第十一條 東京集治監宮城集治監三池集治監及兵庫假留監ヲ通シテ書記三十五人看守長三十八人監獄醫八人ヲ以テ定員トス

第十二條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十三條 事務ノ分課並處務ノ規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十四條 監獄職員ノ外各監ニ教誨師一人乃至二人ヲ置キ判任ノ待遇トス

第十五條 集治監所在ノ地ニ設ケタル假留監ニハ別ニ其職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

附則(前上ヲ以テ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○中央衛生會官制 明治二十三年八月二日 勅令第五百五十四號

朕中央衛生會官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央衛生會官制

第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢

ニ應シ公衆衛生獸畜衛生ニ關シテ意見ヲ述ヘ及其施行方法ヲ審議ス

第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ諮詢シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得

第四條 中央衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第五條 中央衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一 會長

二 幹事

三 委員

四 臨時委員

會長ハ勅任トス幹事ハ一人奏任トシ内務大臣奏薦宣行ス

第六條 委員ハ左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍省醫務局長

海軍中央衛生會議議長

宮内省待醫局長

帝國大學醫科大學長

警視總監

東京府知事

内務省衛生局長

内務省警保局長

内務省高等官 三人

其他醫師十二人化學家三人ヲ以テ委員トス

現行日本法令大全

委員中醫師化學家内務省高等官及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 會長ハ本會議事規則ニ依リ職事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第八條 會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受テ庶務ヲ整理ス

第十條 會長及幹事ハ他ノ官職アル者ヨリ兼任スルトキハ別ニ其俸給ヲ給セス

第十一條 中央衛生會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ク職事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ定員三人トシ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

○衛生試驗所官制 明治二十三年八月 勅令第五百五十五號

朕衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛生試驗所官制

第一條 東京大阪橫濱ニ衛生試驗所ヲ置ク

第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

技師試補

技手

書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 技師ハ奏任トシ六人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ク試驗ノ事務ヲ分掌ス(二十四年勅令第五百五號ヲ以テ)

第六條 技師試補ハ四人ヲ以テ定員トシ各所ニ分屬セシム

第七條 書記ハ判任トシ八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(二十四年勅令第五百五號ヲ以テ)

第八條 各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

○醫術開業試驗委員組織權限 明治二十二年五月 勅令第六十二號

朕醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫術開業試驗委員組織權限

第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス

第二條 醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

試驗委員

宮内省待醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官
其他醫師齒科醫及理化學家
書記 內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 試驗委員長及試驗委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ
委員長事故アルトキハ内務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ

第六條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第七條 書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

中央氣象臺官制

明治二十三年八月勅令第三百五十六號

中央氣象臺ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 氣象觀測
- 二 氣象報告
- 三 氣象調查
- 四 氣象觀測器械検査
- 五 天氣豫報

- 六 暴風警報
- 七 地震驗測
- 八 地磁氣驗測
- 九 空中電氣驗測
- 十 空氣驗測

第二條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長
技師
技師試補
技手
書記

第三條 臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ク業務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 技師ハ奏任トシ「四」三人ヲ以テ定員トス臺長ノ指揮ヲ承ク業務ヲ分掌ス（二十四年七月勅令第三百六號）
技師試補ハ一人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ判任トシ「十五」十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ク業務ニ從事ス（同上ヲ以テ十五人）
（十八人ト改正ス）

第六條 書記ハ判任トシ「五」三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ク業務ニ從事ス（同上ヲ以テ五人）
（三人ト改正ス）

第七條 事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

附 則（同上ヲ以テ本）
（項ヲ追加ス）

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○氣象臺測候所條例施行細則
明治二十三年八月
内務省令第一號

氣象臺測候所條例施行細則

氣象臺測候所條例施行細則

第一條 中央氣象臺ハ各地ノ氣象觀測報告ヲ聚閣公布シ及其器械ヲ檢閲シ港津及全國ニ天氣豫報ヲナシ且氣中ノ現象ヲ調査スル所トナス

第二條 測候所ハ分テ一等二等三等トナス

一等測候所ハ所在地ノ氣壓氣溫日溫地溫濕度雨雲風雪蒸發等ヲ觀測スル所トス其觀測ハ各種ノ自記器械ヲ備ルニアラザルハ必毎時ノ觀測ヲ行フモノトス

二等測候所ハ所在地ノ普通氣象即チ氣壓溫度濕度風雲雨雪等ヲ一日七回ノ觀測ヲナス所トス

三等測候所ハ所在地ノ普通氣象中一若クハ二三ノ主ナルモノヲ一日一回以上ノ觀測ヲナス所トス

第三條 溫度ハ攝氏ノ度ヲ用ヒ尺度ハ「メートル」ヲ用フ可シ但所用器械ノ度目異ナルモノト雖モ報告書ニ記載スル所ハ必ス本條ノ度目ニ更正シタルモノトシ得ル可シ

第四條 時刻ハ標準時ヲ用フ可シ但明治二十年十二月三十一日マデハ京都時ヲ用フ可シ

第五條 觀測ハ分テ定時臨時ノ二類トナス其時刻ハ左ノ如シ

定時觀測

一等測候所 自記器械ヲ備ヘサルモノハ每一時合二十四回自記器械ヲ備フルモノハ午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

二等測候所 午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

三等測候所 器械ノ種類及多少ニ依リ一定セスト雖モ每日午前十時一回若クハ午前十時午後十時合二回若クハ午前六時或ハ十時午後二時十時合三回

臨時觀測

中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受タル時及暴風雨急襲地震續起等ノ際ニ於テハ每十分時毎半時每一時各一回

第六條 報告ハ分テ定期臨時ノ二類トナス其種類及期限ハ左ノ如シ

中央氣象臺

定期報

每日三回
天氣豫報及天氣圖 午前八時午後四時及十一時内外
每月一回
氣候概況 翌月三日以内
氣象月報 翌月十三日以内
地震月報 同上
磁氣月報 同上
電氣月報 同上
每年一回
氣象概況 翌年一月三十一日以内
氣象器報 翌年三月十五日以内
氣象年報 翌年三月三十一日以内
地震年報 同上
磁氣年報 同上
電氣年報 同上
一週年事務報告 翌年一月三十一日以内

臨時報
暴風警報 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタル時
暴風雨概況 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内
暴風雨報告 暴風ノ終リタル日ヨリ三十日以内
雜報 不定

測候所

定期報
每五日一回
氣象半旬報 二十四時間以内
每月一回
氣象月報 翌月三日以内
萬國同時觀測月報 同上
每年一回
氣象年報 翌年一月三十一日以内
一週年事務報告 同上

臨時報
但三等測候所ハ半旬報萬國同時觀測月報及一週年事務報告ヲ要セス

暴風報告 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内
地震報告 地震ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内
動物報告 翌月五日以内
植物報告 同上
第七條 特ニ電信報告ヲ發スル測候所ハ前條ノ外中央氣象臺ニ對シ左ノ電報ヲナスモノトス
定期報
毎日三回

午前六時午後二時及九時觀測 觀測ヲ終リタルトキヨリ十分以内

臨時報
暴風ノ徵候 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタルトキ
第八條 中央氣象臺ノ報告ハ或ハ官報ヲ用ヒ或ハ直ニ測候所ニ遞送ス測候所ノ報告ハ總テ中央氣象臺ニ遞送スル者トス
第九條 報告書式ハ中央氣象臺ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定ル所ニ依ル

第十條 中央氣象臺ハ五年以内ニ一回技師ヲシテ各測候所ヲ巡閱セシム

第十一條 內務大臣ハ地方長官ニ令シテ各測候所長ヲ中央氣象臺ニ參集シ事務及ヒ技術上ノ會議ヲ開カシムルコトアル可シ但各測候所長ノ旅費及滞在日當ハ其測候所ノ費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第十二條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスルトキハ左ノ條件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第一 測候所ノ種類
第二 設立ノ位置及地勢 地形及測候所ノ略圖ヲ添フ可シ
第三 創立費及維持費ノ額及其支出方法
第四 職員ノ數及俸給
第十三條 內務大臣新ニ測候所ノ設立ヲ許可セハ官報ニ載セテ之ヲ全國ニ告示ス可シ
第十四條 町村又ハ人民ニ於テ新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立セント欲スルトキハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ
第十五條 地方長官新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立シ

及ヒ其設立ヲ許可セハ少クモ實施ヨリ三十日前地理局ニ報知ス可シ但暴風標ノ位置ハ密圖ヲ添フ可シ

第十六條 地理局ハ暴風標及天氣豫報揭示場ノ開設ヲ全國ニ公告ス可シ

第十七條 北海道沖繩縣ニ在リテハ本條例第四條ニ基キ該道縣ノ地方費ヲ以テ測候所ノ費用ヲ支辨ス可シ

○造神宮使廳官制 明治三十年十二月勅令第六十八號

朕造神宮使廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造神宮使廳官制

第一條 造神宮使廳ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ新宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ主掌ス

第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

造神宮使
造神宮副使
造神宮主事
造神宮屬

第三條 造神宮使ハ一人勅任トス神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク廳中ノ事務ヲ管理ス

第四條 造神宮副使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內務大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專行ス

第五條 造神宮副使ハ一人奏任トス內務省社寺局長ヲ以テ之ニ充ツ造神宮使ノ事務ヲ佐ク造神宮使事故アルトキハ內務大臣ノ命ヲ受テ其事務ヲ代理ス

第六條 造神宮主事ハ一人奏任三等以下トス使副使ノ命ヲ承

ク新宮造營神寶裝束等調進ノ事務ヲ處辨ス
第七條 造神宮屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受テ造營ノ事務ヲ分任シ職工ヲ使役シ記錄計算ヲ掌ル

○土木會規則 明治廿五年六月勅令第五十二號

朕土木會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木會規則

第一條 土木會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路築港ニ關スル重要事項ニ付內務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申ス

第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 土木會ハ會長一人委員二十人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

內務省及鐵道廳商等官三人陸軍省及參謀本部高等官二人農商務省高等官一人海軍省遞信省工科大學教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス

土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第五條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員及臨時委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ委員及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣

委員ノ任期ハ三年トス但滿期ノ後再任セラレ、コトヲ得

第六條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ內務大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第七條 會長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ委任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 會長委員臨時委員及幹事ハ無俸給トス但他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限リ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 土木會ニ書記ヲ置ク會長幹事ノ指揮ヲ受ク議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

○臨時橫濱築港局官制 明治二十五年六月 勅令第五十三號

臨時橫濱築港局官制

第一條 臨時橫濱築港局ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ橫濱築港工事を施行スルコトヲ掌ル

第二條 臨時橫濱築港局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

次長 一人

技師 四人

屬 十四人

技手 十六人

第三條 局長ハ神奈川縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

○震災豫防調査會官制 明治二十五年六月 勅令第五十五號

震災豫防調査會官制

第一條 震災豫防調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方法ヲ審議ス

第二條 震災豫防調査會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定

第三條 震災豫防調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長 一人

二 幹事 一人

三 委員 二十五人

第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ委員ノ内ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 調査上必要アルトキハ震災豫防調査會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 會長ハ震災豫防調査ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ク庶務ヲ掌理ス

第八條 震災豫防調査會ノ職員ハ一箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

但特別ノ調査ヲ擔任シ勤勞著シキ者アルトキハ本條制限以外ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 震災豫防調査會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ク議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ定員三人トシ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 調査上必要アルトキハ會長ハ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

○大藏省官制 明治二十四年七月 勅令第六十九號

大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計出納租稅國債貨幣預金保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村ノ財務ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル

一 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金辨償ニ關スル事項

二 訴訟及訴願ニ關スル事項

第三條 大藏省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 大藏省ニ左ノ五局ヲ置ク

主計局

主稅局

國債局

監査局

預金局

第五條 主計局長、主稅局長、國債局長ハ勅任トシ監査局長、預金局長ハ奏任トス

第六條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 總豫算總決算ニ關スル事項

二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

三 仕掛豫算ノ檢視ニ關スル事項

四 國庫簿ノ登記ニ關スル事項

五 歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項

- 六 豫備金支出ニ關スル事項
- 七 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前支出ノ檢視ニ關スル事項
- 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
- 九 國庫金ノ出納管理ニ關スル事項
- 十 國庫金ノ出納計算書ニ關スル事項
- 十一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
- 十二 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
- 十三 貨幣ノ制度ニ關スル事項
- 十四 物品會計ニ關スル事項
- 第七條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 土地臺帳ニ關スル事項
 - 四 稅關輸出入ノ形況調査ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 六 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項
 - 七 府縣北海道及稅關ノ諸收入ニ關スル事項
 - 八 府縣郡市町村ノ租稅ニ關スル事項
- 第八條 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣公債證書大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 紙幣公債證書及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項

- 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
- 六 年金恩給及諸款ノ給與ニ關スル事項
- 七 公債元利金公債取扱手数料年金恩給及諸款ノ仕拂豫算ニ關スル事項
- 八 國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 九 政府ノ特別資金ニ關スル事項
- 十 國債恩給及諸款計算書ノ下檢査ニ關スル事項
- 十一 府縣郡市町村ノ公債ニ關スル事項
- 第九條 監査局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 諸銀行ノ監理ニ關スル事項
 - 二 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
 - 三 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項
 - 四 大藏省所管出納官吏ノ計算書下檢査ニ關スル事項
 - 五 保護會計ノ監督ニ關スル事項
 - 六 國立銀行紙幣用紙ノ出納保管ニ關スル事項
- 第十條 預金局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 寄託金及供託物ノ出納ニ關スル事項
 - 二 寄託金及預金局特別資金ノ收支運用ニ關スル事項
 - 三 寄託金及預金局特別資金計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 四 寄託金利子仕拂元金ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 第十一條 大藏省ニ主計官七人主稅官五人ヲ置ク奏任トス主計局及主稅局ニ屬シテ其事務ヲ掌ル
- 第十二條 大藏省試補ハ十八人ヲ以テ定員トス
- 第十三條 大藏省屬ハ四百五人ヲ以テ定員トス

第十四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○分課規程 明治廿四年八月十八日 官報

官房分課程

- 第一條 官房ニ第一課、第二課、第三課、第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密文書ニ關スル事項
 - 二 機密事務ニ關スル事項
 - 三 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
- 第三條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及各局ノ成案ヲ審議立案スルコト
 - 二 會計法規ノ疑義ニ關スル事項
 - 三 訴訟及訴訟ニ關スル事項
- 第四條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 各局ノ成案ヲ考査シ及公文ヲ起草スルコト
 - 二 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト
 - 三 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
- 四 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
- 五 外國文書ノ翻譯ニ關スル事項
- 第五條 第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項

項

- 二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 三 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金辨償ニ關スル事項
- 四 省中取締ニ關スル事項
 - 主計局分課程規程
 - 第一條 主計局ニ豫算決算課、國庫課、監督課、貨幣課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 第二條 豫算決算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 三 豫備金支出ニ關スル事項
 - 四 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 五 地方經濟ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 第三條 國庫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 仕拂豫算ノ檢視ニ關スル事項
 - 二 國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 四 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前支出ノ檢視ニ關スル事項
 - 第四條 監督課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
 - 二 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 物品會計ニ關スル事項

- 第五條 貨幣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 貨幣ノ制度ニ關スル事項
- 第一條 主稅局ニ直稅課、間稅課、海關稅課、徵收課、計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 直稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 直稅ノ賦課及ヒ直稅事務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 二 土地鹽課ニ關スル事項
 - 三 府縣郡市町村ノ直稅ニ關スル事項
- 第三條 間稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 間稅ノ賦課及ヒ間稅事務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 二 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項
 - 三 府縣郡市町村ノ間稅ニ關スル事項
- 第四條 海關稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海關稅及ヒ稅關諸收入ノ賦課並ニ海關稅事務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 二 外國貿易ノ船舶及ヒ輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 三 保稅倉庫及ヒ稅關倉庫ニ關スル事項
 - 四 萬國同盟關稅誌ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ノ形況調査ニ關スル事項
- 第五條 徵收課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅ノ徵收及ヒ徵收事務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 二 府縣北海道ノ諸收入ニ關スル事項
 - 三 稅關其他本省所管ノ諸收入ニ關スル事項
 - 四 諸貸付金、官有物年賦拂下代金、官業資本金、海防費、獻納金ニ關スル事項

- 第六條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅其他諸收入ノ概算及決算ニ關スル事項
 - 二 內國稅徵收費要求ノ調査及ヒ配賦ニ關スル事項
 - 三 輸入品元價ノ換算ニ適用スル内外國貨幣比較表ニ關スル事項
 - 四 稅務統計ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ニ係ル製表ニ關スル事項
- 第一條 國債局ニ公債課、恩給課、特別資金課、計算課、照查課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 公債課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣公債證書大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 紙幣交換ニ關スル事項
 - 五 府縣郡市町村ノ公債ニ關スル事項
- 第三條 恩給課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 第四條 特別資金課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 備荒儲蓄法ニ關スル事項
 - 二 中央備荒儲蓄金收支ニ關スル事項
 - 第五條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 二 公債元利金公債取扱手數料年金恩給諸祿紙幣交換基金及整理公債金ノ仕拂豫算ニ關スル事項

- 三 國債費及備荒儲蓄金ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 四 國債恩給諸祿備荒儲蓄金計算書ノ下檢査ニ關スル事項
- 第六條 照查課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債證書及大藏省證券用紙ノ出納及保管ニ關スル事項
 - 二 仕拂濟公債證書、利札、大藏省證券、銷却濟紙幣、及損傷紙幣ニ關スル事項
- 監査局分課規程
- 第一條 監査局ニ銀行課、監督課、檢査課、庶務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 銀行課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 諸銀行ノ監理ニ關スル事項
- 第三條 監督課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項
 - 二 保護會社會計ノ監督ニ關スル事項
- 第四條 檢査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大藏省所管出納官吏ノ計算書下檢査ニ關スル事項
 - 二 銀行紙幣用紙銀行紙幣抵當公債證書出納ノ下檢査ニ關スル事項
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
 - 二 國立銀行紙幣用紙ノ出納保管ニ關スル事項
 - 三 銀行會社ノ營業報告及統計ニ關スル事項
 - 四 内外銀行事業ノ形況調査ニ關スル事項
 - 五 府縣爲換方命令書ノ檢閱ニ關スル事項
 - 六 各課ノ主務ニ屬セザル事項
- 預金局分課規程

- 第一條 預金局ニ收支課、計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二條 收支課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 寄託金及物件ノ出納ニ關スル事項
 - 二 寄託金及預金局特別資金ノ收支運用ニ關スル事項
 - 三 寄託金利子仕拂元金ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
 - 第三條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 寄託金及預金局特別資金計算書ノ調製ニ關スル事項
- 府縣稅務監査規則 明治十九年四月 大藏省令第十三號
- 府縣稅務監査規則左ノ通相定ム
- 府縣稅務監査規則
- 第一條 府縣ノ稅務ハ時々主稅官ヲ派出シテ之ヲ監査セシム
- 第二條 主稅官ハ左ノ件々ニ就キ各府縣ノ稅務ヲ監査スルモノトス
 - 各種內國稅
 - 印紙類賣捌方及取扱方
 - 檢査區畫
 - 檢査員配置計畫及檢査事務取扱方
 - 內國稅徵收費支辨ノ實況
 - 稅務諸帳簿ノ整否
 - 收稅事務取扱ノ得失
- 第三條 主稅官ハ府縣ノ稅務ニ關シ意見アルトキハ直チニ府知事(縣令)ニ協議ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 監査上時宜ニ依リ郡區役所及ヒ戶長役場ニ就キ稅務ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第五條 府縣廳ニ於テ協議ヲ遂クタル事項及ヒ監査上ノ實況ハ之ヲ大藏大臣ニ具申スルモノトス

○造幣局官制 明治二十三年七月 勅令第四百四十二號

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大阪ニ設キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造貨幣ノ鑄造賞牌ノ製造地金銀ノ精製分析及諸鑛物ノ試驗ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年七月勅令第四百二十一號ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
局長 一人 勅任
理事官 一人 奏任
技師 六人 奏任
屬 二十三人
技手 二十二名

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ク局中一切ノ事務ヲ總理ス(同上ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ク文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス(上同)
第五條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ク工業ヲ監理ス
第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ク書記簿記計算ノ事ニ從フ
第七條 技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ク工業ノ事ニ從フ
第八條 東京ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌ス
造幣支局ノ長ハ本省高等官ヲ以テ之ニ充ツ(上同)

附則(同上ヲ以テ本條各項目ヲ追加ス)
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○印刷局官制 明治二十三年七月 勅令第四百四十二號

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ兌換銀行券印紙郵便切手諸證券類ノ製造並ニ諸印刷及抄紙ノ事ヲ掌ル
第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年七月勅令第四百二十二號ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
局長 一人 奏任
理事官 一人 奏任
技師 三人 奏任
技師試補 一人
屬 四十人
技手 六十名

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ク局中一切ノ事務ヲ總理ス(同上ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ク文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス(上同)
第五條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ク工業ヲ監理ス
第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ク書記簿記計算ノ事ニ從フ
第七條 技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ク工業ノ事ニ從フ
附則(同上ヲ以テ本條各項目ヲ追加ス)
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○稅關官制 明治二十三年七月 勅令第四百四十二號

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條 稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ海關稅務ヲ掌ル
第二條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年七月勅令第四百二十三號ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
稅關長 四人 奏任
稅關副長 二人 奏任
鑒定官 五人 奏任
鑒定官試補 五人
屬 二百七人
監定吏 二十一人 判任
監吏 二十四人 判任
監吏補 二百七十四人 判任

大阪稅關長ハ神戸稅關長若クハ副長之ヲ兼テ新瀉稅關長ハ新潟縣稅關長之ヲ兼テ
第三條 稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ク稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
第四條 稅關副長ハ現任ノ稅關長ノ次等以下トス横濱神戸兩稅關ニ限リ之ヲ置キ稅關長ノ事務ヲ助ク稅關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
第五條 鑒定官ハ稅關長ノ指揮監督ヲ承ク貨物檢査鑒定ノ事ヲ掌理ス
第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ク書記簿記計算ノ事ニ從フ
第七條 鑒定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ク貨物檢査鑒定ノ事ニ從フ

鑒定官ハ課長ヲ兼ヌルコトヲ得
第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ク書記簿記計算簿記ノ事ニ從フ
第七條 鑒定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ク貨物檢査鑒定ノ事ニ從フ

第八條 監吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ク監定補ヲ監督シテ密商脫稅監視ノ事ニ從フ
第九條 監吏補ハ監吏ノ事務ヲ助ク
附則
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○軍事參議官條例 明治二十年五月 勅令第二十號

朕軍事參議官條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍事參議官條例

第一條 軍事參議官ハ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル利害得失ヲ審議セシム
第二條 軍事參議官ハ左ノ如シ
陸軍大臣
海軍大臣
參謀總長(二十二年三月陸軍省令第一號ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
監 軍

第三條 凡ソ陸軍ニ關スルモノハ陸軍大臣參謀總長監軍之ヲ審議シ海軍ニ關スルモノハ海軍大臣參謀總長之ヲ審議ス(同上ヲ以テ本條各項目ヲ改正ス)
第四條 凡ソ陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ニ於テ之ヲ審議ス

○參謀本部條例 明治二十二年三月 勅令第二十五號
朕參軍官制陸軍參謀本部條例海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例ノ制定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀本部條例

第一條 參謀本部ハ之ヲ東京ニ置キ出師國防作戦ノ計畫ヲ掌トリ及ヒ陸軍參謀將校ヲ統轄シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校陸地測量部ヲ管轄ス

第二條 陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ帝國全軍ノ參謀總長ニ親補シ

天皇ニ直隸シ唯囑ノ軍務ニ參シ參謀本部ノ事務ヲ管理セシム

第三條 參謀次長一人ヲ置キ陸軍中將若クハ陸軍少將ヲ以テ之ニ補シ參謀總長ヲ補佐ス但之ヲ置クハ事務ノ繁閑ニ從テ

第四條 凡ソ戰略上事ノ軍令ニ關スルモノハ專ラ參謀總長ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲナシ親裁ノ後平時ニ在テハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ下シ戰時ニ在テハ參謀總長之ヲ師團長若クハ特命司令官ニ傳達シテ之ヲ施行セシム

第五條 參謀本部ニ副官部ヲ置キ部内ノ庶務會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理セシム

第六條 副官大(中)佐一人ヲ置キ其下ニ部員尉官二人軍吏二人及下士屬ヲ附ス(二十三年勅令第十九號同九十五號ヲ以テ本條中追加并削除ス)

第七條 文庫主管尉官一人ヲ置キ其下ニ下士屬ヲ附ス(同上ヲ以テ本條中追加并削除ス)

第八條 參謀本部ニ左ノ二局一課ヲ置キ部事ヲ分擔セシム

第一局 出師計畫及團隊編制

第二局 交通法ノ調査

一 國防及作戦計畫並ニ陣中要務ノ規定

二 外國軍事ノ調査

一 内外地誌外國政誌及戰史ノ纂輯

二 外國書ノ翻譯

第九條 各局長參謀大佐各一人各局員ハ參謀中少佐大尉ノ内各八人ヲ置ク但定員ノ外大中尉若干ヲ附屬シ出仕將校トシテ局務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 編纂課長(少)佐一人ヲ置キ其下ニ課員佐尉官或ハ陸軍編修四人及之ニ陸軍編修書記ヲ附ス(同上第九十五號ヲ以テ本條中改正ス)

參謀職制

明治二十一年五月十二日 勅令第二十五號

參謀職制制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(二十二年勅令第二十號ヲ以テ本條中陸軍參謀本部條例ヲ廢シ同年勅令第二十六號ヲ以テ參謀職制ノ上陸軍ノ二字ヲ削除シ二十四年勅令第七十五號ヲ以テ陸地測量部條例ヲ改正ス)

參謀職制

第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス(同上)

第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ參謀本部監軍部近衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服務セシム(同上勅令ヲ以テ陸軍參謀將校アルカ(參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ)云々ノ十四字ニ改ム)

第三條 參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戦ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス(同上勅令ヲ以テ陸軍參謀將校ハ參謀將校トシテ(陸軍)ノ二字ヲ加リ(參謀將校)ノ下(本)部長トアルカ(參謀總長)ノ四字ニ改ム)

第四條 監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス

第五條 近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ

參謀官定員表

官等	參謀官定員表			
	大佐	中佐	少佐	大尉
參謀本部	二	十	六	十八
監軍部	一	一	一	三
近衛參謀部	七	七	七	二十一
合計	四十	十八	十八	四十二

事務殊ニ師團由戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス

第六條 參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定員所ノ職務ニ服ス(同上起頭陸軍)

第七條 參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

其一 陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ

其二 全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ

第八條 參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナルハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム

第九條 參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス

第十條 參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

備考

一本表定員ノ外陸軍大學校長同校兵學教官陸軍省〔總務局第三課長〕屯田兵本部參謀及各國公使館附將校東宮武官佐尉官各一名ハ參謀本部附屬參謀將校トス(二十二年勅令第九十九號ヲ以テ本條中東宮武官云々ノ十文字ヲ加フ)

二戰時ハ各師團參謀部ニ大尉一名ヲ增加ス之カ爲メ參謀本部ノ人員ヲ減スルコトヲ得而テ此缺員ハ必要ナルハ出仕將校ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

陸軍大學校條例

明治二十四年八月 勅令第七十一號

陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ陸軍各兵科ノ士官ヲ選拔シテ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者及ヒ高等指揮官トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 參謀大佐
- 副官 各兵科大中尉
- 院長 騎兵科尉官
- 獸醫 參謀佐尉官
- 軍吏 兵學教官
- 教官 各兵科佐官若クハ大尉
- 同 監督部上長官若クハ監督補
- 同 衛生部上長官若クハ一等軍醫
- 同 獸醫(校附獸醫ヲ以テ兼勤セシム)

部長 各兵科大佐
 事務官 各兵科少佐及尉官
 材料主管 各兵科大尉
 軍吏 一(二)等軍吏
 科長 各兵科中尉或少尉
 班長 各兵科少佐或大尉
 班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手
 修技所幹事 各兵科大尉
 修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師
 修技所助教 陸地測量手
 第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス
 第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ク部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ク器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ク會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク
 第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設ケ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル
 第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ク班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス
 第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ク科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ク其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事務ヲ管理ス
 第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ク各其業務ヲ分掌ス
 第十四條 科長ハ陸地測量官ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得
 第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ク學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ク學術科ノ教授ヲ分掌ス
 第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ヲ囑托スルヲ得
 ○陸軍省官制 明治二十三年三月勅令第五十一號
 陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍省官制
 第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス
 第二條 陸軍大臣官房ニ副官ヲ置ク
 第三條 陸軍大臣官房ハ副官ヲシテ之ヲ兼務セシム
 第四條 陸軍大臣官房ニ人事課ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
 一 將校及相當官並文官ノ進退任免補職特別命課増給ニ關スル事項

二 將校兵籍、文官名簿、停年名簿、職員錄並出師人名簿ノ調整ニ關スル事項
 三 退役將校ノ人事及名簿並滿期下士文官任用ニ關スル事項
 四 敘位敘勳記章褒章ニ關スル事項
 五 恩給扶助及賑恤ニ關スル事項
 〔第四條 陸軍省ニ總務局ヲ置カス〕(二十四年七月勅令第九十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 〔第五條 陸軍省ニ參事官四人ヲ置キ一人ハ文官ヲ以テ之ニ任シ三人ハ武官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼務セシム〕(同上ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 第六條 陸軍省ニ參事官書記官ヲ置カス(同上ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 陸軍省ニ理事試補二人ヲ置ク
 第七條 陸軍省ニ左ノ三局一部ヲ置ク(同上ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 軍務局 陸軍將官ヲ以テ局長ニ充ツ
 經理局 陸軍監督長ヲ以テ局長ニ充ツ
 醫務局 陸軍軍醫總監ヲ以テ局長ニ充ツ
 法官部 勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ
 第八條 各局ノ課長ハ上長官、副官及課員ハ上長官士官、副課員ハ士官ヲ以テ之ニ補シ法官部部員ハ理事試補事ヲ以テ之ニ充ツ(二十四年七月勅令第九十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 第九條 軍務局ニ第一軍事課第二軍事課馬政課砲兵事務課工兵事務課獸醫課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 第十條 第一軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 一般ノ編制及軍隊ノ編制、建制、軍隊配置、出陣準備及戒嚴、徵發ニ關スル事項
 二 軍隊諸勤務、教育、演習、檢閱、軍紀、風紀ノ規定ニ關スル事項

三 諸學校及外國留學生ニ關スル事項
 四 儀式、禮式、服制、徽章、喪紀、埋葬ニ關スル事項
 五 外國圖書翻譯及原書譯書ノ管守ニ關スル事項
 第十一條 第二軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 徵兵令、義務兵、志願兵、補充、徵集、再役、召集、復習、點呼、免除、歸休、解兵、及豫備後備軍人ニ關スル事項
 二 憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ人員及經理並下士以下補充ニ關スル事項
 第十二條 馬政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 軍馬ノ供給、經理及補充、種畜、育成、購買、拂下、貸與、廢除、蹄鐵工教成並軍馬徵發ニ關スル事項
 二 騎兵、輜重兵ノ人員及經理、下士以下補充並輜重ニ關スル事項
 第十三條 砲兵事務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 軍隊、要塞所用ノ兵器、彈藥裝備、常備豫備兵器、彈藥ノ調査、砲煩、小銃、火藥、彈藥、兵具ノ製作、經理及砲兵事務ニ關スル事項
 二 砲兵ノ人員及經理並下士以下補充ニ關スル事項
 第十四條 工兵事務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 要塞、堡壘、砲臺ノ防禦ニ係ル事務、工兵建築監視、地帶事務、工具製作、橋樑、鐵道、電信、使鶴及工兵事務ニ關スル事項
 二 工兵ノ人員及經理並下士以下補充ニ關スル事項
 第十五條 獸醫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 軍用獸類ノ衛生、獸醫部ノ教育人員及經理並補充兵籍調整ニ關スル事項

第十六條 經理局(會計局)ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(二十四年七月勅令第九十號ヲ以テ會計局ヲ經理局ト改ム)

第十七條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 監督部、軍吏部ノ人員士官以上ノ兵籍調整、軍吏部下士以下兵役免除、再服役停止ニ關スル事項
- 二 陸軍全部ノ諸給與及豫算決算、會計ニ係ル法規ノ審査、俸給諸手当旅費給與ノ法規起草ニ關スル事項
- 三 出師準備ニ係ル預額調査、中央司計部會計事務及帳簿檢査、簿記證書ノ様式調査ニ關スル事項
- 四 經理學校、(軍吏學校)軍吏部士官下士ノ補充、教育及各國軍隊給養法調査ニ關スル事項(二十四年七月勅令第九十號ニ改ム)

第十八條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 糧秣ノ豫算調製、同給與ノ法規審査起草、各地產出糧秣ノ調査、物品試驗、糧秣及炊具ノ出師準備並馬匹飼養ノ法規ニ關スル事項
- 二 被服ノ豫算調製、同給與ノ法規審査起草、陸軍全部ノ服裝調査、各國軍隊服裝法調査、被服標本調製、物品試驗並被服ノ出師準備ニ關スル事項
- 三 被服廠事務管理及檢査、被服工長學舍、製絨所並本省被服費決算檢査ニ關スル事項

第十九條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 陸軍用地、陸軍諸建築方案ノ調査其他諸建築物(砲工兵科ニテ陸軍營費豫算調査並田畑價額)ニ關スル事項
- 二 陣營具、兵營初度備付雜具費豫算調査並各隊消耗品ニ關スル事項

- 三 用度調理、官有財産及物品會計ニ關スル事項

第二十條 醫務局ニ第一課第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十一條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 衛生部ノ教育、建築及被服、糧食給水等ノ衛生上審査、斷訟醫事、軍陣醫事ニ係ル紀事、參考品並教育上圖書ニ關スル事項
- 二 衛生部ノ治療器械、調劑器械、藥物、綑帶品、戰時衛生材料、地質、氣象、理化學上ノ檢査及記事ニ關スル事項

第二十二條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 衛生部ノ戰時事務、出師準備、檢閱、恤兵會社、衛生會議、軍醫學校及各軍醫部ニ關スル事項
- 二 衛生部ノ勤務人員、補充士官候補生、志願軍醫、志願藥劑生、衛生部ノ各定員士官以上兵籍調整、衛戍病院並軍醫學校ノ經理ニ關スル事項
- 三 衛生部ノ制規起草、撰兵、廢兵、恩給診斷、衛生報告、醫事統計、軍人身材ノ紀事、傳染病豫防及轉地療養ニ關スル事項

第二十三條 法官部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 高等軍法會議事務及各法官部ノ理事錄事ノ管轄ニ關スル事項
- 二 陸軍刑法陸軍治罪法陸軍監獄則懲罰令ノ起草審査其他(司法)法律ニ關スル事項(二十四年七月勅令第九十號ヲ以テ司法ノ二字ヲ削ル)
- 三 各軍法會議ノ裁判及其事務ノ監査、軍法會議普通裁判所交涉事件並陸軍監獄ニ關スル事項

第二十四條 陸軍省ノ職員ハ別表定ムル所ニ依ル(同上ヲ以テ附則(項ヲ追加ス))

陸軍省職員定員表

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
別表(廿五年三月勅令第二十一號ヲ追加ス)

大臣次官		陸軍省職員定員表	
房官臣大	人事課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	副官	少佐	副官ヲ以テ兼補ス
	秘書官	副課員 大佐	副課員 大佐
軍務局	局長 參謀大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第一課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第二課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第三課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
軍務局	局長 參謀大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	砲兵課 課長 砲兵大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	騎兵課 課長 騎兵大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	工兵課 課長 工兵大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	醫務課 課長 獸醫大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
經理局	局長 參謀大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第一課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第二課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第三課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
醫務局	局長 參謀大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第一課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第二課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第三課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
法官部	部長 參謀大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第一課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第二課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
	第三課 課長 大佐	一課員 少佐	副課員 大佐
部員	奏任理事	一課員 少佐	副課員 大佐
	三書記 錄事	一課員 少佐	副課員 大佐

總計百八十七人内二人兼職

- 備考
- 一 各局課副課員定員中ニ於テハ軍吏部士官屬定員中ニ於テハ接手ヲ混用スルコトヲ得
 - 二 當分ノ内軍務局馬政課ニ在テハ騎兵科下士經理局ニ在テハ軍吏部下士醫務局ニ在テハ衛生部下士ヲ屬定員中ニ於テ混用スルコトヲ得
 - 三 本表定員ノ外當分ノ内本省電信取扱所ニ接手五名ヲ置ク

陸軍省處務細則(別冊)

陸軍省處務細則別冊ノ通改正ス

明治二十三年四月 陸軍省陸軍第六十八號

第一章 服務規程

- 第一條 軍務會計醫務ノ局長ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承テ掌管ノ主務ヲ整理シ部下ヲ指揮監督ス
- 第二條 課長ハ局長ノ命ヲ承テ課務ヲ擔任シ課員以下ヲ指揮シ各其事ニ服行セシメ課務ヲ整理ス
- 第三條 課員ハ課長ノ指揮ヲ承テ副課員以下ヲ督勵シ各其事ニ服行セシメ課務ヲ整理ス
- 第四條 副課員以下 文官及下士ハ上官ノ命ヲ奉シ主務ニ服ス
- 第五條 凡テ各局各課ハ本省ノ全體ヲ組成スルモノニシテ局長課長ハ省ノ機關トシテ大臣又ハ次官ニ對シ主務擔保ノ責任ヲ負ス
- 第六條 局長ハ主務整理ノ爲メ局内ノ服務規程ヲ定ムルコトヲ得
- 第七條 局長課長ハ主任ノ事務ニ就キ其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第八條 局長課長ハ主任ノ事務ニ就テハ精密ニシテ神速ニ職

- 務ヲ執行シ且事業ノ進歩ニ注意スヘシ又疑義質問等ニ對シテハ法規ノ精神及根柢ニ原キ正當ナル解釋説明ヲ與フル義務アルモノトス
- 第九條 令達令通令訓令大臣ノ職權ニ屬スト雖モ尋常定例ノ事務ニシテ通告ニ止ルモノ並ニ特ニ委任セラレタル事項ニ在テハ次官ハ陸軍全部若クハ一部又ハ他向ニ對シ通牒ヲ發スルコトヲ得
- 前項ノ外輕易ノ事件ハ文書主務副官ノ名ヲ以テ通牒スルコトヲ得
- 第十條 省務ノ重要ニ涉ルモノヲ決議シ又ハ聯帶ノ事項ニシテ迅速ノ完結ヲ要センカ爲メ大臣又ハ次官ハ各局長ヲ集メ會議ヲ開クモノトス
- 局長ハ其主務ニ係リ各局長ノ會同商議ヲ必要トナストキハ大臣又ハ次官ニ請求シテ臨時會議ヲ開クコトヲ得
- 文書主務副官ハ都テ會議ノ事ヲ擔當シ且會議ニ列スルモノトス
- 第十一條 局長又ハ課長派遣出張或ハ事故アリ不在ノ爲メ代理ヲ必要ト認ムルトキハ局長ニ在テハ大臣ヨリ課長ニ在テハ局長ヨリ特ニ代理者ヲ選定シテ之ヲ命スルモノトス
- 一時ノ病氣事故不在ニ際シテハ前項ノ例ニ依ラス上席ノ者局長ニ對シテハ課長ノ内 當務ヲ辨理シ輕易ノ當務ハ代理トシテ

檢印スルコトヲ得

- 第十二條 本則掲ケル所各局長ニ限リ規定シタル條項ハ人事課長法官部長ニ適用ス
- 第十三條 省ノ常直トシテ副官部屬官一人順次ニ宿直セシムル各局ニ於テ宿直ヲ設クルト否トハ局長ノ便宜定ムル所ニ任カス
- 第二章 副官及秘書官服務
- 第十四條 副官ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承テ大臣ノ官房ニ在テ省務ニ服事ス
- 第十五條 秘書官ヲ兼ル副官ハ本務分掌ノ外大臣ニ專屬シテ秘書官ノ勤務ニ服ス
- 第十六條 尉官タル副官ハ次官ニ專屬シ兼テ官房ノ事務ヲ補助ス
- 第十七條 副官ノ事務分掌左ノ如シ
 - 一 文書掛
 - 二 往復掛
 - 三 報告掛
 - 四 記録掛
- 第十八條 高級ノ副官ハ副官部ノ庶務ヲ監督シ且文書掛ヲ擔任ス其他ハ大臣ノ認可ヲ承テ次官之ヲ定ム
- 第十九條 文書掛副官ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大臣及次官ノ決裁ヲ要シ又ハ決裁濟ニ係ル文書機密文書ノ取扱及成案ノ審査文案起草淨寫記注印刷ニ關スル事項
 - 二 各局ニ屬セサル事項
 - 三 大臣次官官印ノ主管

第二十條 往復掛副官ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 到來文書ノ接受開封分配送達ノ事項
- 二 飛信遞送省內電信取扱所管理ノ事項
- 三 支關請用使小使給仕及省內風紀ニ關スル事項
- 第二十一條 報告掛副官ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 諸報告ノ調査遞送及報告例ニ關スル事項
 - 二 官報々告事務新聞紙發兌諸社ト通報ニ關スル事項
 - 三 諸物品管理物品會計及經費ニ關スル事項
- 第二十二條 記録掛副官ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 年報編纂及他官廳ノ要求ニ係ル編纂材料調整ニ關スル事項
 - 二 記室ノ管理及一切文書保存編纂ニ關スル事項
 - 三 靖國神社及遊就館ニ關スル事項
- 第二十三條 副官ノ内不在缺勤等ノ時ハ互ニ其分掌主務ヲ補助スルモノトス場合ニ依リ特ニ代理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十四條 前數條ノ規程ニ拘ハララス上裁又ハ機密ニ關スル差使往復及退省後休日臨時ノ處務ハ秘書官ノ所掌ニ屬ス
- 第三章 參事官服務
- 第二十五條 參事官ハ行政法律及勅令省令ニ關スル事項及帝國議會ニ關スル事務ヲ整理ス
- 第四章 文書取扱
- 第二十六條 本省ニ到來スル文書ハ凡テ大臣官房往復掛ニ於テ接受開封シ件名番號等ヲ簿冊ニ記入スヘシ
- 第二十七條 往復主務副官ハ到來文書ヲ查閱シ各局 人事課法官以下ノ審議ニ付スヘシト認定シタルモノ及尋常ノ件ハ其主務ノ各課部ヲ標示シ直ニ之ヲ配付スヘシ

第二十八條 前條受付タル文書ノ内重要ナル事項ハ文書主務副官ニ交付シ同副官ハ次官ノ査閲ニ供シ處分ノ指揮ヲ承ク又ハ指揮ニ因リ大臣ニ進呈スヘシ

第二十九條 事ノ定例ニ係リ或ハ尋常ノ事件ニシテ大臣ノ處決ヲ要セス又各局ノ審議ヲ要セスト認ムルモノハ往復主務副官ニ於テ本紙ニ次官委任ノ印ヲ捺シ之ヲ文書主務副官ニ交付シ次官ノ決裁ヲ請ヒ文書掛ニ於テ直ニ執行ス

前項ノ外輕易ノ事件ハ高級副官委任ノ印ヲ捺シ之ヲ文書主務副官ニ交付シ同官ノ處分檢印ヲ以テ文書掛ニ於テ直ニ執行スヘシ

第三十條 大臣又ハ次官ニ宛タル親展ノ文書ハ封皮ノ上ニ記號シ記簿ノ後直ニ呈スルカ又ハ祕書官若クハ次官專屬ノ副官ニ交付スヘシ交付ノ後普通文書ノ取扱トナルモノハ前三條ノ例ニ依ル

封皮上(人)ノ番號アルモノハ人事課長ヘ送付スヘシ

第三十一條 凡ソ送付ノ文書ハ送達簿ニ受領者ノ檢印ヲ要スヘシ

第三十二條 事ノ數局ニ聯帶スル文書ハ主務ノ局ニテ處分審案ヲ起草シ關係諸官ノ連印ヲ要スヘシ若シ彼此意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尙ホ決セザルトキハ直ニ大臣又ハ次官ニ而陳シテ決裁ヲ請フカ又ハ會議ニ提出スヘシ附箋ヲ以テ意見ヲ陳フルヲ許サス

第三十三條 各局調査簿ノ審案ハ之ヲ官房往復掛ニ回付シ往復主務副官ハ之ヲ文書主務副官ニ移シ同副官ハ其成案ヲ審查シ完全ナリト認メタル上之ニ檢印シテ次官ニ呈出シ次官査閲檢印ノ上大臣ノ決裁ヲ請フヘシ但文書主務副官審査ノ

時參事官ノ主務ニ關シ諮問ヲ必要ト認ムルモノハ同官ニ送付スヘシ

次官ハ大臣ノ代理ヲ爲シ又ハ委任ヲ受クル事件ハ査閲檢印ノ上直ニ執行セシムヘシ

前二項ノ外輕易ノ事件ハ次官ノ査閲ヲ要セス文書主務副官ニ於テ處分檢印シテ執行スヘシ

第三十四條 事ノ急施ヲ要シ又ハ機密ニ係ルモノハ通常ノ手續ニ依ラス直ニ大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請フコトアルヘシ

第三十五條 凡ソ人事ニ係ル事件ハ人事課長ノ擔任ニ屬シ同課長直ニ大臣又ハ次官ノ決裁ヲ請フモノトス其人ノ事ニ關シ上奏又ハ閣議ニ提出スルモノハ除クモ亦人事課長ノ所掌トス但之カ爲メ差使往復ノ事ハ第二十四條ノ例ニ依リ專ラ祕書官ノ所掌ニ屬ス

第三十六條 人事及機密ノ文書ハ通常ノ手續ニ依ラス便宜主務者ニ於テ自カラ携帶シテ取リ又ハ祕封シ主任者ト授受スルヲ要ス其決裁濟施行ニ至ル迄ノ順序モ亦便宜ニ從ヒ別ニ人事及機密文書ノ件名簿ヲ調整シテ之ヲ登錄スヘシ

第三十七條 文書主務副官ハ公文ノ原書若クハ審案書ニ大臣又ハ次官ノ檢印ノ濟否ヲ點檢シ其檢印濟ノ者ハ紙端ニ(閱)ノ字印ヲ付シ淨寫ニ附シ未濟ナル者ハ特命アルモノ、外ハ淨書送達スヘカラス

第三十八條 總テ送達スヘキ文書ハ文書掛ニ於テ淨書記注ノ上僚屬二人之レカ核合ノ證トシテ共ニ紙端ニ小印ヲ押シ文書主務副官ノ點檢ヲ受ケテ後送達日記ニ事件ノ大要ヲ錄シ一貫ノ番號ヲ記注シ尙ホ本書ニ送達日記ノ番號ヲ付シテ往復掛ニ交付シ送達スヘシ人事ニ係ル件人事課ニ於テ取扱フ

モ亦此例ニ同シ

大臣次官ノ官印ヲ要スル文書ハ文書主務副官ニ於テ其印ヲ鈐ス

第三十九條 總テ令違若クハ通牒等ニ添フヘキ書類表面圖而等ハ其發送ニ要スヘキ數ヲ其主務ノ局ニ於テ調製スヘシ尤印刷ニ付スヘキモノハ此限リニアラス

第四十條 各局ノ發議案並ニ諮問ニ對スル意見審案ノ書式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十一條 各局ヨリ呈出シタル文書ハ決裁濟ノ上ハ指令ヲ要スルモノト雖モ別ニ指令ヲ爲サス文書掛ニ於テ其本書欄外ニ(決裁濟)ノ印並關係諸局ノ印ヲ押シ更ニ往復掛ヨリ之ヲ廻送ス其局ニ於テハ領知ヲ證スル爲メニ印下ヘ局長課長若クハ課員ノ内押印シテ速ニ返送スヘシ但其書面ノ結局一般ヘ令違若クハ通牒トナリシモノハ其令違通牒ニテ領知スヘキヲ以テ別ニ本書同送ノ手續ヲ爲サス

第四十二條 各局ニ於テ文書ヲ受領スルハ日録ニ其要領ヲ取捨シテ簡短ニ記注シ日録ノ番號ヲ官房ノ受領番號ノ下ニ記注シタル上審議上答ノ手續ヲ爲スヘシ若シ單一ニ覽ニ止ルモノハ其閱覽ヲ證スル爲メ本書ニ局長課長若クハ主任ノ者押印シテ往復掛ニ返付スヘシ

第四十三條 受領ノ文書ニ對シ審案ヲ呈出スルノ日期ハ左ノ如シ

至急文書 三日内 即決ヲ要スルモノハ此限リニアラス

通常文書 七日内

此日期ハ官房受領ノ日附ヨリ其局呈出ノ日迄ヲ算ス

第四十四條 往復掛ニ於テハ各局ニ送付シタル文書ノ内審案

ヲ要スルモノニシテ所定ノ日期ニ完結セザルモノアルトキハ稍緩目錄ヲ發ス各局ニ於テ其延滞スル理由ヲ右目錄書ニ附箋シテ送付シ來レハ往復掛副官點檢ノ上之ヲ文書掛副官ニ交付シ更ニ次官ノ査閲ニ供スヘシ

既ニ呈出シタル審案及審議ニ付セザル文書ニシテ大臣又ハ次官ノ特命若クハ局長ノ意見ニ依リ一時處分ヲ見合セ留置ヘキ文書ハ文書主務副官ニ於テ之ヲ保管スルモノトス

第四十五條 凡ソ處分濟ノ文書ハ其審案若クハ之レニ關スル往復掛トモ將來ノ考據引證トナルヘキモノハ一切整頓シテ記室ニ送付シ各自之レヲ保管スルヲ許サス故ニ各局ニハ贈寫ノ簿冊ヲ備ヘス簡容ナル日録又ハ摘要等適宜ニ便法ヲ設ケ勉メテ記注ノ煩冗ヲ省クヘシ

記室ニ於テ文書整頓保存並ニ參照ノ爲メ文書貸附ノ方法等ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ據ル

○陸軍編修官官制 明治二十三年六月勅令第八十九號

陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍編修官官制

第一條 兵要戰史地誌政表編修ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク

第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス

第四條 陸軍編修ハ奏任トシ陸軍編修書記ハ判任トス

第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修 四人
編修書記 十四人

○陸地測量官官制 明治二十二年三月 勅令第三十四號

陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官官制

- 第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク
- 第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス
- 第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

○陸軍司計部條例 明治二十三年三月 勅令第五十七號

陸軍司計部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍司計部條例

- 第一條 陸軍司計部ハ東京及各地師團監督部所在地ニ之ヲ置ク
- 第二條 陸軍司計部ハ東京ニ在ルモノヲ陸軍中央司計部ト稱シ各地師團監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍司計部ト稱ス
- 第三條 陸軍中央司計部ニ左ノ職員ヲ置ク
主管 一等軍吏 一人
計算官 二三等軍吏 五人

第四條 某地陸軍司計部ニ左ノ職員ヲ置ク
主管 一等軍吏 一人
計算官 二三等軍吏 一人

○陸軍經營部條例 明治二十三年三月 勅令第五十九號

陸軍經營部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經營部條例

- 第一條 陸軍經營部ハ師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ陣營倉庫並地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且營繕ニ係ル總テノ經理ヲ掌ル所トス但砲兵工兵科ニ屬スルモノハ此限外トス(明治廿五年一月勅令第二號ヲ以テ修正)
- 第二條 陸軍經營部ハ近衛師團監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛經營部ト稱シ師團監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍經營部ト稱ス(同上)
- 第三條 經營部ニ左ノ職員ヲ置ク
主管 一等軍吏 一人
計算官 二三等軍吏 一人

建築官 四五六等技師 一人

第四條 主管ハ常該監督部長ニ隸シ部務ヲ總理シ營繕ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 計算官建築官ハ主管ノ命ヲ承テ事務ヲ分掌ス

第六條 第三條ニ掲クル職員ノ外技師若クハ屬若干人ヲ置ク

○陸軍經理學校條例 明治二十三年十一月 勅令第六十五號

陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經理學校條例

- 第一條 陸軍經理學校ハ陸軍監督及陸軍軍吏ヲ養成スル所トス
- 第二條 本校ノ教育ヲ分テ監督教育科及軍吏教育科トス
- 第三條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省會計局長ノ管理ニ屬ス
- 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長 一等監督
幹事 監督補 二三等監督
監 監督補 二三等監督
教 一二等軍吏 授
- 第五條 校長ハ陸軍省會計局長ニ隸シ校務ヲ總理シ教育ノ方法ヲ規畫シ及學生教育ノ責ニ任ス
- 第六條 幹事ハ庶務ヲ擔任ス其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ノ内監督及教授ハ兩教育科ノ教授ヲ擔任シ軍吏ハ專テ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任ス但翻譯ニ從事セシムルコトアルヘシ

監督教育科

第八條 監督教育科ハ各兵科中尉ノ志願者ヲ募リ監督學生ト爲シ陸軍監督ニ必要ナル學術ヲ教授ス

第九條 監督學生ノ修學期ハ二箇年トス

第十條 監督學生ノ入學時期並召集ニ係ル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條 監督學生ノ人員及入學試驗格例ハ會計局長ノ申稟ニ因リ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條 監督學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

第十三條 監督學生ノ名籍ハ原所管ニ存置シ尙ホ入學中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願願等ハ總テ本校ノ官條ニ準ス

第十四條 監督學生修學中卒業ノ目途ナキ者ハ除職ノ上退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム

第十五條 監督學生ハ每學年ノ末ニ大試驗ヲ施行シ第二學年ノ末ニ於テ及第スル者ニハ監督適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ陸軍監督補ニ任ス
中尉ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨

トス

第十六條 監督學生修學中傷疾疾病ノ爲メ大試験ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尙ホ若干月修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ大試験ヲ施行スルコトアル可シ

軍吏教育科

第十七條 軍吏教育科ハ一等書記ノ内ヨリ選抜シ並各兵科曹長ノ志願者ヲ募リ軍吏學生ト爲シ陸軍軍吏ニ必要ナル學術ヲ教授ス

第十八條 營内居住ノ曹長ニ在リテハ入學中營外居住トス

第十九條 軍吏學生ノ修學期ハ十箇月トス

第二十條 第十條乃至第十四條及第十六條ハ軍吏學生ニ適用ス

第二十一條 軍吏學生ハ學期末ニ於テ大試験ヲ施行シ及第スル者ニハ軍吏適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ本官ヲ免シ更ニ陸軍三等軍吏ニ任ス

曹長ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部又ハ隊附軍吏ノ許ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

○砲兵工廠條例 明治二十三年八月 勅令第三百七十二號

朕砲兵工廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵工廠條例

第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造及修理スル所トス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其製造所ヲ設クル

コト左ノ如シ

東京砲兵工廠
小銃製造所
銃包製造所
火具製造所
砲具製造所
板橋火藥製造所
岩鼻火藥製造所
大阪砲兵工廠
火砲製造所
砲架製造所
彈丸製造所
火具製造所
砲具製造所

第三條 兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其他ハ砲兵方面支署所在地ニ工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其事ヲ管掌セシム但其經費ハ總テ工廠ノ負擔トス

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理 砲兵大佐 一人

副提理 砲兵少佐 一人

檢査官 東京砲兵少佐 一人
大阪砲兵少佐 一人

製造所長 砲兵大中尉若クハ技師 一人
一等軍醫 東京砲兵工廠ニ在テハ砲兵工廠會軍醫ヲ以テ兼補ス

技師若クハ技師試補 東京 一人
大阪 一人

第五條 第四條ニ掲クル職員ノ外砲兵上等監護及技手屬若干ヲ置ク但技手ニ限リ當分ノ内砲兵科下士ヲ混用スルコトヲ得

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ兼テ工廠ニ屬スル建築工事ヲ掌トリ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學舍ヲ監督シ其實業教授ノ事ヲ管理ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ工廠ノ事務ヲ整理ス

第八條 檢査官ハ製造ノ兵器彈藥審査檢定ノ事ヲ掌ル

第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任ス

第十條 技師及砲兵上等監護技手屬ハ上官ノ命ヲ受テ其事務ヲ分掌ス

第十一條 砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ屬若干ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受テ兵器修理ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム

第十二條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニテアランハ製造スルコトヲ得ス但砲兵會議議長ヨリ試驗ノ材料模範等ヲ要求スルトキハ此限ニアラス

第十三條 官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキ軍用ノ製造事業ニ妨クナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得但軍用制式ノ製造ハ必ス陸軍大臣ノ許可ヲ經ヘシ

第十四條 工廠及製造所附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アンハ提理ヨリ地方衛戍司令官ニ牒告シテ衛兵ノ派遣ヲ請ヒ守備ヲ嚴ニス

附則

第十五條 連發銃並海岸砲創製中各工廠ニ佐官各一人ヲ置ク

○陸軍砲兵工科學舍條例 明治二十三年七月 勅令第三百二十號

朕陸軍砲兵工科學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學舍條例

第一條 陸軍砲兵工科學舍ハ砲兵諸工專門ノ工術ヲ教授シ火工下士及鐵工銃工木工鐵工諸長ニ任用ス可キモノヲ養成スル所トス

第二條 火工ハ砲兵隊上等兵中志願ノモノヲ撰抜分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上ノ各兵諸卒中志願ノ者ヲ撰抜シテ生徒トナシ合シテ生徒隊ヲ編成ス

但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルニトアル可シ

第三條 學舍ニ左ノ職員ヲ置ク

舍長 砲兵少佐 一人

副官 砲兵中尉 一人

生徒隊長 砲兵大尉 一人

生徒隊附士官 砲兵中尉 三人

二三等軍吏 一人

一等軍醫 一人

第四條 舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

舍長ハ東京砲兵工廠副提理ヲ以テ兼補ス

第五條 副官ハ舍中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 生徒隊長ハ學生及生徒訓育ノ事ヲ掌リ隊附士官以下ヲ指揮シ隊中諸般ノ事務ヲ總理ス

現行日本法令大全

第七條 生徒隊附士官ハ訓育ノ細務ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス

第八條 本部及生徒隊ニ砲兵科下士若干人ヲ置キ其本部附下士ハ副官ノ下ニ在テ庶務ニ服シ生徒隊附下士ハ隊中ノ細務ニ從事セシム

軍吏ノ下ニ軍吏部下士軍醫ノ下ニ衛生部下士若干人ヲ置キ各其事ニ服セシム

第九條 前條ノ外陸軍助教若干人ヲ置キ圖畫授業ノ事ヲ擔任セシム

第十條 修業期限ハ學生ニ在テハ概テ一箇年トシ生徒ニ在テハ概テ二箇年トス但修業中疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得

第十一條 學生及生徒各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス其生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十二條 生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十三條 近衛都督團團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工術ニ適當ノ者ヲ選拔セシメ入舍期十日日前マテニ其名簿ニ履歷書ヲ添ヘ舍長ニ送達セシム

生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ検査合格ニ適スル者ヲ選拔セシメ其名簿ヲ舍長ニ送達セシム

第十四條 學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス

第十五條 生徒修業ノ費用其他被服食料旅費等ハ一切官給ト

シ且若干ノ手當金ヲ給ス

第十六條 學生分遣入舍中願屆等ニ關スル事件ハ總テ舍長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舍スルヲ許サズ然レトモ傷疾疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目途無キ者ハ退舍セシム其諸卒ヨリ入舍ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除ク外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役中ノ日數ヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第十八條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ハ卒業ノ後原隊ニ復歸シ更ニ三年間現役ニ服セシメ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

○陸軍被服廠條例 明治二十三年三月 勅令第五十八號

陸軍被服廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及各部ニ給スル被服地質ノ調辨分配及被服標本ノ格納並豫備被服及地質ヲ貯藏スル所トス

第二條 被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク
 主管 一等軍吏 一人
 被服官 二三等軍吏 二人

第三條 主管ハ會計局長ニ隸シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

現行日本法令大全

第四條 被服官ハ主管ノ命ヲ承テ事務ヲ分掌ス

第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬若干人ヲ置ク

○陸軍被服工場學舍條例 明治二十三年三月 勅令第三十號

陸軍被服工場學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍被服工場學舍ハ陸軍省會計局ニ屬シ陸軍縫工長靴工長トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本舍ニ左ノ職員ヲ置ク
 學舍長 陸軍三等監督 一名
 幹事 陸軍一等軍吏 一名
 副幹事 陸軍二三等軍吏 二名
 陸軍一等軍醫 一名 (二十三年八月十六日勅令 第三百七十七號ヲ以テ本項ヲ追加)

第三條 學舍長ハ陸軍省會計局長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學生教育技術進歩ノ責ニ任ス

第四條 幹事ハ學舍長ノ命ヲ奉シ學舍中一切ノ事務ヲ擔當ス

第五條 副幹事ハ學舍長ノ命ヲ奉シ學生教育ノ事務ヲ分擔シ兼テ工場ノ監視ニ任ス

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士屬若干名ヲ置ク

第七條 教員ハ備員及ヒ傭人ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 (同上ヲ以テ別除)

第九條 學生ハ現役豫備役後備役ノ籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ検査合格ノ者ヨリ之ヲ採用ス

第十條 學生ノ修業期限ハ概テ一箇年半トス

第十一條 學生ノ人員及ヒ検査合格例ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十二條 學生ハ舍内ニ居住セシメ修業用品ハ之ヲ貸與或ハ支給ス (二十四年十一月勅令第三二號 百二十一號ヲ以テ改正ス)

第十三條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ學舍長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生修業中品行不正或ハ軍紀ヲ遵守セス又ハ屢々法則ヲ犯シ若クハ疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者及ヒ將來工長ノ任ニ堪ヘ難キ者ハ之ヲ退舍シ其現役ノ者ハ原隊ニ豫備役後備役ノ者ハ原籍ニ復歸セシム

第十五條 疾病ノ故ヲ以テ缺課多キモノハ軍醫ノ診斷ニ依リ學舍長ノ意見ヲ以テ學期ヲ延ルコトアルヘシ但會計局長ノ認可ヲ請フヘシ

第十六條 學生卒業ノ上ハ該工長適任證書ヲ授與シテ歸隊或ハ歸郷セシム

第十七條 學生優等ノ者ハ學期未滿ト雖モ工長適任證書ヲ與ヘ教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

○陸軍病院條例 明治二十一年十一月 陸軍省陸軍第三百二十三號

明治八年十月達第九十七號陸軍病院條例別冊ノ通改正ス
 但明治十九年三月省令乙第十六號陸軍軍醫官職務章程廢止ス

陸軍病院條例 (別冊)

第一章
 第一條 陸軍病院トハ衛戍病院及衛戍地外ノ病院ヲ總稱シ其

現行日本法令大全

他小部隊ノ駐屯地ニ在ル病室ヲ包含ス

第二條 平時陸軍病院ニ於テ治療ヲナスヘキ者左ノ如シ(二十四年三月十六日陸軍省達第二十號ヲ以テ本條各項改正ス)

- 一 營内居住ノ下士以下
- 二 營内居住ノ下士以下ニシテ現役、服役若クハ生徒ヲ免セラレ又ハ召集解散ノ際傷疾疾病ニ依リ歸郷シ得サル者
- 三 營外居住ノ軍人軍屬ニシテ傷疾疾病ニ罹リ特ニ入院治療ヲ請求シタル者

第三條 第二條第一項ノ者ニ在テハ治療費ハ病院ノ費用ニシテ糧食ハ陸軍給與令第四章第二十六條第一項ニ據ル但一年志願兵條例第五條第二項ノモノハ此限ニアラス(二十四年三月十六日陸軍省達第二十號ヲ以テ本條改正ス)

第四條 第二條第二項ノ者並第三項ノ内公務ニ起因シタル者ニ在テハ治療費糧食トモ病院ノ費用トス(上)

第五條 第二條第三項ノ内公務ニ起因セザル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者ニ在テハ治療費ハ一日金拾錢ヲ納メシメ糧食ハ本人ヨリ陸軍給與令第九表ノ定額ニ依リ之ヲ辨償セシム但下士兵卒及生徒ニ在テハ其治療費ニ限り病院ノ費用トス(上)

第六條 軍人軍屬ニシテ演習若クハ行軍若クハ軍隊旅行中傷疾疾病ニ罹リタル者ヲ地方醫師若クハ地方病院ニ依託シタルトキ其診斷料治療費又ハ入院料ハ陸軍病院ヨリ實費ヲ支辨ス但本人ノ便宜ニ依リ地方醫師若クハ地方病院ノ治療ヲ受クル者ハ此限ニアラス(上)

第七條 (同上ヲ以テ刪除ス)

第八條 調製補アラサル地方又ハ調製補アルモ止ムヲ得サル場合ニ在テハ軍人軍屬ニ限リ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑ヲ特ニ請求シタルモノアルトキハ陸軍病院ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノ、他ハ一日ノ藥價金四錢ヲ納メシム(同上ヲ以テ改正ス)

第二章 衛戍病院

第九條 衛戍病院トハ衛戍地ニ在ル病院ニシテ某地衛戍病院ト稱ス

第十條 衛戍病院ニハ教育所ヲ置キ看護學修業兵ヲ教育ス其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 各隊及官廳附ノ一三三軍醫ハ所屬部隊ノ勤務ト所在地病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務ニ於テハ病院專屬ノ醫ト異ナルコトナシ

第十二條 師團司令部所在地ノ步兵聯隊附軍醫正ハ所屬部隊ノ勤務ト病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務ニ就テハ院長ニ隸シ若干ノ病室ヲ分擔シテ治療其他事務ヲ掌理シ兼テ一等軍醫以下ノ勤務ヲ監視ス而シテ管掌ノ事ニ就テハ院長ニ對シ其責ニ任ス(二十四年三月十六日陸軍省達第二十號ヲ以テ本條中ヲ刪)

第十三條 衛戍病院ニハ看護人磨工厨夫ヲ雇役ス其人員ハ別ニ定ム(二十四年陸軍省達第二十號ヲ以テ本條中改正刪除ス)

第十四條 院長ハ衛戍司令部官タル團隊長ニ隸シテ院内百般ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ主宰シ軍紀風紀ヲ維持シ部下官僚ヲ指揮シテ各其職務ヲ分擔セシメ又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

第十五條 院長ハ會計經理上ノ事ヲ周密ニ調査シ勉メテ諸事ヲ節略シ元費ヲ省クヘシ而シテ毎月會計經理ノ書類ヲ實査

現行日本法令大全

スルモノトス

第十五條 院長ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第十六條 院長ハ事務ノ得失並ニ購買品ノ精粗適否ニ就テハ官僚ヲ會シ自カラ議長トナリ之ヲ議セシムルモノトス

第十七條 院長ハ治療其他事務ノ整否ヲ監察シ若シ不整頓ノ事ヲ認ムルトキハ主任者ヲ督責スヘシ

第十八條 院長ハ各隊及官廳附醫官ノ病院勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長(近衛各隊附醫官ノニ進達スヘシ)院長ハ病院勤務ニ服スル各隊及官廳附醫官ノ才能伎倆其他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用ニ供スル爲メ毎年未之ヲ所管軍醫長(近衛各隊附醫官ノニ開申スヘシ)(二十四年三月十六日陸軍省達第二十號ヲ以テ本條改正ス)

第十九條 院長ハ院内患者ノ景況ヲ時々所管軍醫長ニ開陳シ又治療ノ方法ニ就キ軍醫長(近衛ノ患者ハニ稟議スルコトヲ得)院長不在ノトキハ病院所在地ノ高級醫官之カ代理

第二十條 院長不在ノトキハ病院所在地ノ高級醫官之カ代理

第二十一條 一等軍醫ハ院長ノ指揮ヲ承ク患者ノ治療院中ノ事務ヲ擔任ス

一等軍醫掌務ノ概目左ノ如シ

- 一 病室ニ於テ掌ル事項
- 二 患者ノ治療
- 三 處方箋ノ監視
- 四 病室日誌ノ調製
- 五 月報及年報ニ係ル編纂材料ノ調査
- 六 病室内外洒掃ノ注意

六 患者ノ食物、入浴、散步等ノ示定

七 擔當ノ病室附看護長ノ訓導看護病人ノ教育及其勤務行狀ノ監視

其二 事務室ニ於テ掌ル事項

- 一 具申照會等文書ノ起草淨書
- 二 日記ノ記注及文書ノ受領送達
- 三 患者ノ入院ノ取扱
- 四 外來患者ノ診斷
- 五 診斷書ノ調製
- 六 衛生報告ノ調製
- 七 病床日誌及處方箋ノ保存
- 八 轉地療養ニ關スル事
- 九 看護學修業兵ノ教育ニ關スル事
- 十 院中人事ニ關スル事
- 十一 書籍ノ出納
- 十二 臨時副病院ノ開設ニ關スル事
- 十三 勤惰錄及門鑑ノ監守

第二十二條 一等軍醫ハ治療ヲ擔任スト雖トモ大手術ヲ行フヘキ患者アルトキハ二等軍醫正若クハ他ノ一等軍醫ニ商議シタル後院長ニ稟議ノ上之ヲ行フヘキモノトス但急テ要スル場合ニ在テハ此限ニアラス(二十四年三月十六日陸軍省達第二十號ヲ以テ本條改正ス)

第二十三條 一等軍醫ハ二三等軍醫ト混同シテ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ而シテ當直ノ醫官ハ午後各病室ヲ回診シ且臨時ノ事ヲ處理スルモノトス但當直人員ハ院長適宜之ヲ定ムヘシ(同上ヲ以テ本條中改正ス)

第二十四條 二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ補助シ分擔ノ事務ニ服

ス而シテ一等軍醫不在ノトキハ其掌務ヲ代理ス(同上ヲ以テ各等)二三等軍醫ハ看護長以下ヲ監視シ患者ヲシテ病室ノ規則ヲ遵守セシムルハシ

病院專屬ノ二三等軍醫ハ毎朝一等軍醫回診前看護長ヲ隨ヘ擔當ノ室ヲ回診シ前日來ノ症狀ヲ病床日誌ニ記注シ置クモノトス

第二十五條 藥劑官ハ院長ノ指揮ヲ承ケ調劑及藥物器械等ニ係ル事務ヲ整理シ兼テ調劑手ノ訓練ヲ掌ル

藥劑官ハ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ但一名ナルトキハ院長適宜ニ之ヲ定ムヘシ(同上ヲ以テ各等)

藥物及治療消耗品其他治療器械調劑器械等缺乏又ハ破損スルトキハ其買辦及修理スヘキ品目數額ヲ傳票ニ記載シ調劑官ノ上院長ノ檢印ヲ請ク軍吏(師團司令部所在地外ノ病院ニ在リテハ軍吏部以下之ニ依リテ)ニ移シテ之ヲ受領シタルトキハ審査ノ上受領證ヲ交付スヘシ

藥劑官掌務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在リテハ兼テ其所在地ニ於ケル各隊ノ調劑ヲ掌ル

一 藥物及治療消耗品ノ貯蓄出納及治療器械調劑器械ノ保存修理

二 調劑製藥

三 院內 東京衛戍病院ニ在テ及所在地各部隊(熊本衛戍病院ニ在テハ沖野兵隊病院ヲ包含シ東京衛戍病院ニ在テハ砲兵二藥劑及治療消耗品射的學校要塞砲兵幹部練習所沖細分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊ヲ包含ス)治療器械調劑器械ノ配與並器械ノ修理交換(二十二年七月省令第二十號ニ追加ス)

四 藥物並治療消耗品治療器械調劑器械等ノ計算並報告

五 出師準備ノ物品ヲ交新スル事項

六 磨工ノ研磨修理ニ係ル事項

七 見習藥劑官及調劑手ノ訓練並勤務行狀ノ監視

第二十六條 軍吏ノ服務ハ別ニ定ムル所ニ據ルト雖トモ病院ニ於ケル掌務ノ概目左ノ如シ(同上ヲ以テ各等)

一 經費ニ係ル計算及統計報告

二 支出金ノ請求收入金ノ納附

三 患者自辨ノ治療費糧食費及拂下費價ノ領收

四 藥物並治療消耗品、治療器械、調劑器械ノ買辦修理

五 消耗品其他備附器具ノ買辦修理

六 糧食給與並炊爨ニ關スル事

七 被服給與及買辦修理

八 厨夫洗濯夫及裁縫職工(師團司令部所在地外ノ病院ニ在リテハ洗濯夫及裁縫職工ヲ除ク)ニ關スル事

九 戰時用患者ノ被服器具等ノ保存並其被服器具及消耗品等ヲ平時ニ使用スル事項

第十 病院附下士以下給與ニ關スル事項

第二十七條 下士以下ハ上官ノ命ヲ奉シ左ニ掲ケル所ノ各項ニ就キ各其事ニ服ス

其一 看護長ノ職務ヲ別テ書記及病室附教育所附トス而シテ其職務ハ左ノ如シ

一 書記看護長ハ文書ノ受領送達諸記錄ノ記注等ニ從事ス

二 病室附一等看護長ハ若干ノ病室ヲ擔當シ所屬二三等看護長ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ看護ノ親疎病室ノ整頓ニ注意シ且看護人ノ教育ヲ掌リ並ニ看護人服裝ノ取締ヲナ

ルコトニ注意スヘシ而シテ其事項ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ受ク

第四章 病室

第三十一條 病室ハ步兵一聯隊ニ充テタル衛戍地及砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖細分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊ニ置ク(二十二年七月二十六日陸軍省令第二十號)

第三十二條 病室ハ某地衛戍病院ト稱ス但砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖細分遣歩兵隊長及長崎分遣砲兵隊ニ在テハ某校所(隊)病室ト稱スヘシ(同上)

第三十三條 病室ハ其地衛戍司令官タル隊長(砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖細分遣砲兵隊長及長崎分遣砲兵隊長以下之ニ依リテ本條中ニ追加ス)

第三十四條 病室ノ事務ハ所在地部隊ノ衛生部員之ヲ掌リ會計ノ事務ハ部隊ノ軍吏部員之ヲ掌ル(同上)

第三十五條 (二十四年三月十六日陸軍省令第二十號) 第三十六條 高級醫官ハ衛戍司令官タル隊長ニ隸シテ病室ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ擔任シ軍紀風紀ヲ維持シ僚屬ヲ指揮シテ各其職務ヲ分掌セシメ又下士以下ノ訓練教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖細分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊病室ノ會計經理ハ其長之ヲ管理ス(同上)

第三十七條 高級醫官ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第三十八條 高級醫官ハ衛戍地外ノ醫官ノ病室勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長ニ進達スヘシ

スハシ又二三等看護長ハ所屬看護病人ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ又患者ノ看護、諸物品ノ出納並保存、病室ノ清潔、看護病人ノ教育等ニ從事ス

三 教育所附看護長ハ教場ヲ整頓シ備附器具ノ保存、諸物品ノ出納及看護學修業兵ノ取締ニ從事ス

其二 調劑手ノ職務ヲ別テ器械室附藥室附トス而シテ其服務ハ左ノ如シ

一 器械室附調劑手ハ治療器械調劑器械及綑帶品等ノ出納並之ニ係ル諸記錄ノ記注ニ從事ス

二 藥室附調劑手ハ調劑製藥ノ助手ヲナシ且藥物出納ニ係ル諸記錄ノ記注ニ從事ス

其三 軍吏部書記ハ簿籍ノ記載及其他計算等ニ從事ス

其四 看護病人ハ看護長ノ命令ヲ遵守シ患者ヲ看護シ且病室内外ノ洒掃、看者ノ食物配與等ニ從事ス

其五 磨工ハ治療器械及調劑器械ノ研磨及修理ニ從事ス

其六 厨夫ハ患者ノ炊爨ニ從事シ且師團司令部所在地ノ病院ニ在テハ看護學修業兵ノ炊爨ニモ亦從事スヘキモノトス

第三章 衛戍地外ノ病院

第二十八條 衛戍地外ノ病院ハ其所要地ニ置キ該地官衙ノ管轄ニ屬シ某衛病院ト稱ス

第二十九條 院長以下ノ職務ハ第十一條ノ第一項及第十二條乃至第二十七條ヲ適用ス

第三十條 院長ハ第二十九條ノ外所在地部隊ノ衛生事務及衛生部下士以下ノ教育上ヲ監視シ且諸事ヲ畫一ニナラシム

第三十九條 病室ニ於テ行ヒ難キ治療ヲ要スル患者アルトキハ最近ノ陸軍病院ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

第四十條 當直ハ患者ノ景況ニ依リ所屬醫官便宜之ヲ爲ス

第四十一條 病室事務ノ概目左ノ如シ

- 一、日記ノ記注及文書ノ收領送達
- 二、患者ノ入室ノ取扱
- 三、外來患者ノ診斷
- 四、診斷書ノ調製
- 五、衛生報告ノ調製
- 六、病床日誌及處方箋ノ調製並保存
- 七、書籍ノ出納勤惰録ノ監守
- 八、轉地療養及臨時副病室ノ開設ニ關スル事項
- 九、病室及所在地部隊ノ調劑
- 十、藥物及治療消耗品ノ治療器械、調劑器械ニ關スル事項
- 十一、下士以下ノ訓導教育ニ關スル事項
- 十二、以上概目ノ外第十九條及第二十四條乃至第二十七條ニ準據スルコトヲ得

○陸軍軍醫學校條例 明治二十一年十二月勅令第九十七號

陸軍軍醫學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍醫學校ハ在職醫官ヲ召集シ軍陣衛生事項ヲ實驗講究セシム並ニ醫官候補生選劑官候補生ヲ養成スル所トス

第二條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ノ管理ニ屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十二年十二月二十日勅令第九十三號ヲ以テ各員共改正ス)

校長 軍醫監 一人

教官 一等軍醫正若クハ二等軍醫正 三人

監事 一等軍醫 二人

教官ハ定員ノ外衛生部士官以上ニシテ本職アル者ヨリ兼職セシムルコトヲ得

第四條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ養成ノ方法ヲ規畫シ軍紀風紀ヲ維持シ所屬職員ヲ統督シ校中一般ノ事ヲ總理ス

第五條 校長ハ本校ノ官僚召集醫官及候補生ニ對シ懲罰權及休暇附與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ

第六條 教官中高級ノ者ハ勤務ヲ整理シ教場ノ秩序ヲ保存スルコトヲ掌ル校長不在ノトキハ其職務ヲ代理ス

第七條 高級教官ハ諸報告ヲ査閱シテ校長ニ呈シ其委任ノ事項ハ處分シタル後校長ニ申報スルコトヲ得

第八條 教官ハ教授教育及試驗ノ事ヲ掌ル

第九條 監事ハ召集醫官及候補生ノ勤怠容儀品行ヲ監督ス

第十條 第三條ニ掲ケル職員ノ外屬若クハ下士若干員ヲ置キ文書ノ受送試藥ノ出納等ニ從事セシム

第十一條 召集醫官ノ召集ハ陸軍省醫務局長其人員並召集時期ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 召集醫官ノ講究期ハ四箇月以内トシ毎年二回召集スルモノトス

第十三條 召集醫官講究期終ルハ校長ハ其成績ヲ醫務局長ニ具申シ原所管ニ復歸セシム

第十四條 召集醫官ハ通學セシメ修學上所要ノ諸器械及書籍消耗品ハ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十五條 召集醫官ハ其名籍固ヨリ原所管ヲ離ル、コトナシト雖モ召集中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願願等ハ總テ本校附官僚ニ準シ又原所管ヨリ本人ニ違スヘキ諸件ハ必ス本校長ヲ經由スルモノトス

第十六條 (二十四年十一月勅令第九十九號ヲ以テ本條ヲ削除)

第十七條 召集醫官入校中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルコトヲ許サス但疾病等ニテ修學講究ニ堪フル目的ナキ者ハ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ

○陸軍重症病馬治療所官制 明治二十一年六月勅令第五十號

陸軍重症病馬治療所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍重症病馬治療所官制

第一條 陸軍重症病馬治療所ハ東京ニ之ヲ置キ府下陸軍部内ノ重症病馬ヲ治療シ及ヒ獸醫學術ニ關スル事項ヲ講究實驗スル所トス(二十二年十二月十七日勅令第九十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二條 陸軍重症病馬治療所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

二三等獸醫 三人

軍吏部下士 二人

第三條 所長ハ一等獸醫ノ内本職アル者ヨリ兼補シ陸軍省總務局獸醫課長ヲ管理ニ屬シ所務ヲ整理ス(上)

第四條 二三等獸醫ハ所長ノ指揮ヲ承ケ病馬ノ治療其他ノ所務ヲ分掌ス

二三等獸醫ハ一人ヲ本職トシ二人ヲ兼務トス

第五條 軍吏部下士ハ計算簿記ノ事ニ從フ

第六條 第二條ニ掲ケル職員ノ外備員若干ヲ置ク

○軍馬育成所官制 明治二十三年三月勅令第六十一號

陸軍馬育成所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬育成所官制

第一條 軍馬育成所ハ軍用馬匹ヲ育成シ之ヲ供給スル所トス

第二條 軍馬育成所ノ名稱及位置左ノ如シ

- 一 中央軍馬育成所 東京府下
- 二 三本木軍馬育成所 青森縣上北郡三本木
- 三 鍛冶谷澤軍馬育成所 宮城縣玉造郡鍛冶谷澤
- 四 青野軍馬育成所 兵庫縣加東郡青野原
- 五 福元軍馬育成所 鹿兒島縣霧山郡福元

第三條 軍馬育成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 騎兵大尉若クハ技師 一人

監務 騎兵中少尉若クハ技師 一人

軍吏 一人

獸醫 一人

中央軍馬育成所ノ職員ハ時宜ニ依リ他ニ本職アル者ヨリ兼務セシム

第四條 所長ハ陸軍省騎兵局長ニ隸シ所内ノ事務ヲ總理シ馬匹養成ノ責ニ任ス

第五條 監務ハ所長ノ職務ヲ補佐ス

衛戍武庫職官表 (二十二年三月三十日勅令第四十四號ヲ以テ本表ヲ改正ス)

位階	階級	士	官	准	士	官	下	士	計
東京	仙臺	主	大				監		
名古屋	大阪	大	尉				火工(下)長		
廣島	熊本						鞍工(下)長		
佐倉	高崎						銃工(下)長		
青森	新發田						銃工(下)長		
金澤	津橋								
姫路	大津								
小倉	福九								
松山	福九								
小倉	網龜								
考備	本表定員ノ外東京ニ在ラハ上等監護一名火工(下)長一名銃工(下)長一名ヲ増加スルコトヲ得								

衛戍監獄職官表 (上)

位	階級	士	官	准	士	官	下	士	計
東	京	長	副						
大	阪	長	副						
仙臺	名古屋	長							
廣島	熊本	長							
青森	金澤	長							
松山	小倉	長							
考備	一 青森、金澤、松山、小倉衛戍監獄ノ衛生事務ハ所在地病院附二三等軍醫ヲ以テ兼掌セシム 二 看守長看守卒ノ定員ハ最上限ヲ示スモノナリ故ニ囚人寡少ノ時ニ在テハ減少スルコトアルヘシ								

千住製絨所官制 (明治二十三年十月勅令第二百二十三號)

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌ル

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

事務官 一人

技師 一人

技師試補 一人

屬 五人

助手 四人

第三條 所長ハ奏任一等以下三等以上トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク所中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 事務官ハ奏任四等以下トシ所長ノ指揮監督ヲ承ク又書會計ノ事ヲ掌リ所長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第五條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ク製絨ニ關スル事ヲ監理ス

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ク書記計算簿記ノ事ニ從フ

第七條 助手ハ上官ノ指揮ヲ承ク製絨ニ關スル技術ニ從事ス

○千住製絨所長服務規程 (明治二十一年七月勅令第二百五十四號)

千住製絨所長服務規程別紙ノ通定ム

千住製絨所長服務規程 (別紙)

第一條 千住製絨所長ハ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌トリ尚ホ餘力ヲ以テ他ノ官術或ハ人民需用ノ絨類ヲモ製造セシムルモノトス

第二條 製絨ノ事業ハ益精良ニ至ラシメ軍用ノ地質ハ特ニ堅固ナルヲ目的トス可シ

第三條 千住製絨所ノ經費ハ一切作業費出納條例ニ據リ施行ス可シ

第四條 家屋倉庫ノ新築増築及ヒ器械ノ新調等ハ其方案ヲ具シ陸軍大臣ノ許可ヲ得タル後事ニ從フ可シ但新築増築ニ係リ工事竣ル時ハ履歴表並ニ之ニ屬スル圖面ヲ添ヘ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第五條 總テ不用ニ屬シタル家屋物品等賣却スルニ該リ一ト廉五十圓ヲ超ユルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ後行フ可シ

第六條 左ニ掲クル諸項ハ所長之ヲ專行スルコトヲ得

- 一 俸給其他成規アル收支
- 二 製絨用品及ヒ製造品ノ賣買並應中需用品ノ買辦
- 三 豫算額内ヲ以テ家屋倉庫ノ修繕及ヒ器械ノ缺損ヲ補ヒ又ハ其修繕
- 四 不用品ニシテ一ト廉五十圓以下ノ物品及ヒ廢品ノ賣却
- 五 所員ニ事務ノ命課
- 六 備員ノ罷免
- 七 巡視小使給仕定詰夫定員内備入及ヒ解備
- 八 巡視小使給仕定詰夫懲戒
- 九 事業上業務ノ爲メ所員ヲ横濱其他近傍ヘ差遣
- 十 主管ノ事務ニ關シ他ノ官署ニ文書往復

現行日本法令大全

十一 備夫職工等負傷者手當金扶助料及ヒ埋葬料成規ニ據
リ給與
十二 所管ノ備品ヲ内國博覽會共進會等へ出品及ヒ貸與

○監軍部條例 明治二十年五月三十一日
勅令第十八號

陸監軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監軍部條例

第一條 監軍部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊練成ノ齊一ヲ規畫
セシム
第二條 監軍部ニ監軍一人ヲ置キ大將若クハ中將ヲ以テ之ニ
親補シ直ニ
天皇陛下ニ隷ス(二十三年勅令第二百八十
號ヲ以テ本條中改正ス)
第三條 監軍部ニ幕僚ヲ置キ幕僚ヲ參謀部及副官部ニ分ツ
第四條 幕僚ニ參謀長一人ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ
補ス
第五條 參謀部ニ中(少)佐及大尉各一人副官部ニ少佐大尉各
一人ヲ置キ其下ニ書記五人ヲ附ス(二十三年五月勅令第七十
號ヲ以テ本條中改正ス)
第六條 監軍ノ下ニ將校學校監一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補
シ騎兵監一人ヲ置キ少將若クハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ野
戰砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ要
塞砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ工
兵監一人ヲ置キ少將若クハ工兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵
監一人ヲ置キ輜重兵大(中)佐ヲ以テ之ニ補ス(二十三年八月勅
令第九號及同年九月勅令第二十號
ヲ以テ本條中改正ス)
第七條 將校學校監ノ下ニ副官二人ヲ置キ中少佐及大尉ヲ以

テ之ニ補シ騎兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大
中尉ヲ以テ之ニ補シ各砲兵監ノ下ニ副官二人宛ヲ置キ砲兵
少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ工兵監ノ下ニ副官二人ヲ
置キ工兵少佐及工兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ
副官二人ヲ置キ輜重兵大中尉ヲ以テ之ニ補ス(二十三年五月勅令
第九號及同年九月勅令第二十號
ヲ以テ本條中改正ス)
第八條 將校學校監ハ諸將校學校ノ教育ヲ統轄シ士官學校及
幼年學校ヲ管轄ス但陸軍大學校ハ當分ノ内參謀本部ノ管轄
ニ屬ス
第九條 戶山學校及教導團ハ直ニ監軍ノ管轄ニ屬ス
第十條 騎兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立
案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス(二十一年五月勅令第三
十六號ヲ以テ本條中改正
ス)
第十一條 野戰砲兵監ハ野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審
議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄
ス(二十三年五月勅令第七十八號及同年九
月勅令第二十號ヲ以テ本條中改正ス)
第十二條 要塞砲兵監ハ要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審
議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲工學校要塞砲兵幹
部練習所ヲ管轄ス(二十三年九月勅令第三十二
號ヲ以テ本條中追加ス)
第十三條 工兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ
立案スルコトヲ掌リ工兵會議砲工學校ヲ管轄ス(二十三年勅令
第七十八號ヲ
以テ本條
中改正ス)
第十四條 輜重兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並
ニ立案スルコトヲ掌ル
第十五條 監軍ハ勅ヲ奉シ檢閱使ト爲リ軍隊ノ檢閱ヲ行フ其
陸監軍軍隊檢閱條例ニ詳悉ス(上同)

現行日本法令大全

○陸軍砲兵會議條例 明治二十四年六月
勅令第五十六號

陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ之ヲ東京ニ置キ兵器彈藥國防ニ關ス
ル砲兵事業砲兵ノ教育及技術ニ關スル事項ヲ審查議定スル
所トス
第二條 陸軍砲兵會議ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其砲兵教育ノ
事ニ關シテハ直ニ監軍ニ隷ス
第三條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク
議長
職員
臨時職員
幹事
審査官
第四條 議長ハ野戰砲兵監要塞砲兵監ノ内故參ノ者ヲ以テ兼
補ス
第五條 職員ハ野戰砲兵監要塞砲兵監ノ内一人及砲兵科佐官
ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス
臨時職員ハ臨時ノ必要ニ依リ本職アル各兵科各部上長官或
ハ陸軍技師ヲ以テ之ニ充ツ此職員ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命
シ議事ヲ了シハ直ニ解任スルモノトス
第六條 議長ハ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總
理ス
第七條 職員ハ會議ニ列シ議案ヲ議定ス

第八條 幹事ハ砲兵大中佐ノ内ヲ以テ之ニ補ス議長ヲ輔佐シ
審査官ノ業務ヲ指揮監督シ議案ヲ掌理シ會議ノ庶務ヲ擔任
ス
第九條 審査官ハ砲兵科佐官尉官ヲ以テ之ニ補ス命ヲ議長ニ
承テ第一條ニ掲ケル事項ヲ審查研究スルヲ以テ任トス但業
務ニ關シテハ幹事ノ指揮監督ヲ受ク
第十條 第三條ニ掲ケル職員ノ外會議ニ砲兵上等監護砲兵科
下士並屬、技師ヲ置ク各上官ノ指揮ヲ受ク工術及庶務ニ從事
ス
第十一條 議案ハ陸軍大臣ヨリ議長ニ下シ議長ハ會議ヲ開キ
審議議定ノ上覆中スルモノトス
教育ニ關スル議案ハ監軍直ニ議長ニ下ス其他ノ手續ハ前項
ニ同シ
第十二條 前條議案ヲ受ケタルトキ議長ハ之ヲ審査官ニ下シ
審查研究セシメ檢定ノ上之ヲ會議ニ付スヘシ
議案ノ性質ニ依リ會議ニ付スルヲ要セスト認ムルモノアル
トキハ直ニ覆中スルコトヲ得
第十三條 議長ハ第一條ニ掲ケル事項ノ範圍内ニ於テ必要ト
思考スル事柄ハ審査官ニ命シテ審查研究セシメ又ハ會議ヲ
開キ議定セシメ其意見ヲ建議スルコトヲ得
第十四條 凡ソ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルト
キハ議長ノ決スル處ニ依ル
第十五條 試驗等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及
ヒ當該兵監ニ協議シ之ヲ使用スルコトヲ得
第十六條 議長不在ナルトキハ幹事其事務ヲ代理シ職員ニ方
リ議長不在ナルトキハ職員中高級故參ノ者議長ノ代理ヲ爲

スヘシ

○陸軍工兵會議條例 明治二十四年六月八日 勅令第五十七號
朕工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍工兵會議條例

- 第一條 陸軍工兵會議ハ之ヲ東京ニ置キ工兵器具材料國防ニ關スル工兵事業工兵ノ教育及技術ニ關スル事項ヲ審査議定スル所トス
- 第二條 陸軍工兵會議ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其工兵教育ノ事ニ關シテハ直ニ監軍ニ隸ス
- 第三條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 議長
 - 議員
 - 臨時議員
 - 幹事
 - 審査官
- 第四條 議長ハ工兵監ヲ以テ兼補ス
- 第五條 議員ハ工兵科佐官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス 臨時議員ハ議事ノ必要ニ依リ本職アル各兵科各部上長官或ハ陸軍技師ヲ以テ之ニ充ツ此議員ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命シ議事ヲ了シテハ直ニ解任スルモノトス
- 第六條 議長ハ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス
- 第七條 議員ハ會議ニ列シ議案ヲ議定ス
- 第八條 幹事ハ工兵大中佐ノ内ヲ以テ之ニ補ス議長ヲ輔佐シ

審査官ノ業務ヲ指揮監督シ議案ヲ掌理シ會議ノ庶務ヲ擔任ス

- 第九條 審査官ハ工兵科佐官尉官ヲ以テ之ヲ補ス命ヲ議長ニ承ク第一條ニ掲クル事項ヲ審査研究スルヲ以テ任トス但業務ニ關シテハ幹事ノ指揮監督ヲ受ク
- 第十條 第三條ニ掲クル職員ノ外會議ニ工兵上等監護工兵科下士並屬ヲ置ク各上官ノ指揮ヲ承ク工術及庶務ニ從事ス
- 第十一條 議案ハ陸軍大臣ヨリ議長ニ下シ議長ハ會議ヲ開キ 審議議定ノ上覆申スルモノトス
- 第十二條 前條議案ヲ受クタルトキ議長ハ之ヲ審査官ニ下シ 審査研究セシメ檢定ノ上之ヲ會議ニ付スヘシ
- 第十三條 議長ハ第一條ニ掲クル事項ノ範圍内ニ於テ必要ト 思考スル事柄ハ審査官ニ命シテ審査研究セシメ又ハ會議ヲ 開キ議定セシメ其意見ヲ建議スルコトヲ得
- 第十四條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルト キハ議長ノ決スル處ニ依ル
- 第十五條 試驗等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及 ヒ當該兵監ニ協議シ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第十六條 議長不在ナルトキハ幹事其事務ヲ代理シ議事ニ方 リ議長不在ナルトキハ議員中高級故參ノ者議長ノ代理ヲ爲 スヘシ

○陸軍衛生會議條例

明治二十一年十二月二十四日 勅令第九十五號

朕陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

- 第一條 陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隸シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス
- 第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 議長 一人
 - 軍醫監 一人
 - 事務官 二人
 - 議員 若干人
- 第三條 議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス
- 第四條 議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス 但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト 認ムルトキハ各兵科並ニ監督部獸醫部上長官或ハ陸軍教授 陸軍技師ニ臨時議員ヲ命セラレシメテ陸軍大臣ニ具申シ 陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時議員ハ其議事ヲ了シテハ直ニ解 任スルモノトス
- 第五條 議事ヲ別テ二種トス
 - 一 衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項
 - 二 軍部一般ニ涉ル衛生ノ事項
- 第六條 議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス
- 第七條 事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス
- 第八條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官 ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ
- 第九條 議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ

成ルモノトス但會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承 認ヲ受クヘシ

- 第十條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキ ハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十一條 議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノト ス
- 第十二條 物件ノ試驗又ハ模範等製造ノ爲メ費用ヲ要スルト キハ其理由ヲ悉シ豫算書ヲ添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ
- 第十三條 會議常用ノ諸物品ハ醫務局長ヨリ之ヲ支給ス

○臨時砲臺建築部官制

明治十九年十一月 勅令第七十六號

朕臨時砲臺建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時砲臺建築部官制

- 第一條 臨時砲臺建築部ハ東京ニ置キ陸軍省ニ隸シ全國樞要 ノ地ニ砲臺ヲ建築スルコトヲ掌ル
- 第二條 臨時砲臺建築部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 一人
 - 事務官 若干員
 - 技師 若干員
 - 技手 若干員
 - 書記 若干員
- 第三條 部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ陸軍上長官 士官書記ハ陸軍下士屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 部長ハ砲臺建築ノ事務ヲ總理ス
- 第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ承ク其事務ニ從ヒ書記ハ事務官ノ

現行日本法令大全

指揮ヲ承ク庶務ニ従事ス
 第六條 技師技手ハ技術上ノ事ニ任シ又各部ノ工事ニ従事ス
 第七條 建設砲臺ノ位置並其制式兵備ノ要領等ヲ陸軍大臣參謀總長協議決定ノ後之ヲ建設部ニ下シ工事ニ従事セシム
(十二年三月陸軍省令第五號ヲ以テ本條中改正ス)
 第八條 陸軍工兵方面ハ砲臺建築ノ工事ニ就テハ建設部ニ從屬シテ部長ノ指揮ヲ承クルモノトス
 第九條 砲臺建築ノ事ニ係リ地方廳其他ニ往復スルハ建設部長ノ名ヲ以テスヘシ

○陸軍將校生徒試験委員條例

明治二十年十二月 勅令第八十一號

朕陸軍將校生徒試験委員條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校生徒試験委員條例

第一條 試驗委員ハ士官學校生徒ノ將校試驗、幼年學校生徒ノ終末試驗、士官候補生幼年學校生徒志願者ノ試驗及ヒ一年志願兵志願者ノ學術試驗ヲ行フモノニシテ將校學校監ニ隸ス
(十二年三月十一日勅令第三十一號ヲ以テ本條中改正ス)
 第二條 試驗委員ヲ常置スルコト左ノ如シ
 委員長 大佐 一名
 委員 中少佐 八名 大尉 九名
 第三條 將校學校監ハ委員ヲシテ各種ノ試験ヲ分擔セシメ委員長ヲシテ之ヲ統監セシム
 第四條 前條ニ掲ケル委員ノ外所要ニ應ジ臨時委員ヲ命ジ委員長ノ下ニ屬セシム

第五條 各種試驗ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若クハ陸軍屬若干名ヲ試驗委員ノ下ニ屬ス
 第六條 委員長以下總テ他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補スルモノトス
 ○陸軍士官學校條例 明治二十二年六月十日 勅令第八十二號
 朕陸軍士官學校官制ヲ廢止シ陸軍士官學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
 第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 大佐 一人
 次長 中佐若クハ少佐 一人
 副官 大尉 一人
 教官 少佐三人 大尉二十八人 軍醫一人 騎兵大尉一人
 馬術教官 騎兵大尉 一人
 中隊長 大尉 二人
 中隊附士官中尉 十六人
 軍吏 一人
 軍醫 一人
 但内一人ハ教官ヲ兼務スルモノトス
 獸醫 二人
 但内一人ハ教官ヲ兼務スルモノトス

現行日本法令大全

教官ハ定員ノ外他ニ本務アル者ヲシテ兼勤セシムルコトヲ得
 第三條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ヲ備フ
 第四條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス
 第五條 次長ハ校長ヲ補佐シ校中一切ノ事務ヲ監視ス
 第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬若干員ヲ置ク
 第七條 武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其少佐ノ教官ヲ以テ科長トス
 第八條 馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵生徒ノ教練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士若干員ヲ置ク
 第九條 武官教官ハ野外演習等ヲ行フ時ハ某部隊ヲ統轄セシムルコトアルヘシ
 第十條 文官教官ハ學科ノ教授ヲ分擔セシム而シテ教授ノ外助教若干員ヲ置ク
 第十一條 教官ハ教授上生徒ニ罰科トシテ別ニ課業ヲ與フルコトヲ得
 第十二條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス
 第十三條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ細務ニ従事シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス
 但騎兵科士官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就

テハ馬術教官ニ隸ス
 第十四條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム
 第十五條 各中隊ニ下副官及下士若干員ヲ置キ下副官ハ中隊ノ諸務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨其他屋舎内外清潔ノ事ヲ掌リ並ニ體操劍術ノ助教ヲ分擔ス又兵卒若干員ヲ各師團各隊ヨリ分遣セシメ候補生ノ使用ニ供フ
 第十六條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長及看病人若干員獸醫ノ下ニ蹄鐵工長若クハ下長及蹄鐵工若干員ヲ置ク
 第十七條 本校生徒ノ學期ヲ一箇年半トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年五月下旬ニ終ルモノトス
 第十八條 本校生徒ハ二中隊ニ編成シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス
 第十九條 本校生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ將校學校監ノ定ムル所ニ據ル
 第二十條 本校生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ル、コトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス
 第二十一條 本校生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル
 第二十二條 本校生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス
 第二十三條 本校生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム
 其一 學術科ノ豫習全カラスシテ實際勤務上ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者
 其二 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者
 其三 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者
 其四 長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十四條 學期末ニ於テ生徒ノ將校試験ヲ施行ス此試験ニ及第セシ者ニハ本校教則卒業ノ證書ヲ附與シ且其成績優等ニシテ特ニ行狀方正ノ者ニハ褒賞ヲ與フ

第二十五條 學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ將校試験ヲ受ルヲ得ス若クハ將校試験ニ落第セシ者ハ本條例第二十三條ニ據ル

第二十六條 毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與ヘ又此間ニ於テ適宜ニ校附諸官ニ休暇ヲ與フ

第二十七條 毎年六月全學期ヲ終リタル生徒歸隊ノ後ハ其教官、中隊長及中隊附士官ハ八月下旬マテノ休暇ヲ與ヘ而シテ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間ハ近衛各師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十八條 前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在テハ歩、騎、砲、工、輜重兵隊中ニ就キ己ノ屬スヘキ兵隊ヲ希望スルコトヲ得

但騎、砲、輜重兵隊附ヲ希望スル者ハ第一師團ノ各該隊ニ限ル且之カ爲メ必要ノ時々校廬ノ馬匹及馬具ヲ貸與スルコトヲ得

第二十九條 本校ノ馬匹ハ砲工學校及幼年學校ノ所要ニ兼用ス(二十四年十一月勅令第二十二號)
(百二十五號ヲ以テ改正ス)

陸軍幼年學校條例

明治三十二年六月 勅令第八十二號

陸軍幼年學校官制ヲ廢止シ陸軍幼年學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概テ尋常中學ト同一ナル教授並ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	中佐	一人
副官	大尉	一人
教官	陸軍教授	十七人
馬術教官	騎兵中尉	一人
中隊長	大尉	二人
中隊附士官	中尉	十二人
軍吏		一人
軍醫		一人
獸醫		一人

但獸醫ハ東京在職ノ者ヲ以テ兼務セシムルモノトス

第三條 本校ニ所要ノ馬匹ハ士官學校ノ馬匹ヲ兼用ス(二十四年十一月勅令第二十二號)
(百二十五號ヲ以テ改正ス)

第四條 校長ハ將校學校監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第六條 教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔セシム而シテ教授ノ外助教若干員ヲ置ク

第七條 教官ハ他ニ本務アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學職アル者ヲ撰テ之ニ囑托スルコトヲ得

第八條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任ス其下ニ騎兵科下士若干員ヲ置ク(同上ヲ以テ改正ス)

第九條 中隊長ハ專ヲ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室內ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ細務ニ從事シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

第十一條 中隊附士官ハ總テ校內ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條 各中隊ニ下副官及下士若干員ヲ置キ下副官ハ中隊ノ諸務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨其他屋舎内外清潔ノ事ヲ掌リ並ニ體操ノ助教ヲ分擔ス又喇叭卒若干員ヲ置ク

第十三條 軍吏ノ下ニ書記若千員軍醫ノ下ニ看護長及看護人若千員獸醫ノ下ニ蹄鐵工長若クハ下長及蹄鐵工若干員ヲ置ク

但蹄鐵工長若クハ下長ハ東京在職ノ者ヲ以テ兼掌セシム

第十四條 本校生徒ハ官費生、半官費生、自費生ノ三種ニ分ツ

第十五條 職死シタル平時公務ノ爲メ不幸ニ死シタル者モ亦之ニ準シ將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ孤兒ハ官費生トス

第十六條 前條ノ外官費生、半官費生、自費生ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十七條 前條ノ區分ハ專ヲ資産ノ多少ヲ察知シ之ニ應ジテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列記スル者ハ特ニ顧慮スヘシ但

其六其七八官費生トナルコトヲ得ス

其一 在職將校以下ノ見子

其二 休職將校以下ノ見子

其三 豫備後備退役將校以下ノ見子

其四 死亡シタル將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ見子

其五 其一ノ將校ニ相當スル高等官及其二ノ將校ニ相當スル非職高等官ノ見子

其六 既ニ仕官シタル見子ヲ有スル在職將校以上及休職將校以上ノ他ノ見子

其七 其六ノ將校ニ相當スル高等官ノ見子

第十八條 本校生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始リ翌年六月下旬ニ終ル

但最終ノ一年期ハ翌年四月下旬ニ終ル

第十九條 本校生徒ハ全生徒ヲ二中隊ニ編成ス

第二十條 本校生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ將校學校監ノ定ムル所ニ據ル

第二十一條 本校生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十二條 第三年生徒中特ニ學術ニ勉勵シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若千員ヲ撰テシ會長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十三條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス此試験ニ及第セシ者ニハ本校教則卒業ノ證書ヲ附與シ士官候補生トシテ軍隊ニ配賦ス就中學術品行共ニ優等ナルモノハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルコトアルヘシ

第二十四條 生徒中第二期ニ移ラサル以前ニ於テ豫メ定期内ニ卒業シ得サル者ト認ル者アルモ尙ホ望ミアル者ハ定期外一箇年間延期修學セシムルコトヲ得然ルトキハ監軍其人名ヲ陸軍大臣ニ移ス

修學三箇年ヲ超ヘサル者ニシテ學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ

終末試験ヲ受クルヲ得ス若クハ終末試験ニ落第セシ者ニシテ尚ホ望ミアル者ハ前項ニ據ル

第二十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム
其一 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者
其二 全學期ノ教則ヲ卒業スルニ四年以上ヲ要スル者
但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニ原因スル者ハ特別ノ詮議ニ付ス

第二十六條 前條其一及其ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ將校學校監ニ上申シ將校學校監ハ之ヲ査實シテ監軍ニ進達シ監軍之ヲ裁定處分ス

○陸軍戸山學校條例 明治二十年十月勅令第五十四號

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ト爲シ步兵戰術、射擊、體操並ニ劍術ノ原理ヲ研究セシム且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ内外國ニ於ケル各科進歩ノ形況ヲ知悉シ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條 本校ニ戰術科學生射擊科體操科學生及教導大隊ヲ置ク
第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長 歩兵大佐
副官 歩兵大尉 歩兵中尉
教官 歩兵中少佐 歩兵大尉 歩兵中尉一等軍醫

軍吏 軍醫
第四條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス
第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク
第六條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス
第七條 各科教官中高級ノ者一名ヲ其科長ト爲ス
第八條 教導大隊ノ大隊長ハ戰術科科長副官中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼シム但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充ツルコトアルヘシ
第九條 教官ノ下ニ教官補曹長(准士官)及助教曹長一等軍曹ヲ置ク
第十條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長及卒若干員ヲ置ク
第十一條 戰術科ハ步兵戰術活用上ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ步兵各聯隊ノ士官ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ步兵少佐若クハ工兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ
第十二條 射擊科ハ射擊ノ學理及銃ノ用法ヲ詳カニ射擊ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ步兵士官歩兵要塞砲兵及下士ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ騎兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ
第十三條 體操科ハ體操及劍術ノ原理ヲ詳悉シ其技術ヲ練磨セシムルヲ目的トシ步騎砲工輜重兵科ノ下士ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ

第十四條 教導大隊ハ學生訓練ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ步兵各聯隊ヨリ之ヲ分遣セシム

第十五條 戰術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル

第十六條 各科學生ノ入員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十七條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督(鎮臺司令官)ハ部下ノ聯隊長(獨立中隊ナレハ中隊長)ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ニシテ第十一條乃至第十三條ノ目的ニ適スヘキ者ヲ選定セシム而シテ入校期十日前途ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達ス

第十八條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム學生所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十九條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ

第二十一條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ

第二十二條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ

第二十三條 教導大隊ハ分遣ノ下士及兵卒ハ四月若クハ五月ニ於テ其一半ヲ歸隊セシム十一月ニ於テ之ヲ補充ス

第二十四條 各聯隊ヨリ分遣スル教導大隊ノ下士ハ常備現役尙ホ二箇年以上ノ期アル者若クハ二箇年以上服役セシムヘキ見込アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵身體強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜セシム

第二十五條 教導大隊ノ兵卒ハ常備現役尙ホ一年七箇月ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ勤務勉勵行狀方正身體強壯ノ者ヲ選抜分遣セシム

第二十六條 教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サズ

第二十七條 教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ武器器具ハ之ヲ携帶セシム

第二十八條 教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附

第二十九條 教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ武器器具ハ之ヲ携帶セシム

第三十條 教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ武器器具ハ之ヲ携帶セシム

第三十一條 教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ武器器具ハ之ヲ携帶セシム

現行日本法令大全

若ス
 第二十九條 教導大隊ノ内務ハ概テ歩兵内務書ニ據リ施行ス
 陸軍砲工學校條例 明治二十二年五月 勅令第七十六號
 朕陸軍砲工學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍砲工學校條例 (本條例ハ明治廿四年十一月勅令第二百二十四號ヲ以テ改正前條ニ其改正セルモノニ從フ)
 第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵少尉ニシテ二箇年以上隊務ニ服シ其勤務ニ慣熟シタル者ヲ分選シテ學生トナシ以テ各本科専門ノ勤務ニ必要ナル學術ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ以テ目的トス
 第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 砲兵若クハ工兵大佐
 次長 砲兵若クハ工兵中佐
 副官 砲兵若クハ工兵大尉一人同中尉
 教官 參謀佐官若クハ大尉砲兵科佐官若クハ大尉工兵科佐官若クハ大尉騎兵大尉陸軍教練
 庶長 騎兵科士官
 軍吏 騎兵大尉
 獸醫 騎兵大尉
 第三條 校長ハ野戰砲兵監及要塞砲兵監ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス(二十三年九月二十日勅令第二)
 第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲工兵科下士若クハ陸軍屬ヲ置ク
 第五條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ又時トシテ翻譯ノ事ニ從ハシム

第六條 軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク
 第七條 學期ハ概テ十二月ニ始リ修學期ヲ二箇年トス但疾病ノ故ヲ以テ缺課多キ者ハ尙ホ留學ヲ命スルコトアルヘシ
 第八條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
 第九條 學生分選ノ告達アルハ近衛都督師團長ハ入校期十日
 前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達スヘシ
 第十條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
 第十一條 學生ハ校外ニ居住セシム而シテ所要ノ書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ
 第十二條 每學年ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作ラシム但修得證明書ニハ當該教官署名捺印スルモノトス
 校長ハ伎倆證明書ニ意見ヲ加ヘ署名捺印シテ野戰砲兵ノ學生ハ野戰砲兵監ニ要塞砲兵ノ學生ハ要塞砲兵監ニ工兵科學生ハ工兵監ニ進達シ監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ都督師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付スヘシ(二十三年九月二十日勅令第二百二十五號ヲ以テ本條中改正ス)
 第十三條 學生所要ノ馬匹ハ陸軍士官學校發留ノモノヲ以テ供用セシム
 ○陸軍乘馬學校條例 明治二十一年三月 勅令第十三號
 朕陸軍乘馬學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍乘馬學校條例

現行日本法令大全

第一條 陸軍乘馬學校ハ騎兵隊ノ士官下士ヲ分選シテ學生トナシ本科専門ノ馬術ヲ訓練シ馬學ヲ習修セシムル所トス
 第二條 本校ニ庶務ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ
 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年十一月勅令第二)
 校長 騎兵佐官
 副官 騎兵大尉
 教官 騎兵大尉
 調馬手長 騎兵中尉
 軍吏 騎兵中尉
 獸醫 騎兵中尉
 第四條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス(同上ヲ以テ第五條ニ前條以下條上ク)
 第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク(同上勅令改正)
 第六條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任ス
 第七條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長ヲ以テ之ニ充ツ(同上)
 第八條 調馬手長ハ校長ニ隸シ馬匹ノ調教其他校庭一切ノ事ヲ統轄ス(同上)
 第九條 調馬手長ノ下ニ調馬手ヲ置キ陸軍技手ヲ以テ之ニ充ツ(同上)
 第十條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク
 第十一條 學期ハ毎年概テ九月ニ始リ翌年六月ニ終ルモノトス(二十四年二月十三日勅令第二)
 第十二條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條 學生分選ノ告達アルハ近衛都督師團長ハ部下ノ騎兵大隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其兵籍ニ考課表ヲ添ヘ乘馬學校長ニ送達スヘシ
 第十四條 第一條ニ掲ケル學生ノ外時宜ニ依リ教導團騎兵砲兵輜重兵生徒隊附士官下士及野戰砲兵隊輜重兵隊ノ士官下士ヲ分選シテ學生トナスコトアルヘシ(同上)
 第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス
 第十六條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的ヲキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス(同上)
 第十七條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官アリテハ修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス又別ニ一本ヲ製シ之ヲ騎兵監ニ呈ス(九條改正)
 第十八條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校內ニ居住セシム
 第十九條 學生所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ(同上ニテ改正)
 第二十條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ被服食料ハ原所管ヨリ之ヲ支給ス
 ○陸軍砲兵射的學校條例 明治二十年十二月二十五日 勅令第七十一號
 朕陸軍砲兵射的學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵射的學校條例

第一條 陸軍砲兵射的學校ハ野戰砲兵隊ノ大中尉ヲ分遣シテ學生トシ野戰砲兵射的學問及用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル效則ヲ一定ナラシメ常ニ野戰砲兵ノ射的術及戰術ヲ研究シ教育一般ノ改良進歩ヲ圖ルヲ目的トスル所トス(二十四年十月二十九號ニ以テ加除ス)

第二條 學生ノ訓練ニ供スル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置ク

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(上同)

- 校長 砲兵大中佐
副官 砲兵大尉
教官 砲兵少佐砲兵大尉
軍吏 砲兵中尉
獸醫

第四條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス(同上ヲ以テ第五條ニ任ス)

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲兵上等監護及下士ヲ置ク(上同)

第六條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ野戰砲兵ノ射的術及用法ヲ調査研究シ且副官若クハ教導中隊長教導中隊附ヲ兼シム(同上ヲ以テ)

第七條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長獸醫ヲ置ク(同上ニ以テ)

第八條 學期ハ毎年二回トシ第一學期ハ概テ十一月下旬ニ始リ翌年二月ニ終リ第二學期ハ三月ニ始リ五月ニ終ルモノトス

第九條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス但時トシテ少佐ヲ以テ學生ニ換ヘ研究セシムルコトヲ得

第十條 學生分遣ノ告達アルハ近衛都督(鎮守司令官)ハ部下ノ野戰砲兵隊長ヲシテ大中尉中身體強壯勤務勉勵ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前提其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ(上同)

第十一條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十二條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニ在ラス(上同)

第十三條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シ野戰砲兵監ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ近衛都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附ス(上同)

第十四條 學生士官ハ校外ニ住居セシム(上同)

第十五條 學生所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十六條 教導中隊ノ下士兵卒ハ野戰砲兵各聯隊ヨリ分遣セシム

前項ノ外教導中隊ニハ砲兵曹長同一二等軍曹ヲ常置シ校内ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム

第十七條 各聯隊ヨリ分遣スル教導中隊ノ下士ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵行狀方正學術優等ノ者ヲ選拔セシム其在校期ハ十一月下旬ヨリ五月マテ

トス

第十八條 教導中隊ノ兵卒ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選抜分遣セシム(上同)

第十九條 教導中隊兵卒ノ交換ハ毎年六月ニ於テ其全員凡三分ニテ各聯隊ヨリ分遣シ在校兵卒ハ悉皆歸隊セシメ十一月ニ至テ殘餘三分一ヲ補充セシム

第二十條 教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ在テハ歸省休暇等一切之ヲ許サズ(上同)

第二十一條 教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ教導中隊ニ編入スト雖也名籍ヲ原隊ニ存シ且其裝具及刀ハ之ヲ携帶セシムヘシ(上同)

第二十二條 教導中隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附若ス(上同)

第二十三條 教導中隊ノ内務ハ概テ軍隊内務書ニ據リ施行スヘシ(二十二年五月十四日勅令第六十六號ニ以テ本條ヲ改正ス)

陸軍軍樂學舍條例

第一條 陸軍軍樂學舍ハ陸軍戸山學校ニ置キ各軍樂隊ノ樂生ヲ補充スル爲生徒ヲ養成シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條 陸軍軍樂學舍ノ定員ハ左ノ如シ
學舍長 一等軍樂長 一名
生徒隊長 一二等軍樂長 一名
生徒隊次長 軍樂次長 一名

陸軍軍樂學舍條例

明治二十三年七月二十一日勅令第三百三十七號

陸軍軍樂學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一等軍樂手 三名

二等軍樂手 六名

樂手補 二十七名

樂生 十二名

軍醫 一名

一二三等書記 一名

一二三等看護長 一名

第三條 學舍長ハ戸山學校長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 生徒隊長ハ學舍長ヨリ之ヲ兼テ生徒ノ教育ヲ掌リ次長以下ヲシテ諸科目ヲ分擔セシム但時宜ニ依リ專任者ヲ置クコトアルヘシ

第五條 一二等軍樂手ノ定員ハ第二條ニ掲クル者ノ外軍樂生徒ノ人員ニ應シ一二等軍樂手ヲ通シ二十名ニ至ル迄ハ増員スルコトヲ得

第六條 軍醫ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第七條 樂調ヲ一定スル爲メ軍樂學舍軍樂手ノ内優等ナル者ヲ選ミ近衛並各師團軍樂手ト交換セシム

第八條 毎年採用スヘキ軍樂生徒ノ人員及軍樂手ノ交換ハ陸軍大臣之ヲ定ム

生徒ノ召募及軍樂手交換ノコトハ其時々戸山學校長ヨリ監軍ニ上申シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第九條 軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヨリ採用ス

第十條 軍樂生徒ノ入學檢査格例ハ戸山學校長之ヲ定メ道廳府縣ニ通牒シ召募スルヲ例トス

第十一條 檢査合格ノ上ハ凡ソ一箇月間通學セシメ實試ノ上

之ヲ採用ス此ノ場合ニ於テハ本人所轄ノ道廳府縣ニ通牒スルモノトス

第十二條 軍樂生徒入學ノ上ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十三條 軍樂生徒ノ修業期限ハ概テ十五箇月トシ修業上ノ費用其他被服食料等總テ官費トシ且手當金若干ヲ給ス

第十四條 軍樂生徒修業中ハ歸省休暇ヲ許サス

第十五條 軍樂生徒修業中行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ傷痕疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難キ者又ハ卒業ノ前途ナキ者ハ軍樂生徒ヲ免ス

第十六條 軍樂學舍ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトヲ此ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ付與シ樂生ヲ命ス

○陸軍教導團條例

明治二十三年三月 勅令第四十七號

陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍教導團條例

第一條 陸軍教導團ハ華土族平民中歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 毎年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 本團ニ本部、歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊並病院ヲ置ク

第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長	歩兵大佐若クハ歩兵中佐	一人
副官	大尉	一人
病院長	二等軍醫正	一人
生徒隊長	少佐	一人
隊附士官	大尉	一人
步兵、砲兵生徒隊副官	中尉	二人
軍吏		六人
軍醫		八人
藥劑官		一人
獸醫		三人

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ經理事務、召募事務及人事ヲ統轄シ步兵生徒隊長ヲ兼ス

第六條 副官ハ團中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條 病院長ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條 本部ノ經理事務ハ步兵生徒隊ノ一等軍吏之ヲ兼掌ス

第九條 騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊長ハ經理事務、召募事務及人事ニ就テハ團長ニ隸シ教育上ニ就テハ各當該ノ兵監ニ隸ス

第十條 各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官及下士ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシム

第十一條 生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書籍材料ハ官給若クハ貸與シ且手當金若干ヲ給ス

第十二條 本團生徒ノ學期ハ概テ毎年十二月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約テ左ノ如シ

歩兵科 十六箇月

騎兵科 十八箇月

砲兵科 二十箇月

工兵科 二十箇月

輜重兵科 十八箇月

第十三條 本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル所ニ據ル

第十四條 生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第十六條 生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ傷痕疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難キ者又ハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム但傷痕疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アル者トアリ此試験ニ及第セシ者ニハ本團教則卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條 各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

近衛司令部職官表

階級	大將	中將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	曹長	一等軍曹	二等軍曹	計
本都督	一											一

第十九條 從前ノ教導團生徒中陸軍諸卒ヨリ採用シタル者ニシテ第十六條ニ依リ退團セシムル者ハ入團前ノ服役日數ヲ通算シ成規ノ年期間現役豫備役後備役ニ服セシム

○近衛司令部條例

明治二十三年三月 勅令第四十六號

近衛司令部條例ヲ廢シ近衛司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

近衛司令部條例

第一條 都督ハ大中将ヲ以テ之ニ補シ直ニ

天皇陛下ニ隸シ近衛諸隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 都督ハ主トシテ部下ノ護衛ニ任ス其他地方ニ係ル事件及裁判事件ヲ除ク外其職務權限ハ師團長ト異ナルコトヲ總テ師團司令部條例ノ規定ニ依ル

第三條 近衛司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

- 一 參謀部
- 二 副官部
- 三 軍醫部
- 四 獸醫部

第四條 師團司令部條例第十三條及第十四條ハ近衛司令部ニ於テモ亦適用ス

考備	部		支		部		合計
	參謀部	副官部	軍醫部	獸醫部	軍吏	副官	
軍醫部々員ノ内一名ハ藥劑官トス	參謀長一	參謀	軍醫長一				一
	參謀一	副官一					四
		副官一	部員二	獸醫長一			九
		副官一					九
		書記	書記				一五
		書記					二九

師團監督部條例

明治二十三年三月二十七日

勅令第五十六號

(二十五年一月勅令第一號ヲ以テ近衛師團ヲ師團ニ改正ス)

朕師團監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團監督部條例

第一條 師團監督部ハ師團司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ陸軍司令部陸軍軍醫部ヲ管理シ近衛師團第一師團監督部軍隊會計事務ヲ監督シ陸軍官衙會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物出納ニ關スル計算及物件其他ノ兵器ハ除クテ檢査シ且管區内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 師團監督部ハ當該師團ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某師團監督部ト稱ス

第三條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク
部長 一二等監督 一人

課長 三等監督若クハ監督補 三人
部員 一二三等軍吏 七人(近衛師團監督部ニ在テハ八人トス)

第四條 監督部ニ三課ヲ置ク第一課ハ計算事務第二課ハ糧食被服事務第三課ハ建築陣營事務ヲ分掌ス

第五條 監督部ハ當該師團ヲ以テ事務ノ管區トス但第一師團内近衛及第一師團監督部ニ於テ會計事務ヲ監視スル官衙ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 監督部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊給養上及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ師團長ノ命令ヲ承クヘシ(二十五年一月勅令第一號ヲ以テ改正ス)

第七條 監督部ハ出師若クハ師團及其他ノ演習ニ於テ必要アルトキハ師團長ニ隸屬ス

第八條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第九條 部長ハ管區内ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 部長ハ管區内官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金糧物件及帳簿ヲ檢査ス但軍隊ニ在テハ閱檢前師團長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十條 課長ハ課務ヲ整理シ分掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第十一條 部員ハ課長ノ命ヲ承ク事務ニ服ス

第十二條 第三條ニ掲グル職員ノ外軍吏部下士若干人ヲ置ク

工兵方面條例

明治二十二年七月

勅令第九十四號

朕工兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工兵方面條例

第一條 工兵方面ハ要塞堡壘砲臺及附屬營造物ノ建築修繕監視其他之ニ關スル工兵事業ヲ掌リ歩工兵ノ工具材料ヲ調辨シ且工兵所屬地ノ事務ヲ管轄スル所トス

第二條 工兵方面ハ第一方面第二方面第三方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第三第四師管ヲ管轄シ第三方面ハ本署ヲ下ノ關ニ置キ第五第六師管ヲ管轄ス(二十三年十一月十日勅令第一號ヲ以テ改正ス)

各管内要塞司令部及重要ノ砲臺所在地ニハ支署ヲ置ク但支署ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示ス(上同)

第三條 工兵方面ニ左ノ職員ヲ置ク
本署
提理 工兵大中佐一人
副提理 工兵少佐一人

署員 工兵大中尉四人
軍吏 一人
支署
支署長 工兵少佐或ハ工兵大中尉一人
署員 工兵大中尉一人若クハ二人(二十三年十一月十日勅令第二十七號ヲ以テ改正ス)

軍吏 一人

第四條 要塞砲臺ノ位置ニ依リ大中尉ヲ支署長ト爲ストキハ他ノ士官及軍吏ヲ置カサルコトヲ得

第五條 第三條ニ掲グル職員ノ外本支署ニ工兵上等監護工兵監護砲臺看守技手及軍吏部書記若干人ヲ置ク(同上ヲ以テ本條中追加ス)

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任シ且管内要塞ノ防務ニ參與ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ方面ノ事務ヲ整理ス

第八條 支署長ハ提理ニ屬シ要塞砲臺ニ在テ工兵方面ノ事務ヲ分擔シ所屬要塞司令部ノ命ヲ受ク其防務ニ參與ス(同上ヲ以テ改正ス)

第九條 署員軍吏ハ提理及署長ノ命ヲ受ク各事務ヲ分掌ス

第十條 支署長ハ戰時及事變ニ在テハ要塞若クハ砲臺司令部ノ指揮ヲ受ク工兵諸般ノ勤務ニ從事スヘシ

第十一條 要塞堡壘砲臺ノ改築其他防禦上必要ト認ムル事項アルトキ提理ハ要塞若クハ砲臺司令部ト熟議シ後陸軍大臣ニ上申スルコトヲ得

第十二條 工兵隊ヲ以テ工業ニ從事セシムヘキ命アルトキハ提理ハ該隊長ニ工事施設ノ方法ヲ指示スヘシ

第十三條 提理ハ工事ニ關シ必要ト認ムルトキハ本支署ノ官僚ヲ彼此應用スルコトヲ得

○師團司令部條例 明治二十一年五月 勅令第二十七號
朕鑒彙條例ヲ廢止シ師團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團司令部條例

第一條 師團長ハ中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ
皇帝陛下ニ隸シ師管内ニ在ル軍隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス
第二條 師團長ハ師管内軍隊ノ出師準備ヲ整理シ又徵兵ノ事ヲ統轄ス
第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但特科兵專門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス
第四條 師團長ハ不慮ノ侵襲ニ際シ師管内ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス
府縣知事地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナラハ師團長直ニ之ニ應シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告ス可
若其事變危險ニシテ府縣知事ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ師團長ハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得
第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告スヘシ
第六條 師團長ハ師管内ニ在ル軍隊及陸軍官廳ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス
第七條 師團長ハ軍隊給養及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ師團監督部長タル監督ニ命令スルノ權ヲ有ス(二十三)月三

二十五日勅令第四十五號ヲ以テ) 本條ヲ追加シ以下逐條條下ク) 第八條 師團長ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參軍教育ニ係ル事ニ就テハ監軍ノ區處ヲ受ク師團長ハ此三官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期或ハ臨時報告ヲナスヘキモノトス
第九條 特科兵專門ノ事ニ付師團長意見アレハ直接ニ之ヲ當該兵監ニ告知スルヲ得
第十條 師團長ハ隨時ニ部下ノ軍隊ヲ檢閲シ毎年教育期ノ終リ即チ機動演習ノ後ニ於テ全師團教育ノ結果能ク實戰ノ目的ニ適スルヤ否又其出戰整備完全ナルヤ否ニ就キ監軍ヲ經テ奏上ス
第十一條 師團長赴任ノ節師團司令部所在地ノ府縣知事警視總監大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長及檢事トハ三日以内互ニ訪問シ其師管内ノ府縣知事控訴院長檢察長及始審裁判所長及檢事トハ三十日以内互ニ移文訪問スヘシ但共ニ官等卑キ者ヨリ先ノス可シ
第十二條 師團司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル
一 參謀部
二 副官部
三 法官部
四 軍醫部(二十三年三月二十五日勅令第四十五號) (チ以テ四監督部ヲ削除シ以下條上ク)
五 獸醫部
第十三條 參謀部及副官部ノ將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ク各自擔任ノ事務ヲ司リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス
第十四條 法官部理事軍醫長獸醫長及師團監督部長タル監督

旅團司令部條例

○旅團司令部條例 明治二十一年五月 勅令第二十八號
朕旅團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團司令部職官表

階級	本		支		部		合
	師團長	參謀部	副官部	軍醫部	獸醫部	計	
中將	一	參謀長一參謀	理事	軍醫長		一	
大佐							
中佐							
少佐							
大尉							
中尉							
少尉							
准士官							
曹長							
一等軍曹							
二等軍曹							
計	一	九一六	二四	三六	一	一九三七	

一 理事 參謀部 副官部 軍醫部 獸醫部
二 軍醫部各員ノ内一名ハ藥劑官トス(同上ヲ以テ水)表ヲ改正ス

第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下ノ步兵二聯隊及旅管ニ包括スル四大隊區司令部ヲ統轄ス
第二條 軍隊ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內務及糧食、被服、裝具、ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス但大隊戰術上ノ訓練ハ特ニ旅團長ノ監視スヘキモノトス

第三條 旅團長ハ他兵連合ノ野外演習ヲ監視シ支隊演習ヲ統
 轄シ旅團ヲ以テ戰術單位ト爲シタル訓練ニ任ス
 第四條 旅團長ハ其旅管徵兵ノ事ヲ掌リ又大隊區ノ徵兵事務
 及召集事務ヲ統監ス
 第五條 騷擾變亂ノ事アルニ際シ府縣知事ヨリ兵力ヲ請求ス
 ルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シ
 テ後師團長ニ報告スヘシ
 第六條 特ニ軍法會議ヲ設ケタル旅管ニ在ラハ旅團長其軍法
 會議ヲ管轄ス
 第七條 旅團司令部ニ副官大尉一名中尉若クハ少尉一名書記
 下士四名近衛ニ在
 テハ二名ヲ置ク但軍法會議ヲ管轄スル旅團司令部ニ
 ハ理事二名録事三名ヲ置ク(二十二年十月三日勅令第五
 九號ヲ以テ本條中改正ス)
 第八條 本條例中地方ニ係ル事件ハ近衛旅團長ニ適用セス

○大隊區司令部條例

明治二十一年五月
勅令第二十九號

朕大隊區司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大隊區司令部條例

第一條 各大隊區司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ
 司令官 中佐若クハ少佐一名
 副官 大尉若クハ中尉一名
 書記 下士五名内一名ハ軍
 監視區長 曹長二名乃至四名
 第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區内徵兵事務及
 召集事務ヲ掌ル
 第三條 大隊區司令官ハ大隊區内ニ現在スル豫備後備ノ將校

及相當官ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル
 第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ
 管理ス
 第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從
 フ
 第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ(二十三年五月十九日勅令
 第八十二號ヲ以テ各項ノ
 正ス)

麻布	横濱	高崎	長野	佐倉
水戸	本郷	宇都宮	仙臺	福島
新發田	柏崎	青森	盛岡	秋田
山形	名古屋	津	豐橋	静岡
金澤	富山	岐阜	福井	大坂
和歌山	大津	京都	姫路	岡山
神戸	福知山	廣島	尾道	山口
松江	丸龜	徳島	松山	高知
熊本	宮崎	大分	鹿児島	小倉
佐賀	福岡	長崎		

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至四箇ノ監視區ト爲ス
 第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐劄シ豫備後備ノ下士卒ヲ監
 視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ
 報告ス
 第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐劄地ハ師團長之ヲ定

○警備隊條例

明治十九年十一月
勅令第七十五號

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備
 隊ヲ置ク
 第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ
 事ハ鎮臺司令官直ニ之ヲ管理ス
 第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎
 年兩度ニ其半數宛ヲ入營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命
 ス
 其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命
 スルコトアル可シ
 第四條 警備隊兵卒中上等兵ノ任ニ堪フ可キ者及上等兵ハ志
 願ニ依リ尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得
 上等兵中下士ノ任ニ堪フ可キ者ハ志願ニ依リ現役期限滿ツ
 ル迄在營スルコトヲ得
 職工ハ志願ニ依リ二箇年以上在營及再服役ヲ爲スコトヲ得
 其再服役ヲ爲スハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依ル
(二十四年六月十三日勅令第六
 十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス)
 第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ニシテ在營一箇年ヲ經過
 シタルモノ、中ヨリ其任ニ堪フ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス
 但時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
 其上等兵ヨリ下士ニ任シタル者ハ現役期限滿ツル迄在營セ
 シム但現役滿期後ハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依リ
 兵卒ヨリ繼工(下)長靴工(下)長ニ任シタル者亦前項ノ例ニ
 依ル(上)

第二章 司令官ノ本務權限
 第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等
 ノ事ヲ掌リ管地ノ警備保護ニ任ス
 第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備後備軍艦
 員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス
 第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮
 臺司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク可シ但事火急ニシテ兵力
 ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シ
 テ鎮臺司令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵
 スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變異事故アリテ儀仗或ハ
 警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要スル事由ヲ具シテ之ヲ請
 フ時ハ鎮臺司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ
 請フノ暇ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告ス可シ
 第十條 出師準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬
 召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ又後備兵ニ支給ス可キ武
 器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保
 存ノ事ヲ擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ
 地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ナ
 キモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承ク可シ

○警備隊區司令部條例

明治二十二年十二月
勅令第四百四十二號

朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警備隊區司令部條例

第一條 警備隊區司令官ハ其職員左ノ如シ
司令官 中佐若クハ少佐一名
副官 大尉若クハ中尉一名
書記 下士二名

第二條 警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條 警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區内徴兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條 警備隊區司令官ハ警備隊區内ニ現在スル豫備後備將校同相當官ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 警備隊區司令官ハ豫備隊區内ニ現在スル豫備後備下士兵卒ヲ管轄シ歸休兵ヲ監視ス

第六條 警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ掌ル

第七條 警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條 警備隊區司令部位置ハ警備隊常屯ノ地トス

陸軍及海軍ニ於ケル文官教官

明治十九年十月
勅令第六十八號

陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ
教授 奏任
助教 判任

署員 砲兵大中尉 二人
軍吏(二十四年九月十四日勅令第九十三號ヲ以テ(二三)軍吏トアルヲ軍吏ト改正ス) 一人
支署

支署長 砲兵少佐或ハ砲兵大尉 一人
署員 砲兵大中尉 一人

第五條 前條ノ外本署支署ニ砲兵上等監護砲兵科下士及軍吏部下士若干ヲ置キ武庫ニ砲兵科下士若干ヲ置ク其人ノ區分配置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 第三條第二項ニ掲ル支署ニ在ラハ衛戍地ノ位置ニ依リ署長ハ大中尉ヲ以テ之ニ充テ署員ハ置カサルコトアルヘシ又支署及武庫附下士ニ在ラハ該衛戍隊附下士ヲシテ其業務ヲ兼テシムルコトヲ得

第七條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任シ且管内要塞ノ防務ニ參與ス

第八條 提理ハ毎年一回管内ヲ巡回シ要塞ノ備砲並ニ諸隊ノ兵器彈藥ヲ検査シ修理保存ノ良否及其存廢ノ景況ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九條 副提理ハ提理ヲ補佐シ方面ノ事務ヲ整理ス

第十條 支署長ハ提理ニ屬シ砲兵方面ノ事務ヲ分擔シ兵器彈藥ノ受授修理交換ノ事ヲ掌リ兼テ所在地ノ砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌ス

要塞所在地ニ在ラハ要塞司令官ノ命ヲ受テ其防務ニ參與シ砲兵諸般ノ勤務ニ服ス

本署所在地ノ支署長ハ方面副提理之ヲ兼ヌルモノトス

第十條 支署長ハ兵器彈藥ノ支給修理交換ニ就テハ近衛都督師團長要塞司令官及所在地衛戍司令官ノ命ヲ受テ之ヲ行フ

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

第三條 教授助教ノ人員ハ其需要ニ從ヒ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

砲兵方面條例

明治二十三年八月
勅令第七十一號

砲兵方面條例

第一條 砲兵方面ハ要塞ノ備砲及陸軍所要兵器彈藥ノ購買貯藏保存修理及支給分配ノ事ヲ掌ル所トス

第二條 砲兵方面ハ第一方面第二方面第三方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第三第四師管ヲ管轄シ第三方面ハ本署ヲ下ノ關ニ置キ第五第六師管ヲ管轄ス

第三條 師團司令部要塞司令官所在地ニ砲兵方面支署ヲ置キ支署ノ附近ニアラサル旅團司令部所在地ニ武庫ヲ置ク武庫ハ支署ノ管轄トス

前項ノ外樞要ナル衛戍地ニハ支署又ハ武庫ヲ置クコトアルヘシ其設置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 砲兵方面ニ左ノ職員ヲ置ク

本署
提理 砲兵大中佐 一人
副提理 砲兵少佐 一人

但兵器ノ修理ニ止ルモノハ直ニ各隊長ノ請求ニ應シテ之ヲ行フコトヲ得

第十一條 本署署員軍吏以下ハ提理ノ命ヲ受テ支署署員以下ハ支署長ノ命ヲ受テ各事務ヲ分掌ス

第十二條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ屬スト雖トモ其職務ニ就テハ尙ホ所在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ルモノトス

第十三條 砲兵方面所管ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣所定ノ數量ニ基キ之ヲ分テ本署及第一第二支署トス

第十四條 本署ハ本署ニ直轄シテ方面ノ庫内ニ貯藏シ第一支署ハ支署ニ貯藏シテ第二支署ノ補充ニ備ヘ第二支署ハ支署ニ配備シテ出師準備及演習用ニ供スルモノトス

第十五條 武庫ハ第二支署内ニ於テ專ラ後備諸隊所用ノ兵器彈藥ヲ保管スル所トス

前項ノ外特ニ武庫ノ保管ヲ要スルモノハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十六條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラザルハ本署ヨリ支署ニ移シ又ハ各方面相互交換スルコトヲ得ス

第十七條 所在兵器彈藥庫ニハ砲兵監護又ハ定番人ヲ置キ尙ホ交番守兵ヲ置クヘシ其守兵ヲ置クト否トハ場地ノ便宜ヲ圖リ提理ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム但交番守兵ヲ置クトキハ監護又ハ定番人ヲ置カサルコトヲ得

第十八條 各堡壘及砲臺内ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム

第十九條 兵器彈藥庫附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アルハ提理又ハ支署長ヨリ該地衛戍若クハ要塞ノ司令官ニ牒告シ守衛ヲ嚴ニスヘシ

附則

第二十條 第三方面本署ハ退テ設置スルモノトス但之ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示スヘシ

第二十一條 第三方面本署設置ニ至ルマテ第一第二第三師管及北海道第一方面ノ管轄トシ第四第五第六師管ヲ第二方面ノ管轄トス

第二十二條 明治二十一年勅令第三十號衛戍條例ニ掲クル衛戍武庫及職官表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍條例

明治十九年四月勅令第二十四號

朕海軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍條例

第一條 凡ソ軍令ニ關スル者ハ「參謀本部長」奏聞參畫シ親裁ノ後海軍大臣之ヲ奉行ス

第二條 戰時ニ在テ 親裁ノ軍令ハ直ニ鎮守府司令長官艦隊司令長官若クハ特命司令官ニ下シ帷幕ト相通報シテ間斷ナカシム

第三條 海軍ノ軍政ハ海軍省官制ニ依リ海軍大臣之ヲ掌ル

第四條 海軍省ニ將官會議造船會議兵器會議ヲ置ク

第五條 海軍省ハ海軍兵學校機關學校水路部「督買部衛生部」軍醫學校「會計検査部兵器製造所火藥製造所」ヲ管轄ス(二十勅令第三號ヲ以テ督買部會計部ヲ廢シ二十二勅令第四十八號ヲ以テ衛生部官制ヲ廢シ衛生會議條例ヲ定ム同年勅令第五十一號ヲ以テ兵器製造所官制ヲ廢シ同年勅令第五十二號ヲ以テ火藥製造所官制ヲ廢ス)

第六條 帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ五海軍區トナスコト左ノ如シ

第一海軍區 陸中陸奥國界ヨリ紀伊國南牟婁半島郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區 紀伊國南牟婁半島郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區 筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區 石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區 北海道陸奥ノ海岸海面及津輕海峽

第七條 各海軍區ノ軍港ニ鎮守府ヲ置キ其軍區ヲ管轄セシム

鎮守府ノ名稱ハ其所在ノ地名ニ依ル

第八條 鎮守府司令長官ハ管内ニ於テ軍令ヲ主掌シ軍紀風紀訓練ヲ監督シ軍政ヲ管理ス

第九條 各軍港ニ司令官ヲ置キ命ヲ鎮守府司令長官ニ承ケ港内ノ守備其他諸般ノ事ヲ掌ラシム

第十條 艦隊ハ大艦隊中艦隊小艦隊ノ三種ニ區別ス

第十一條 艦隊司令長官及司令官ハ艦隊ヲ統率シテ環海ヲ守衛シ攻守ノ役ニ服ス

第十二條 艦船ハ各鎮守府及各艦隊ニ分屬ス

○鎮守府條例 明治二十二年五月勅令第七十二號

朕鎮守府官制ヲ廢止シ鎮守府條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ區畫シ五海軍區トシ各海軍區ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 鎮守府ヲ置ク港ヲ軍港トシ海軍ニ於テ守備スル地ヲ要港トス

軍港要港ノ境域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 海軍區ノ區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區 陸中陸奥九戸北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟婁半島郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區 紀伊國南牟婁半島郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區 筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區 石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中陸奥九戸兩郡ノ海岸海面

第四條 第一海軍區鎮守府ヲ相模國三浦郡橫須賀ニ置キ第二海軍區鎮守府ヲ安藝國安藝郡界ニ置キ第三海軍區鎮守府ヲ肥前國東彼杵郡在野保ニ置キ第四海軍區鎮守府ヲ丹後國加佐郡舞鶴ニ置ク

第五條 第五海軍區鎮守府ノ位置ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 鎮守府ハ出師ノ準備軍港要港ノ防禦管海ノ警備軍艦ノ製造修理兵員ノ徵募訓練ヲ掌ル所トス

第六條 鎮守府ニ司令長官一人ヲ置キ海軍中將ヲ以テ之ニ補シ

天皇ニ直隸シ所屬ノ軍艦軍隊ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 司令長官ハ軍港司令官造船部長兵器部長主計部長建築部長鎮守府衛生會議議長鎮守府會計監督部長ヲ直轄シ又軍法會議ヲ管轄ス

第八條 司令長官ハ部下ノ艦船軍隊ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ奏上スヘシ

第九條 司令長官ハ軍港内ニ在ル部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲揚シ艦船ヲ指揮ス但場合ニ依リテ陸上ニ其旗章ヲ掲揚スルコトヲ得

第十條 司令長官ハ軍港内一般ニ關スルコトニ於テハ他管ノ軍艦ヲ指揮スヘシ又戰時事變ニ際シテハ軍港内ニ在ル他管ノ軍艦兵員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ其部下ノ艦船ヲ管區内ニ派遣スルコトヲ得又練習ノ爲メニハ五日以内ノ日數ヲ以テ軍隊ヲ陸路二十里以内ニ派遣スルコトヲ得

第十二條 司令長官ハ府縣知事ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナラハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ若其事急激危險ニシテ知事ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第十三條 司令長官ハ疾疫其他例外ノ場合ニ方リ一時部下ノ兵員ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スルハ之ヲ實行シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 司令長官ハ部下ノ兵員ヲ以テ衛兵ヲ編制シ軍港内ニ於テ海軍部内ニ對シ司法警察行政警察ヲ行フコトヲ得

第十五條 司令長官ハ部下ノ職員事故アル時ハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十六條 司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク
參謀長 一人 大佐
參謀 二人 少佐一人 大尉一人
秘書 二人 大尉一人 大主計一人
司令長官傳令使 一人 大尉

第十七條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其職務ニ參シ命令ノ普及並ニ其實施ヲ監視スルヲ以テ任トス

第十八條 參謀長ハ沿岸望樓ノ事務ヲ統理シ參謀秘書傳令使ヲ器主管文庫主管ヲ指揮監督ス

第十九條 參謀長ハ參謀長ノ命ヲ受ク出陣ノ準備軍港要港ノ防禦小演習ノ計畫艦隊軍隊ノ檢閱ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條 秘書ハ參謀長ノ命ヲ受ク人事及各部ニ屬セサル庶務ヲ掌リ又軍政會議ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條 司令長官傳令使ハ常ニ長官ニ隨從シ命令傳達ヲ

掌リ臨時參謀長ノ命ヲ受ク參謀又ハ秘書ノ事務ヲ助ク

第二十二條 鎮守府ニ測器主管一人ヲ置キ少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備供給氣象ノ觀測ヲ掌ラシム

第二十三條 鎮守府ニ文庫主管一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ圖書ノ保管供給ヲ掌ラシム

第二十四條 鎮守府ニ軍港司令官一人ヲ置キ少將或ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ命ヲ受ク軍港ニ在ル鎮守府艦船海兵團及水雷隊ヲ指揮シ軍港ノ守備ヲ掌リ士卒ノ教育訓練ヲ監督セシム

第二十五條 軍港司令官ハ豫備艦長知港事副知港事ヲ指揮監督ス

第二十六條 軍港司令官ハ軍港ノ守備ニ關シ陸軍司令官ト共カテ要スルコトアルトキハ協謀ノ責ニ任ス

第二十七條 軍港司令官ハ鎮守府司令長官事故アルトキカ代理ヲ爲ス

第二十八條 軍港司令官ニ司令官副官二人司令官傳令使一人ヲ屬シ副官ハ少佐或ハ大尉傳令使ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ク服務セシム

第二十九條 軍港ニ豫備艦長豫備艦機關長各一人ヲ置キ豫備艦長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ豫備艦ヲ統轄セシム

豫備艦機關長ハ機關監ヲ以テ之ニ補シ豫備艦長ノ命ヲ受ク服務セシム

豫備艦長ニ艦長副官一人ヲ屬シ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ク服務セシム

第三十條 軍港ニ知港事副知港事各一人ヲ置キ知港事ハ佐官ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ艦船ヲ統轄シ港則ヲ維持シ海運海標及救難防火等ノ事ヲ掌ラシム

副知港事ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ知港事ヲ助ク知港事故アルトキ之カ代理ヲ爲ス

第三十一條 要港ニハ其形勢ニ因リ司令官一人ヲ置キ佐官ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ命ヲ受ク要港ノ守備ヲ掌ラシム

要港ニ要港司令官ヲ置クトキハ水雷隊司令官ハ之ニ隸スルモノトス

第三十二條 要港司令官ニ副官一人ヲ屬シ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ク服務セシム

第三十三條 要港ニハ其形勢ニ因リ知港事一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ要港司令官ニ隸シ港務及海運ノ事ヲ掌ラシム

第三十四條 鎮守府ニ左ノ各部ヲ置ク
造船部
兵器部
主計部
建築部

第三十五條 造船部ハ艦船及其屬具ヲ製造修理シ艦船ヲ裝裝スル所トシ計畫科製造科ヲ置キ其事業ヲ分擔セシム(二十三年三月二十七日勅令第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第三十六條 兵器部ハ砲銃、水雷、彈藥、火具其他兵器ヲ製造修理備裝シ及之ヲ準備供給スル所トス(同上)

第三十七條 主計部ハ會計經理、物品ノ購買賣却、被服、糧食、及艦營需品ヲ除ク準備供給、造船材料ノ貯蓄出納、病院監獄ノ事務及陸運ヲ掌ル所トシ出納課、材料課、衣糧課、病院課、

監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(同上)

第三十八條 建築部ハ船渠、電線、浚港、造家其他水陸ノ工事土地家屋ノ管理及軍港内地勢變更ノ監視ヲ掌ル所トス

第三十九條 各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ(同上ヲ以テ各部目ヲ改正ス)

造船部
部長 一人 機技總監或ハ技監
計畫科長 一人 技監
計畫科主幹 若干人 技監或ハ技士
製造科長 一人 技監
製造科主幹 若干人 機技部上長官士官
倉庫主管 若干人 准士官或ハ判任官
兵器部
部長 一人 佐官
主幹 若干人 少佐大尉或ハ機技部上長官士官
主計部
部長 一人 主計監
課長 各一人 主計少監或ハ大主計
倉庫主管 若干人 主計少監或ハ大主計
建築部
部長 一人 技師
主幹 若干人 技師

第四十條 部長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ク部事ヲ整理ス

第四十一條 科長武庫主管課長ハ部長ノ命ヲ承ク分擔ノ事務ヲ整理ス(二十三年二月勅令第六十三號ヲ以テ改正ス)

第四十二條 主幹倉庫主管ハ部長若クハ科課長ノ命ヲ受ク分

擔ノ事務ヲ整理ス(上)

第四十三條 鎮守府ニ軍政會議ヲ置キ司令長官ヲ以テ議長トシ左ノ職員ヲ以テ職員トス

軍港司令官

造船部長

兵器部長

主計部長

建築部長

司令長官ニ於テ職事ノ事項ニ依リ必要ト認ルトキハ海兵團長鎮守府衛生會議議長ヲ以テ臨時職員ト爲スコトヲ得職事ノ事項會計ニ關スルトキハ鎮守府會計監督部長ヲシテ議席ニ列シ意見ヲ陳述セシムヘシ

第四十四條 軍政會議ハ各部ニ關涉スル事件ノ處分法ヲ協議シ鎮守府ノ經理事務ヲ疏通スルヲ以テ目的トス

第四十五條 此條例ニ掲クル外職員トシテ判任官若干人ヲ置ク

第四十六條 各鎮守府ノ定員ハ其現況ニ應ジ此條例ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ムヘシ

附則

第四十七條 舞鶴鎮守府開應マテ其海軍區中越後以東ハ横須賀鎮守府ニ越中以西ハ吳鎮守府ニ管セシメ第五海軍區鎮守府ヲ置クマテ其海軍區ハ横須賀鎮守府ニ管セシム

第五海軍鎮守府位置設定

明治二十三年二月 勅令第七號

朕第五海軍區鎮守府位置設定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ北海道膽振國室蘭郡室蘭港ト定ム

海軍機關學校條例

明治二十三年十月 勅令第三百五十三號

朕海軍機關學校官制ヲ廢シ海軍機關學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校條例

第一條 海軍機關學校ハ横須賀鎮守府ニ屬シ機關師ト爲ルヘキ機關手機關手ト爲ルヘキ火夫ヲ教育スル所トス

第二條 海軍機關學校ニ於テ教育スル機關手火夫ヲ海軍機關學校練習生ト稱ス

第三條 練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 練習生ハ校内ニ寄宿セシム

第五條 練習生ノ學期ハ一箇年トス

第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 機關大監
- 教官 機關少監大機關士
- 部長 教官ヲ以テ兼補ス
- 軍醫長 大軍醫
- 主計長 大主計

第七條 校長ハ横須賀軍港司令官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總理ス

第八條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス

第九條 部長ハ校長ノ命ヲ受ケ部員ヲ統率シ其事務ヲ掌ル

第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル

第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル

第十二條 海軍機關學校ニ機關師下士卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム

第十三條 海軍機關學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長	機關大監	一
教官	機關少監	四
部長	大機關士	九
軍醫長	大軍醫	一
主計長	大主計	一
機關師及下士	内十二人ハ教員トス	八
教官教員	ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得	十一

機關師及下士ノ内十二人ハ教員トス
教官教員ハ定員ノ外本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

海軍造船工學校官制

明治二十二年五月 勅令第七十四號

朕海軍造船工學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造船工學校官制

第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ造船ニ從事スヘキ技手出身志願ノ生徒ヲ教育スル所トス(二十三年勅令第二十六號及二十四年勅令第二十八號ヲ以テ改正ス)

第二條 海軍造船工學校ノ事務ハ總テ横須賀鎮守府造船部ニ於テ管理ス

第三條 海軍造船工學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長 一人 造船部在職ノ技監或ハ技士ヲ以テ兼補ス
教官 若干人 造船部員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 校長ハ造船部長ノ命ヲ受ケ校務ヲ整理ス

第五條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任ス

新原探炭所官制

明治二十三年三月 勅令第四十號

朕新原探炭所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新原探炭所官制

第一條 新原探炭所ハ海軍豫備炭山ヲ管轄シ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條 新原探炭所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 機關少監或ハ大機關士
- 技手 一人

第三條 所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ整理ス

第四條 屬技手ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ從事ス

新原探炭所屬技手官等

明治二十三年三月 海軍省令第十一號

新原探炭所ノ屬技手ハ判任三等以下トス

新原炭坑採炭規程

明治二十四年六月 海軍省令第二十一號

新原炭坑採炭規程左ノ通定ム

新原炭坑採炭規程

第一條 新原探炭所ニ於テハ毎年年別ニ定ムル所ノ炭層及探炭

額ニ依リ石炭ヲ採掘ス可シ

第二條 石炭ハ其精粗ニ依リ上等炭中等炭下等炭ノ三種ニ區別シ上等炭中等炭ハ攪別シテ八分目篩ヲ以テ篩分タル塊炭トシ下等炭ハ攪別シタル塊炭及粉炭トス

第三條 上等炭中等炭ハ艦船用ニ充テ下等炭ハ抗業用ノ燃料ニ充ツヘシ但燃料ニ充タル殘餘ハ成規ニ依リ賣却處分スヘシ

第四條 坑内ノ監査、石炭ノ篩分、攪別及検査ハ探炭所員之ヲ爲シ抗業ニ必要ナル人員ハ職工人夫ヲ使役スヘシ

第五條 探炭事業一口金高百圓未満ノモノハ探炭所長ニ於テ雇職工人夫ヲ使役シ之ヲ處辨スルコトヲ得

第六條 探炭請負規則ニ依リ請負ニ附スル事業ハ其設計圖面及仕様書豫量價格等ヲ定メ金高三千圓以内ハ探炭所長決定シ三千圓以上ハ所屬鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ク之ヲ決定スヘシ

請負ニ附スヘキ事業一口五百圓以上ハ其事項ヲ廣告シテ競爭ニ附スヘシ一口五百圓未満ハ隨意契約ニ據ルコトヲ得但請負契約期限ハ滿一箇年ヲ超ユルヲ得ス

請負契約書ハ探炭所長之ヲ作り會計監督部ノ調査ヲ經ルモノトス

第七條 石炭ノ價格ハ採掘費、坑業用器具器械ノ修補費其他材料消耗品、職工人夫ニ係ル諸費及箱崎炭庫マテノ運搬費等ヲ三箇月毎ニ平均シ之ヲ其原價トス但其價格ハ炭量毎千基ヲ以テ算定スヘシ

第八條 探炭所長ハ採掘シタル炭量及其費額並ニ抗業ノ狀況ヲ調査シ三箇月毎ニ抗業報告ヲ作り所屬鎮守府司令長官ニ

出シ司令長官ハ之ヲ査閲シ大臣ニ報告スヘシ

○海軍省官制 明治二十四年七月 勅令第九十一號

海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條 海軍大臣秘書官ハ一人トシ大佐又ハ主計大監ヲ以テ之ニ補ス(二十五年度勅令第四十四號ヲ以テ追加ス)

第三條 海軍大臣官房ニ主事副主事各一人ヲ置ク主事ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ副主事ハ主計大監ヲ以テ之ニ補ス

第四條 主事ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ク大臣官房ノ事務ヲ掌リ副主事ハ主事ヲ助ク

第五條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス

第六條 海軍省ニ左ノ三局ヲ置ク

第二局

第三局

第七條 第一局ニ於テハ武官教官主理ノ進退任免、艦團軍隊ノ制規職務、戒嚴徵發、教育、訓練、紀律、徵兵、儀式、服制ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條 第二局ニ於テハ艦船兵器ノ製造修理、兵器彈藥艦營需品ノ準備供給及艦船籍ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第九條 第三局ニ於テハ經費ノ豫算決算、金錢及物品會計ノ事

務、被服糧食、俸給、恩給、諸給、土地家屋ノ保管營造、金錢出入納及用度ノ事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十條 各局中各課ニ次長各一人ヲ置ク第一局第一課ニ機關少監一人ヲ勤務セシム

第十一條 第一局長及第二局長ハ少將第三局長ハ主計總監ヲ以テ之ニ補シ各課長及第一局第一課次長、第二局第二課次長、第三局第三課次長ハ上長官ヲ以テ之ニ補シ其他課次長ハ士官ヲ以テ之ニ補ス

第一局第三課長及次長ハ東京軍法會議ノ主理ヲ以テ之ヲ兼務セシム

第十二條 課長ハ局長ノ命ヲ承ク課務ヲ整理ス課次長ハ課務ノ一部ヲ分擔シ課長事故アルトキハ之ヲ代理ス又機關少監ハ課長ノ命ヲ承ク事務ニ服ス

第十三條 海軍省ニ上等兵曹、機關師、船匠師、厨、技手ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ク事務ニ服ス

第十四條 海軍省ノ職員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

海軍省職員定員表

大臣	秘書官	主計大監	一
官	主事	大佐	一
房	副主事	主計大監	一
		上等兵曹	三

大 次		局 一 第		局 二 第		局 三 第	
少長	將	少長	將	少長	將	少長	將
第一課長	第一課長	第一課長	第一課長	第一課長	第一課長	第一課長	第一課長
佐一	佐一	佐一	佐一	佐一	佐一	佐一	佐一
機關少監	大長	大長	大長	大長	大長	大長	大長
一	主長	主長	主長	主長	主長	主長	主長
	理一	理一	理一	理一	理一	理一	理一
	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長
	士一	士一	士一	士一	士一	士一	士一
	技士一	技士一	技士一	技士一	技士一	技士一	技士一
	六十二	六十二	六十二	六十二	六十二	六十二	六十二
	厨	厨	厨	厨	厨	厨	厨
	船匠師	船匠師	船匠師	船匠師	船匠師	船匠師	船匠師
	一	一	一	一	一	一	一
	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師
	一	一	一	一	一	一	一
	技手十	技手十	技手十	技手十	技手十	技手十	技手十

總計 百四人

○分課規程 明治二十四年八月二十三日官報

大臣官房ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ

- 一 機密文書ニ關スルコト
- 二 軍艦軍隊ノ進退傳達ニ關スルコト
- 三 閣議案命令案其他各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ立案スルコト
- 四 公文書類及成案文書ヲ授受發送スルコト
- 五 武官文官ノ官職任補等ニ關スル諸辭令取扱ノコト
- 六 文官 勲章勲章ノ定員及進退位彼勳其他身分ニ關スルコト及其履歷名簿ヲ整理スルコト
- 七 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト

現行日本法令大全

- 八 海外電信ノ發送ニ關スルコト
- 九 陪食陪宴參賀拜謁ニ關スルコト
- 十 海軍職員錄ヲ編製スルコト
- 十一 公文書類ヲ編纂保存シ諸例則及指令通報ヲ改正刊行スルコト
- 十二 年報統計ヲ調製シ及官報掲載ニ關スルコト
- 十三 海軍將官會議及進級會議ニ關スルコト
- 十四 三局ノ主管外ニ係ル事項
- 大臣秘書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌ルノ外第一條第五項第六項第七項及第十項ノ事務ヲ掌理シ又臨時其他ノ事務ニ服ス
- 上裁又ハ機密ニ關スル差使往復ハ秘書官又ハ大臣傳令使ノ所掌ニ屬ス
- 第一局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
- 第一課
 - 一 高等武官及候補生其他教官官ノ進退任免補職命課增俸其他身分ニ關スルコト
 - 二 准士官下士ノ任官進級增俸其他身分ニ關スルコト
 - 三 軍人教育ニ係ル雇外國人ニ關スルコト
 - 四 軍人軍屬官ノ役位發勳記章褒章ニ關スルコト
 - 五 候補生及生徒採用ニ關スルコト
 - 六 兵員ノ調査補充徵集再役歸休召集ニ關スルコト
 - 七 待命休職停職豫備後備ノ軍人及海軍豫備員ノ管轄ニ關スルコト
 - 八 高等武官及候補生准士官ノ考課試用報告及學術検査ニ關スルコト

- 九 高等武官並ニ候補生准士官ノ名簿ヲ編製シ及教官ノ履歷名簿ヲ整理スルコト
- 十 艦團隊及各廳ノ定員及兵員部署法ニ關スルコト
- 十一 高等武官及候補生准士官下士卒其他生徒ノ教育訓練ニ關スルコト
- 第二課
 - 一 鎮守府及艦團軍隊ノ職務役務ニ係ル規程訓令ニ關スルコト
 - 二 軍紀風紀其他軍人ノ分限身分ニ係ル諸制規ニ關スルコト
 - 三 檢閱演習點檢ニ關スルコト
 - 四 海軍諸學校及艦團隊ニ係ル教育訓練ノ規程並ニ商船學校ニ關スルコト
 - 五 武官任用學術検査進級增俸ノ規程ニ關スルコト
 - 六 儀式禮式祭典服制旗章徽章ニ關スルコト
 - 七 戒嚴令徵發令ニ關スルコト
 - 八 徵兵志願兵ノ諸制規ニ關スルコト
 - 九 豫備後備兵召集ノ規程ニ關スルコト
 - 十 海上條規ニ關スルコト
- 第三課
 - 一 海軍刑法治罪法違警罪處分例監獄則及普通法律ニ關スルコト
 - 二 懲罰令諸罰則ニ關スルコト
 - 三 各軍法會議ノ裁判及其事務ノ監查ニ關スルコト
 - 四 軍法會議普通裁判所交涉事件處分法ニ關スルコト
 - 五 軍法會議及普通裁判ノ處分ヲ受ケタル者ニ關スルコト

現行日本法令大全

- 六 主理錄事ノ進退任免命課增俸役位發勳其他身分ニ關スルコト及其履歷名簿ヲ整理スルコト
- 第二局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
- 第一課
 - 一 兵器彈藥及屬具ノ製造修理ニ關スルコト
 - 二 兵器彈藥及屬具ノ數額ヲ定メ其配備供給及其制規ニ關スルコト
 - 三 艦船兵裝ノ大體ヲ定メ計畫方案及入費概算書ヲ調査スルコト
 - 四 兵器彈藥ニ關スル規則訓令ヲ立案及調査スルコト
 - 五 兵器製造所火藥製造所各鎮守府兵器部工場及武庫火藥庫ノ構造設置存廢ニ關スルコト
 - 六 兵器簿兵器履歷簿兵器目錄ヲ整理スルコト
 - 七 造兵工場ノ職工及雇外國人ニ關スルコト
 - 第二課
 - 一 新製スヘキ艦船ノ大體計畫及建造所ヲ査定スルコト
 - 二 内國私立造船所ニ注文スル艦船ノ製造條約ヲ調査スルコト
 - 三 外國ニ注文スル艦船ノ製造條約及購買條約ヲ調製シ及之ニ關スル事項ヲ調査スルコト
 - 四 船體機關及其屬具ノ製造改造修理及造船部ノ新築改築工業用諸器械計畫及其入費概算書ヲ調査スルコト
 - 五 艦船及造船部ノ工場工業用物品ノ保存廢棄買賣ニ關スル事項ヲ調査スルコト
 - 六 船體機關及屬具ノ製造材料及造船部ノ工業用材料ノ試驗報告ヲ調査スルコト

- 七 艦船籍艦船明細簿艦船目錄艦船表及造船部ノ明細表ヲ調製スルコト
- 八 船體機關ニ關スル規則訓令ヲ立案調査スルコト
- 九 船體機關ニ關スル諸報告類ヲ調査シ其試驗及検査報告ヲ調査スルコト
- 十 艦船ノ保安救護ニ關スルコト
- 十一 造船工場ノ職工及雇外國人ニ關スルコト
- 第三課
 - 一 艦營需品ノ品種數額ヲ定メ其配備供給及制規ニ關スルコト
 - 二 艦船ノ艦裝ニ關スル方案及其入費概算書ヲ調査スルコト
 - 三 艦裝及艦營需品ニ關スル規則訓令ヲ立案調査スルコト
 - 四 艦營需品倉庫ノ構造設置存廢ニ關スルコト
 - 第二局ニ於テ掌理スル事務ノ細目ハ左ノ如シ
 - 第一課
 - 一 豫算決算ニ關スルコト
 - 二 豫備金支出ニ關スルコト
 - 三 經費決算報告ヲ調製スルコト
 - 四 定額繰越年度支出定額戻入ニ關スルコト
 - 五 出納官吏身元保證金ニ關スルコト
 - 六 特別會計ニ關スルコト
 - 七 豫算出納決算ノ諸例規ニ關スルコト
 - 八 俸給給與ノ諸制規ニ關スルコト
 - 九 被服糧食治療品ノ經理ニ關スルコト
 - 十 恩給官吏遺族扶助、文官退官賜金ニ關スルコト

十一 他課ノ主管外ニ係ル事項
 第二課
 一 官有財産ニ關スルコト
 二 物品會計及兵備品會計ニ關スルコト
 三 材料物品ノ制規ニ關スルコト
 四 賣買貸借ノ制規ニ關スルコト
 五 工事受負ノ制規ニ關スルコト
 六 鎮守府ノ所管ニ屬セザル官有財産ヲ管理スルコト
 七 鎮守府ノ所管ニ屬セザル營繕ヲ爲スルコト
 八 會計主務官ヲ置カサル東京軍車費廳及本省ノ物品購買供給通信運搬舟車馬使役ニ關スルコト及監護使丁駁者馬丁人夫ヲ支配スルコト
 九 諸艦札舟車費用券取扱ノコト
 十 本省構内取締ノコト
 第三課
 一 本省收入ニ關スルコト
 二 本省費及本省ニ於テ支拂フヘキ經費仕拂ノコト
 三 收入總報告書支出總報告書ヲ調製スルコト
 四 歳出額支出總額歳入總額及補助額ヲ登記保管スルコト
 五 留守宅渡金取扱ノコト

○海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク
明治二十四年四月 勅令第四十三號

朕海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ更ニ書記ヲ置ク
 第二條 書記ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル(列任官俸給令ハ二十四年七月二十日四日勅令第八十三號ヲ以テ改正ス)
 第三條 書記ノ定員ハ從來定ムル屬ノ定員ニ同シ

○海軍會計監督部條例
明治二十五年十月 勅令第六十二號

朕海軍會計監督部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍會計監督部條例
 第一條 海軍會計監督部ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央會計監督部ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ某地會計監督部ト稱ス
 第二條 各會計監督部ニ部長一人ヲ置キ主計大監ヲ以テ之ニ補ス
 第三條 中央會計監督部長ハ海軍大臣ニ隸シ海軍全般ノ會計監督事務ヲ統理シ又東京ニ在ル海軍各艦船ノ會計ヲ監督ス
 第四條 某地會計監督部長ハ中央會計監督部長ニ屬シ當該鎮守府管區内ニ在ル海軍各艦船團隊ノ會計ヲ監督ス
 第五條 各會計監督部ニ部員一人ヲ置キ主計少監ヲ以テ之ニ補ス部員ハ部長ノ指揮ヲ承ク部務ニ服ス
 第六條 會計監督部ニ書記十二人ヲ置ク書記ハ上官ノ命ヲ承ク事務ニ服ス
 第七條 某地會計監督部長ハ當該鎮守府軍政會議ノ議事會計ニ關スルトキハ議席ニ列シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第八條 會計監督部長ハ監督ノ事實ニ依リ正當ナラスト認メタル事項ニ就テハ當該官吏ニ推問シ辯明又ハ更正セシムルコトヲ得
 第九條 出納官吏計算書及證憑書類ノ提出ヲ怠リタルモノアルトキハ會計監督部長ハ直ニ當該官吏又ハ所轄長ニ通告シ期限ヲ定メ提出セシム
 第十條 中央會計監督部長ハ會計監督ノ成績ニ就キ意見アルトキハ隨時海軍大臣ニ報告スヘシ
 第十一條 某地會計監督部長ハ本務ヲ執行スルノ外一般ノ紀律節制ニ關シテハ當該鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ク
 第十二條 某地會計監督部ニ係ル費用ハ當該鎮守府ノ支出ニ屬ス

○海軍參謀部條例
明治二十二年三月 勅令第三十號

朕海軍參謀部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍參謀部條例
 第一條 海軍大臣ハ各省官制ニ揭クルモノノ外帷幕ノ機務ニ參シ出師作戰海防ノ計畫ニ任スルモノトス
 第二條 海軍大臣ノ下ニ海軍參謀部ヲ置キ軍事ノ計畫ヲ掌ラシム
 第三條 海軍參謀部ニ長一人ヲ置キ將官ヲ以テ之ニ補シ部務ヲ總理セシム
 第四條 海軍參謀部ニ第一課第二課第三課ヲ置キ部務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
 第一課 作戰出師準備海上運輸ノ計畫

第二課 海岸防禦
 第三課 課報

第五條 課長ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ第一課第三課ニ課員四人ヲ置キ一人ハ少佐三人ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ第二課ニ課員三人ヲ置キ一人ハ少佐二人ハ大尉ヲ以テ之ニ補ス
 第六條 部長ハ臨時中課員ニ乙課ノ事務ヲ兼務セシムルコトヲ得
 第七條 海軍參謀部ニ大臣傳令使部長傳令使各一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ大臣部長ニ專屬セシメ又部長ノ命ヲ受ク課務ヲ助クシム
 第八條 公使館附將校ハ海軍參謀部ヲシテ管轄セシム(二十三年十月十八日勅令第二百四十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 第九條 海軍參謀部ニ由仕將校ヲ置キ臨時ノ事務ニ從事セシム(同上ヲ以テ本條以下追加ス)
 第十條 海軍參謀部ニ編修編修書記ヲ置キ第三課ニ屬セシム
 第十一條 海軍參謀部ニ船匠師兵曹技手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ク部務ニ從事セシム
 第十二條 海軍參謀部ノ定員ハ左ノ如シ

部長 官房		海軍大臣傳令使		大尉	編修
第一課	課長	大尉	少佐	三	船匠師
第二課	課長	大尉	少佐	二	兵曹
第三課	課長	大尉	少佐	三	技手

公使館附將校	佐官或ハ大尉	八	屬
出仕將校	佐官或ハ大尉	十三	編修書記九

水路部條例

明治二十二年六月 勅令第四百十九號

陸海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

水路部條例

- 第一條 水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海圖ヲ測製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌ノ配備其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス
- 第二條 水路部ニ測量科計課課ヲ置ク
- 第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 部長 大佐 一人
 - 測量科長 佐官 一人
 - 圖誌科長 少佐 一人
 - 測量班長 少佐 三人
 - 圖誌科係 大尉 二人
 - 測量士 尉官或ハ技士 九人
 - 測量助手 上等技工 若干人
 - 計算課長 屬 一人
 - 製圖手 技手 若干人
- 第四條 部長ハ海軍參謀部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス

- (二十二年勅令第四百號ヲ以テ參照)
- 第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得
- 第六條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 各班ヲ部署シ測量救令ヲ下ラス事
 - 二 各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項
 - 三 各班水路記事ノ調査ニ關スル事項
 - 四 測量經費豫算ニ關スル事項
 - 五 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス
- 第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ測量原圖ヲ測製シ其水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス
- 第九條 測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス
- 第十條 測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹ヲラシムルコトアル可シ
- 第十一條 測量助手ハ各班ニ分屬シ班長ノ命ヲ受ケテ測量士ヲ助ク
- 第十二條 圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整刊行スル事
 - 二 水路誌燈臺表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ翻譯シテ刊行スル事
 - 三 水路告示ヲ起草スル事
 - 四 内外諸圖書ヲ調査シ及圖誌ヲ増補又ハ改正スル事
 - 五 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事項

- 六 圖誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及漸舊圖誌ヲ交換スル事
- 七 外國ト圖誌ヲ交換スル事
- 八 圖誌ヲ保管スル事
- 九 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項
- 十 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項
- 第十三條 圖誌科係ハ科長ノ命ヲ承ケ圖誌ニ關スル事業ヲ分掌ス
- 第十四條 製圖手ハ科係ニ屬シテ其業ニ服ス
- 第十五條 (二十二年勅令第四百號ヲ以テ參照)
- 第十六條 計算課長ハ左ノ事項ヲ掌ル
 - 一 經費金收入金ノ豫算書決算書ノ測製ニ關スル事項
 - 二 經費金收入金ノ出納ニ關スル事項
 - 三 水路部内ノ庶務及物品ノ保管ニ關スル事項
- 第十七條 水路部ニ編修編修書記ヲ置キ圖誌科ニ屬セシム
- 第十八條 水路部ニ上等技工技手屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ從事セシム
- 第十九條 水路部ノ定員ハ左ノ如シ

○艦隊條例 明治二十二年七月 勅令第四百號

朕艦隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

部長	大佐	測量科	班長	佐官	三人	上等技工	九
圖誌科	科長	測量士	尉官	二人	技工	六	
圖誌科係	編修	技士	少佐	六	技手	二十四	
計算課長	屬	大尉	少佐	一	屬	九	
							編修書記二

- 第一條 艦隊ハ軍艦三艘以上ヲ以テ編制ス
- 第二條 艦隊ハ常置シ又ハ臨時編制ス
- 第三條 艦隊ノ名稱ハ編制ノ目的又ハ差遣スル所ノ海洋若クハ地方ノ名ヲ冠シ其艦隊ト稱ス
- 第四條 艦隊ニ司令長官ヲ置キ其勢力ニ應ジ大將中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 大將若クハ中將ノ司令スル艦隊艦數多キトキハ其下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトアリ
- 第五條 艦隊司令長官司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

大將司令長官タルトキノ幕僚	參謀長	少將若クハ大佐一	參謀	司令長官	司令使	主計少監	書
中將司令長官タルトキノ幕僚		大尉		司令官		大主計	
少將司令長官タルトキノ幕僚		少佐				大主計	
		少佐若クハ大尉一				大主計	

司令官ノ幕僚

大尉

一大尉

一大主計

一

艦隊外國ニ航スルトキ時宜ニ依リ譯官トシテ奏任官又ハ判任官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第六條 艦隊司令官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 艦隊司令官ハ麾下ノ軍艦ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ奏上ス可シ

第八條 艦隊司令官ハ沿海ノ地方長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告ス可シ若シ其事急激危險ニシテ地方長官ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條 艦隊司令官ハ麾下ノ軍艦ヲ分遣スルトキハ部下司令官若クハ先任艦長ヲシテ其指揮ヲ掌トシメ其職權内ノ事ヲ委任スルコトヲ得

第十條 艦隊司令官ハ部下職員事故アルトキ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十一條 艦隊司令官ハ司令官官廳下ノ軍艦ヲ分遣シ之ヲ訓練シ軍備ヲ整頓ス

第十二條 艦隊司令官ハ部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲ク之ヲ旗艦ト稱ス

第十三條 艦隊司令官ハ司令官ハ旗艦ノ艦長機關長軍醫長主計長ヲシテ其職務ニ參與セシムルコトヲ得

第十四條 參謀長ハ司令官ノ職務ヲ輔佐シ其職務ニ參與シ參謀令使秘書ヲ指揮監督シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス

第十五條 參謀長アラサル艦隊ノ參謀ハ司令官司令官ノ機

務ニ參與シ傳令使秘書ヲ指揮監督シ軍事ニ係ル諸件ヲ整理ス

第十六條 參謀長アル艦隊ノ參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ軍事ニ係ル諸件ヲ分擔ス

第十七條 司令官司令官傳令使ハ常ニ司令官司令官ニ隨從シ命令傳達及信號施行ヲ掌トリ臨時司令官司令官若クハ參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ秘書ノ事務ヲ助ク

第十八條 秘書ハ艦隊ノ庶務ヲ整理ス

軍艦條例

明治二十二年七月 勅令第九十九號

朕軍艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 軍艦ハ鎮守府ヲ本管トス

第二條 軍艦艦隊ニ編入中ハ艦隊司令官ニ屬スト雖モ其本管ヲ變セス艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解散シタルトキハ別ニ命令ヲシテ其本管ニ歸スルモノトス

第三條 軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ警備練習測量其他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱ス

第四條 軍艦戰術航海ノ準備整頓シ役務ノ命ヲ待ツトキハ之ヲ豫備艦ト稱ス

第五條 軍艦製造廠裝修理中ニ在ルトキ又ハ戰術航海ノ準備整ハサルトキハ之ヲ非役艦ト稱ス

第六條 軍艦ノ定員ハ上長官士官準士官下士及卒ヲ以テ組織ス

第七條 軍艦ニハ定員ノ外少尉候補生少主計候補生ヲ乘組マ

現行日本法令大全

第八條 軍艦鎮守府司令官又ハ艦隊司令官司令官ノ旗艦タルトキハ定員ニ下士卒若干員ヲ増加スルコトヲ得

第九條 軍艦在役艦タルトキハ定員ヲ充實シ他ノ軍艦ニ屬シタルトキ又ハ豫備艦或ハ非役艦タルトキハ定員中適宜ノ人員ヲ置キ或ハ之ヲ置カサルコトアリ

第十條 軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之ニ補ス

艦長 大佐若クハ少佐若クハ大尉

副長 少佐若クハ大尉

砲術長 大尉

水雷長 大尉

航海長 大尉

分隊長 大尉

機關長 機關少監若クハ大機關士

軍醫長 大軍醫

主計長 大主計

航海士 少尉

分隊長 少尉

水雷主機 機關士

機關士 大機關士若クハ少機關士

軍醫 大軍醫若クハ少軍醫

主計 大主計若クハ少主計

職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應ジ別ニ之ヲ定ム

練習測量其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲ク

ル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトアリ

第二類 第一章 第一款 官制

クコトアリ(二十三年十月二十二日勅令第百六十一號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十一條 艦長ハ所管長官ニ隸シ乘員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ一切ノ艦務ヲ統理ス

第十二條 艦長ハ部下職員事故アリ代理者ナキトキ臨時他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十三條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦内ノ定則ヲ維持シ一切ノ艦務ヲ整理ス

第十四條 砲術長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十五條 水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

第十六條 航海長ハ航海及水路嚮導ヲ擔任シ主管ノ器具物品ヲ整頓シ艙内貯積ノ方法ヲ監督ス

第十七條 分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ戰術運用防火其他各部署ノ主務ヲ掌理シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓ス

第十八條 砲術長水雷長航海長分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官ト稱シ其主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

第十九條 機關長ハ機關ヲ整頓シ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ機關部諸員ヲ誘掖訓練ス

第二十條 軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル

第二十一條 主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第二十二條 航海士ハ航海長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十三條 分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十四條 航海士分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十五條 水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ魚形水雷及電氣

燈ニ係ル機關ヲ管理ス

第二十六條 機關士ハ機關長ノ命ヲ受テ其主務ヲ掌理ス

第二十七條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受テ其主務ヲ掌理ス

第二十八條 主計ハ主計長ノ命ヲ受テ其主務ヲ掌理ス

第二十九條 艦長缺員中ハ副長其職務ヲ執リ艦長事故アルト

キハ副長其代理ヲ爲ス又副長ヲ置カサル艦ニ在テ艦長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲ス

第三十條 副長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲シ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將校副長ノ職務ヲ擔任ス

第三十一條 航海長事故アルトキハ航海士其代理ヲ爲シ分隊長事故アルトキハ分隊長其代理ヲ爲シ機關長事故アルトキハ機關士其代理ヲ爲シ軍醫長事故アルトキハ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ主計其代理ヲ爲ス

第三十二條 艦隊附屬ノ軍艦ニ在テハ乘組將校又ハ本艦團隊ヨリ臨時乘組ナル將校ノ中先任ノ者其艦一切ノ命令ヲ掌トリ艦ノ保安ヲ負擔スルモノトス

○水雷隊條例 明治二十二年四月 勅令第四十七號

水雷隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷隊條例

第一條 軍港要港ニ漸次水雷隊ヲ置ク

第二條 水雷隊ハ海軍區ノ區域ニ依リ各鎮守府ヲシテ管轄セシム

第三條 水雷隊ニ司令ヲ置ク佐官ヲ以テ之ニ補ス

第四條 軍港ノ水雷隊司令ハ軍港司令官ニ隸シ要港ノ水雷隊

司令ハ直ニ其所管鎮守府司令官ニ隸シ部下ヲ監督訓練シ水雷水雷艇其他ノ要具ヲ整備シ近海ノ水路ヲ熟知シ軍港要港ノ守備ニ任ス

第五條 水雷隊ハ佐官機關士軍醫主計準士官下士卒若干名ヲ以テ編制ス其定員ハ軍港要港ノ形勢ニ應シテ之ヲ定ム

○水雷術練習艦條例 明治二十二年十二月 勅令第三百三十二號

水雷術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷術練習艦條例

第一條 水雷術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官及機關士上等兵曹兵曹ニ水雷術ヲ教授シ掌水雷兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育シ又機關手火夫ニ水雷工業ヲ修學セシムル所トス(二十四年二月二十八日勅令第十

七號ヲ以テ本條ヲ改正ス) 第二條 水雷術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ水雷術練習生ト稱シ機關手火夫ヲ水雷工練習生ト稱ス(上同)

第三條 水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ハ員外乘員トス

第四條 水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第四條 水雷術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲グル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官 大尉 大機關士 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス(同上ヲ以テ本項中追加ス)

第五條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受テ軍艦條例第十一號ニ掲グルモノ、外教務ヲ掌理スルコトヲ掌ル

第六條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲グルモノ、外教務ヲ掌理スルコトヲ掌ル

○砲術練習艦條例 明治二十二年十二月 勅令第三百三十一號

砲術練習艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲術練習艦條例

第一條 砲術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官上等兵曹商船學校生徒ニ砲術ヲ教授シ掌砲兵及砲術教員ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス(二十四年二月二十八日勅令第十

七號ヲ以テ本條ヲ改正ス) 第二條 砲術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ砲術練習生ト稱ス(同上ヲ以テ本項中追加ス)

第三條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ハ員外乘員トス

第四條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第四條 砲術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲グル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官 大尉 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第五條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受テ軍艦條例第十一條ニ掲グルモノ、外教務ヲ掌理スルコトヲ掌ル

第六條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲グルモノ、外教務ヲ掌理スルコトヲ掌ル

第七條 教官ハ砲術教授及試験ノ事ヲ掌ル

○海軍造兵廠條例 明治二十四年三月 勅令第二百五號

海軍造兵廠條例

海軍造兵廠官制ヲ廢シ海軍造兵廠條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍造兵廠ハ兵器火藥爆裂藥ヲ製造改造修理購買シ鎮守府兵器部ニ供給スル所トス

第二條 海軍造兵廠ニ造兵科火藥科検査科會計課倉庫課ヲ置ク

第三條 造兵科ニ於テハ兵器及其屬具ノ製造改造修理ヲ掌ル

第四條 火藥科ニ於テハ火藥爆裂藥ノ製造改造ヲ掌ル

第五條 検査科ニ於テハ兵器火藥爆裂藥ノ検査試験ヲ掌ル

第六條 會計課ニ於テハ經費金收入金ノ整理材料物品ノ保管出納購買卸ヲ掌ル

第七條 倉庫課ニ於テハ製成物件ノ保管出納輸送ヲ掌ル

第八條 海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

- 廠長 大佐
- 造兵科長 大技監
- 造兵科主幹 技監技士
- 火藥科長 少佐
- 火藥科主幹 技監技士
- 検査科長 少佐
- 検査科主幹 大尉技士
- 會計課長 主計少監
- 會計課次長 大主計
- 倉庫課長 大尉

軍醫長 大軍醫

- 第九條 廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ク廠務ヲ總理ス
- 第十條 科長課長ハ廠長ノ命ヲ受ク其主務ヲ整理ス
- 第十一條 主幹ハ科長ノ命ヲ受ク科務ヲ分掌ス
- 第十二條 課次長ハ課長ヲ助ク
- 第十三條 軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ク其主務ニ從事ス
- 第十五條 海軍造兵廠ニ判任官及卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ク廠務ニ從事セシム
- 第十六條 海軍造兵廠ノ定員ハ左ノ如シ

廠長	大佐	造兵科	科長	技監	大技監	上等兵曹三
火藥科	科長	少技監	看護手	一		
會計科	主幹	少技士	技手	二十八		
倉庫課	課長	大計少監	書記	二十三		
軍醫	軍醫長	大軍醫	看病夫	二		

○造船造兵監督官條例 明治二十四年七月 勅令第八十號

朕造船造兵監督官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造船造兵監督官條例

- 第一條 海軍造船造兵ノ工事ヲ造船部造兵廠外ノ工場ニ委託スルトキハ造船監督官造船兵監督官ヲ置キ其事業ヲ監督セシム
- 第二條 造船造兵ノ事ニ於テハ監督官ノ外會計主務官ヲ置キ其會計事務ヲ整理セシメ監督助手ヲ置キ事業ノ監督ヲ補助セシム
- 第三條 造船造兵監督官ハ佐尉官技監技士ヲ以テ之ニ補シ會計主務官ハ主計官ヲ以テ之ニ補シ監督助手ハ准士官下士又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 造船造兵監督官會計主務官監督助手ハ別ニ定員ヲ置カス豫算定額内ニ於テ造船造兵事業ノ程度ニ應シ須要ノ人員ヲ置クコトヲ得
- 第五條 造船造兵監督官會計主務官ハ海軍省第二局長ノ指揮監督ヲ受ク監督助手ハ監督官ノ命ヲ受ク事務ニ服ス

○海軍將官會議條例 明治二十二年五月 勅令第七十五號

朕海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍將官會議條例

- 第一條 海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於ケル重要ノ事項ヲ審議スル所トス(二十四年十一月勅令第二二號)
- 第二條 海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

テ之ニ兼補ス
第七條 海軍技術會議ニ書記四人ヲ置キ風ヲ以テ之ニ充ツ(二十三年十月十八日勅令第二四四號)
十二號ヲ以テ本條中改正ス

○海軍衛生會議條例 明治二十二年四月 勅令第四十八號

朕海軍衛生部官制ヲ廢止シ海軍衛生會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍衛生會議條例

- 第一條 海軍衛生會議ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央衛生會議ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ鎮守府衛生會議ト稱ス
- 第二條 中央衛生會議ハ海軍大臣ニ隸シ鎮守府衛生會議ハ其司令長官ニ隸ス
- 第三條 中央衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如シ
一 海軍一般ニ施行スヘキ衛生ニ關スル事項
二 流行病傳染病豫防法ノ海軍一般ニ關スル事項
三 治療法ニ關スル事項
四 藥品療用品ノ品種數額ノ規定ニ關スル事項
五 軍人身體ノ查定法ニ關スル事項
六 軍人糧食ノ品種分量ニ關スル事項
七 軍醫官及軍醫候補生生徒ノ採用教育法
八 軍醫官以下軍醫部人員服務ノ定則
- 第四條 中央衛生會議ニ於テハ恩給賑恤金ニ係ル診斷書ヲ調査ス

第三條 議事ノ事項ニ依リ海軍大臣必要ト思考スルトキハ議員ニアラサル將官機技總監軍醫總監主計總監ヲ以テ臨時議員トスル事ヲ得

- 第四條 海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス
- 第五條 議案ハ議長ヨリ下付ス議員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス

○海軍技術會議條例 明治二十二年四月 勅令第五十三號

朕海軍兵器會議條例及海軍造船會議條例ヲ廢止シ海軍技術會議條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

- 第一條 海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關並ニ砲銃水雷彈藥劇發藥ノ新計畫又ハ新案其他技術上ノ事件ヲ審議スル所トス
- 第二條 海軍技術會議ノ議長ハ海軍少將ヲ以テ之ニ補シ海軍大臣ニ隸シ會議ノ事務ヲ總理ス
- 第三條 議長ハ議事ノ事項ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開ク事ヲ得
- 第四條 海軍技術會議ニ幹事一人副幹事一人ヲ置キ議案ノ調査會議ノ庶務ヲ幹理セシム
- 第五條 海軍技術會議幹事ハ佐官又ハ機技部上長官副幹事ハ大尉若クハ機技部士官ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 議員ハ定數ナシ在職ノ佐尉官機技部上長官士官ヲ以

第五條 中央衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク
議長 一人 軍醫總監
議員 五人 軍醫監四人 內三人ハ本職アル大軍醫一人 書記 一人 大軍醫ヲ兼補ス
〔會計主務 一人 屬(二十三年十月十八日勅令第二四) 以テ本項ヲ兼補ス〕

第六條 中央衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ總理シ鎮守府衛生會議ヲ監督ス

第七條 中央衛生會議議長ハ海軍大臣ノ命ヲ受テ議案ヲ作り或ハ必要ト思考スルトキハ議長ヨリ議案ヲ發シ議定ノ後其意見ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

第八條 中央衛生會議議長ハ各鎮守府衛生會議議長及海軍艦船營廳ノ軍醫官ヨリ出シタル醫務衛生ニ關スル統計報告ヲ審査シ毎年報告ヲ作リ海軍大臣ニ呈スヘシ

第九條 中央衛生會議議長ハ海軍豫算決定ノ前ニ於テ毎年準備供給スヘキ藥品療用品ノ品種定額及其豫算金額ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十條 中央衛生會議議長ハ外國ニ航スル艦船ノ軍醫官ニ訓令ヲ下スニ必要ト思考スルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申スル事ヲ得

第十一條 中央衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受テ議定スヘキ事項ノ調査ヲ分擔ス

第十二條 中央衛生會議書記ハ議長ノ命ヲ受テ諸報告統計ヲ蒐集調査シ會議ノ庶務ヲ幹理ス

第十三條 (二十三年十月十八日勅令第二四) 以テ本條ヲ兼補ス

第十四條 本條例第五條ニ掲クル職員ノ外中央衛生會議ニ藥劑監又ハ藥劑官一人ヲ置キ議長ノ命ヲ受テ藥品療用品ニ係

ル調査ニ從事セシメ又判任官若干人ヲ置キ庶務ニ從事セシム

第十五條 鎮守府衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ大目ハ左ノ如シ
一 軍港内ノ衛生ニ關スル事項
二 鎮守府所轄營檢舍營病院ノ構造ニ關スル衛生上ノ事項
三 所轄艦船營廳ノ醫務衛生ニ關スル事項

第十六條 鎮守府衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク
議長 一人 軍醫大監
議員 五人 軍醫大監一人 軍醫少監一人 大軍醫一人 他ノ二人ハ鎮守府職員ヲ以テ兼補ス
書記 一人 大軍醫ヲ兼補ス

第十七條 鎮守府衛生會議議長ハ會議ノ事務ヲ整理ス

第十八條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府所轄艦船營廳ノ軍醫官ヲ監督シ其諸報告ヲ調査シテ中央衛生會議議長ニ送付スヘシ

第十九條 鎮守府衛生會議議長ハ海軍病院ノ醫務ヲ統理ス

第二十條 鎮守府衛生會議議長ハ藥品療用品準備供給ノ成規ニ關シ其意見ヲ司令長官ニ具申スヘシ

第二十一條 鎮守府衛生會議議長ハ軍醫候補生看護手看護夫實地教習ノ事ヲ掌ル

第二十二條 鎮守府衛生會議議長ハ病院附軍醫ヲ軍港内各所ニ派出シ看護手看護夫ヲ艦船營ニ配置シ及之ヲ各所ニ派出スル事ヲ掌ル

第二十三條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府管内ノ醫務衛生ノ景況ヲ中央衛生會議議長ニ通報スヘシ

第二十四條 鎮守府衛生會議議員ハ議事ヲ掌リ議長ノ命ヲ受テ議定スヘキ事項ノ調査ヲ分擔ス

第二十五條 鎮守府衛生會議議員ハ兼テ病院治療ノ事ニ服ス

第二十六條 鎮守府衛生會議書記ハ議長ノ命ヲ受テ諸報告ヲ調査シ會議ノ庶務ヲ幹理ス

第二十七條 本條例第十六條ニ掲クル職員ノ外鎮守府衛生會議ニ藥劑官一人ヲ置キ藥品療用品ニ係ル調査ニ從事セシム

○海軍編修官官制 明治二十三年六月 勅令第九十號

海軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍編修官官制

第一條 海軍ニ於テ戰史外國政誌及水路誌ノ編修ニ從事セシムル爲メ海軍編修官ヲ置ク

第二條 海軍編修官ハ海軍參謀部長及水路部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 海軍編修官ヲ分テ海軍編修及海軍編修書記トス

第四條 海軍編修ハ奏任四等以下トシ海軍編修書記ハ判任トス

第五條 海軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ
編修 二人
編修書記 十一人

○海兵團條例 明治二十二年四月 勅令第四十六號

海兵團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海兵團條例

第一條 海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ艦隊其他各部定員ノ補缺ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ軍港内ノ守衛ヲ要スル場所ニ守兵ヲ派出シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ召集スル所トス(二十三年二月十八日勅令第十六) 號ヲ以テ本條並第一項ヲ改正ス

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ海兵團ト稱ス

第二條 艦船隊應ノ勤務ヲ免シタル下士卒ハ海兵團ニ入營セシムルモノトス(上)

第三條 海兵團ノ下士卒ハ分テ若干分隊トシ其機關部ニ屬スルモノハ別ニ若干部ニ分ツ(同上ヲ以テ本條中刪除ス)

第四條 海兵團ノ職員ハ左ノ如シ(上)

團長	一人	大佐
副團長	一人	少佐
分隊長	若干人	大尉
徵募官	二人	大尉
分隊長	若干人	少尉
機關長	一人	機關少監
機關士	若干人	
軍醫長	一人	軍醫少監
軍醫	若干人	
主計長	一人	主計少監
主計	若干人	

第五條 團長ハ軍港司令官ニ隸シ部下ヲ監督シ軍紀風紀ヲ維持シ團中ノ事務ヲ總理シ下士卒ヲ教育訓練スルヲ任トス

第六條 團長ハ徵募ノ事務ニ於テハ直ニ司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

現行日本法令大全

第七條 副長ハ團長ヲ補佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團中ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第八條 分隊長ハ其隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ掌ル

分隊長ハ分隊長ノ命ヲ受ク其主務ニ従事ス(二十三年二月十八日勅令第十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第九條 徵募官ハ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵ニ關スル事務及豫備兵後備兵ノ招集簡閱點呼ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 機關長ハ其部下ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ任トシ又附屬艦船ノ機關ニ係ル事ヲ掌ル

第十一條 機關士ハ機關部員ノ部長ト爲リ機關長ヲ助ク其主務ニ従事ス(同)

第十二條 軍醫長ハ團中ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十三條 軍醫ハ軍醫長ヲ助ク其主務ニ従事ス

第十四條 主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル(上同)

第十五條 主計ハ主計長ヲ助ク其主務ニ従事ス

第十六條 第四條ニ掲クル職員ノ外定員トシテ准士官下士卒若干人ヲ置ク

海軍病院條例

明治二十二年四月 海軍省達第九十七號

海軍病院條例ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍病院條例

第一條 海軍病院ハ鎮守府衛生會議ニ屬シ鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置ク

第二條 鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府衛生會議職員及海軍病

院軍醫以下ヲ指揮シテ醫務ヲ統理ス

第三條 鎮守府衛生會議職員タル軍醫大監ハ治療掛ノ長トシテ患者治療ノ事ヲ掌リ會議議長事故アルトキハ代理ヲ爲ス

第四條 鎮守府衛生會議職員タル軍醫少監ハ治療掛ノ副長トシテ掛長ヲ助ク

第五條 鎮守府衛生會議附屬藥劑官ハ調劑掛ノ長トシテ調劑分所ノ事ヲ掌ル

第六條 海軍病院ニ軍醫若干人ヲ置ク其數ハ鎮守府所管ノ兵數ニ應ジテ定ム

第七條 海軍病院附屬軍醫ハ衛生會議議長ノ指揮ヲ受ク患者治療ノ事ヲ掌リ又各所ニ派出シテ醫務衛生ノ事ニ服ス

第八條 海軍病院ノ會計及庶務ハ鎮守府主計部病院課長之ヲ掌理ス(二十二年六月三日海軍省達第百七十五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第九條 鎮守府主計部病院課長ハ海軍病院ノ會計庶務ヲ掌理スト雖モ定規アル日常ノ事件ハ衛生會議議長ノ告知ニ依リ處分ス(上同)

第十條 海軍病院ニ於テハ軍醫候補生及看護手看病夫ノ教育ヲ爲ス

第十一條 海軍病院ニハ定員トシテ看護手主廚看病夫若千人ヲ置ク

第十二條 看護手看病夫ハ衛生會議議長ノ命ヲ受ク看護調劑ノ事ニ服ス

第十三條 主廚看病夫ハ病院課長ノ命ヲ受ク庖厨ノ事ニ服ス(上同)

第十四條 軍醫以下ハ衛生會議議長ノ命アルトキハ會議ニ關スル事務ニ服ス(上同)

第十五條 艦營其他各所ニ要スル藥品療用品ハ海軍病院ヨリ

現行日本法令大全

供給ス

第十六條 計算課派出員ハ藥品療用品供給ノ事務ヲ掌リ藥劑官ハ藥品療用品ノ保管及現品供給ノ事ニ於テハ病院課長ヲ補助ス(二十三年海軍省達第百三號ヲ以テ本條中加除ス)

第十七條 看護手看病夫ハ藥劑官ノ命ヲ受ク藥品療用品保管供給ノ事ニ服ス

○海軍中央文庫官制 明治二十二年四月 勅令第五十五號

海軍中央文庫官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍中央文庫官制

第一條 海軍中央文庫ハ海軍參謀部ニ屬シ海軍ニ必要ナル圖書ヲ蒐集保存スル所トス

第二條 海軍中央文庫ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一人 大尉

第三條 海軍中央文庫主管ハ圖書ノ蒐集保存分類整理其他一切ノ事ヲ掌理ス

第四條 本職アル士官官相當官及技師主理教授ノ内若干人ヲ海軍中央文庫掛トシ各科ノ圖書類別存廢ノ事ニ於テ主管ヲ補助セシム

第五條 海軍中央文庫ニ屬二人ヲ置キ主管ノ命ヲ受ク文庫ノ事務ニ従事セシム(二十三年十月十八日勅令第百四十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

○海軍大學校條例 明治二十三年十月 勅令第百四十八號

海軍大學校官制ヲ廢シ海軍大學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第三條 海軍大學校學生ハ分テ左ノ三種トス

甲號 大尉ニシテ砲術水雷術航海術ノ高等學科ヲ修ムル者及大機關士ニシテ高等機關學ヲ修ムル者

乙號 佐官機關監又ハ大尉大機關士ニシテ任意ノ學科ヲ修ムル者

丙號 少尉少機關士ニシテ高等ノ學科ヲ修ムル者

第四條 甲號學生丙號學生ハ試驗ヲ行ヒ合格者ニ就キ海軍大臣之ヲ命ス乙號學生ハ志願ニ依リ海軍大臣之ヲ認可ス

第五條 學生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得

第六條 甲號乙號及丙號學生ノ學期ハ一箇年トス(二十四年五月第四十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第七條 砲術科水雷科ヲ卒業シタル甲號學生ハ各其專科ノ練習艦ニ移シ六箇月實地ノ練習ヲ爲サシム

第八條 航海科卒業及機關學卒業ノ甲號學生ニハ卒業ノ後其他ハ練習艦卒業ノ後各其科ニ應シ砲術長水雷長航海長機關長適任證書ヲ授與ス

第九條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 中將或ハ少將

現行日本法令大全

第二類 第一章 第一款 官制

百七十八

次長	大佐	副官	大尉	軍醫長	大軍醫	主計長	大主計
次長ヲ以テ兼補ス							
教官	佐官大尉陸軍工兵佐官	機技部上長官士官	教授				
軍醫長	大軍醫						
主計長	大主計						

次長	大佐	副官	大尉	軍醫長	大軍醫	主計長	大主計
二	二	二	二	一	一	一	一
三	三	三	三	二	二	二	二
四	四	四	四	三	三	三	三
五	五	五	五	四	四	四	四
六	六	六	六	五	五	五	五
七	七	七	七	六	六	六	六
八	八	八	八	七	七	七	七
九	九	九	九	八	八	八	八
十	十	十	十	九	九	九	九
十一	十一	十一	十一	十	十	十	十
十二	十二	十二	十二	十一	十一	十一	十一
十三	十三	十三	十三	十二	十二	十二	十二
十四	十四	十四	十四	十三	十三	十三	十三
十五	十五	十五	十五	十四	十四	十四	十四
十六	十六	十六	十六	十五	十五	十五	十五
十七	十七	十七	十七	十六	十六	十六	十六
十八	十八	十八	十八	十七	十七	十七	十七
十九	十九	十九	十九	十八	十八	十八	十八
二十	二十	二十	二十	十九	十九	十九	十九
二十一	二十一	二十一	二十一	二十	二十	二十	二十
二十二	二十二	二十二	二十二	二十一	二十一	二十一	二十一
二十三	二十三	二十三	二十三	二十	二十	二十	二十
二十四	二十四	二十四	二十四	二十一	二十一	二十一	二十一
二十五	二十五	二十五	二十五	二十二	二十二	二十二	二十二
二十六	二十六	二十六	二十六	二十三	二十三	二十三	二十三
二十七	二十七	二十七	二十七	二十四	二十四	二十四	二十四
二十八	二十八	二十八	二十八	二十五	二十五	二十五	二十五
二十九	二十九	二十九	二十九	二十六	二十六	二十六	二十六
三十	三十	三十	三十	二十七	二十七	二十七	二十七

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ將校及機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ニ軍艦ヲ屬シ實地練習ノ用ニ供ス

第三條 生徒ノ學期ハ四箇年トス

第四條 生徒ハ年滿十六年以上二十年未滿ニシテ海軍將校若クハ海軍機關官ヲランコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス

第五條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ

- 一 有妻ノ者
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 三 身代限ノ處分ヲ受ク辨償ヲ終ヘサル者

第六條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス

現行日本法令大全

第二類 第一章 第一款 官制

百七十九

第七條	生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
第八條	生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ
第九條	生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス
一	品行不貞或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
二	試験ノ成績不貞ニシテ卒業ノ目的ナキ者
三	傷痍疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者
第十條	海軍兵學校ニ在ノ職員ヲ置ク
校長	少將
次長	大佐
副官	大尉
教頭	大佐
教官	少佐機關少監少技監大尉大機關士大技士教授
監事長	少佐
監事	大尉大機關士
軍醫長	軍醫少監
軍醫	
主計長	主計少監
主計	
第十一條	校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ク校務ヲ總理シ所屬練習艦ヲ統轄ス
第十二條	次長ハ校長ヲ佐ク校務ヲ調理シ教育紀律ヲ監シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
第十三條	副官ハ校長ノ命ヲ受ク庶務ヲ掌理シ其他校長ノ命スル事務ニ服ス
第十四條	教頭ハ校長ノ命ヲ受ク學術教授ノ事ヲ監督シ編纂

教頭	大佐	砲術教官	大佐
教官	少佐	水雷術教官	少佐
監事長	少佐	運用術教官	少佐
監事	大尉	航海術教官	大尉
軍醫長	軍醫少監	機關術教官	機關少監
軍醫		造船術教官	大技士
主計長	主計少監	造船術教官	大技士
主計		普通學教官	教授

翻譯ノ事ヲ管理ス

第十五條 教官ハ教頭ノ指揮ヲ受ク各科ノ教授ヲ分擔ス

第十六條 監事長ハ校長ノ命ヲ受ク生徒ヲ監督シ校内ノ紀律ヲ維持シ專ラ生徒ノ體育ヲ掌ル

第十七條 監事ハ監事長ノ指揮ヲ受ク生徒ヲ分轄シ其事務ヲ掌ル

第十八條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ク醫務衛生ヲ掌ル

第十九條 軍醫ハ軍醫長ノ指揮ヲ受ク其主務ニ從事ス

第二十條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ク會計給與ヲ掌ル

第二十一條 主計ハ主計長ノ指揮ヲ受ク其主務ニ從事ス

第二十二條 海軍兵學校ニ判任官卒ヲ置キ上官ノ命ヲ受ク校務ニ從事セシム

第二十三條 附屬練習艦ノ艦長副長砲術長水雷長航海長分隊長機關長ハ本校職員ヲシテ兼務セシム

第二十四條 海軍兵學校ノ定員ハ左ノ如シ

副官	大尉	二	三等下士
監事長	少佐	十一	九
大佐	大尉十三	官ヲシテ兼務セシム	十一
次長	大機關士	二	兼務セシム
軍醫長	軍醫少監	二	等卒
大軍醫	少軍醫	二	等卒
少軍醫	主計少監	三	等卒
主計長	主計少監	四	等卒
大主計		五	等卒

上等兵曹機關師及一等下士ノ内十八人二等下士ノ内十八人三等下士ノ内八人ハ教員トス教員教員ノ數ハ海軍大臣適宜之ヲ減少スルコトヲ得

○海軍軍醫學校條例 明治二十三年十月 勅令第二百五十一號

朕海軍軍醫學校官制ヲ廢シ海軍軍醫學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍醫學校條例

- 第一條 海軍軍醫學校ハ軍醫少軍醫候補生ニ高等ノ學術ヲ教授シ軍醫ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 第二條 海軍軍醫學校ニ於テ教授スル軍醫少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生ト稱ス
- 第三條 學生生徒ハ總テ通學セシム
- 第四條 學生ノ學期ハ一箇年トシ生徒ノ學期ハ四箇年トス
- 第五條 學生ハ海軍大臣軍醫少軍醫候補生ヨリ選拔シテ之ヲ命ス
- 第六條 生徒ハ官費私費ノ二種トシ私費生徒中ノ優等ナル者

- 第七條 生徒ハ年齡滿十七年以上二十年未滿ニシテ海軍軍醫ヲランコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選拔シテ採用ス
- 第八條 左ノ諸項ニ掲クル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ
 - 一 有妻ノ者
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者
- 第九條 生徒ノ召募ハ海軍大臣之ヲ告示ス
- 第十條 生徒ハ海軍兵籍ニ編入ス
- 第十一條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ
- 第十二條 生徒左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス
 - 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢訓戒ヲ加アルモ改悛セザル者
 - 二 試驗ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 - 三 傷痕疾病ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者
- 第十三條 海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長
 - 軍醫大監
 - 軍醫監大軍醫大藥劑官
 - 教官
 - 監事
 - 會計主務 屬
- 第十四條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第十五條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第十六條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生生徒ヲ監督ス
- 第十七條 會計主務ハ校長ノ命ヲ受ケ會計庶務ヲ掌ル
- 第十八條 海軍軍醫學校ニ屬シ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從

事セシム

第十九條 海軍軍醫學校ノ定員ハ左ノ如シ

長 軍醫大監	一	教官 軍醫監或ハ大軍醫	三	會計主務 屬	一
		監事 大軍醫	三	屬	二

○海軍主計學校條例 明治二十三年十月 勅令第二百五十一號

朕海軍主計學校官制ヲ廢シ海軍主計學校條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍主計學校條例

- 第一條 海軍主計學校ハ主計ニ高等ノ學術ヲ教授シ新募ノ少主計候補生ニ海軍主計官ニ必要ノ學術ヲ教授シ主帳廚夫ニ主帳ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス
- 第二條 海軍主計學校ニ於テ教育スル主計少主計候補生ヲ海軍主計學校學生ト稱シ主帳廚夫ヲ海軍主計學校練習生ト稱ス
- 第三條 學生ハ海軍大臣之ヲ命ス
- 第四條 主帳廚夫ニ練習生ヲ命スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第五條 學生練習生ハ校内ニ寄宿セシム但校長ハ學生ノ願ニ依リ通學ヲ許スコトヲ得
- 第六條 學生ノ學期ハ一箇年トシ練習生ノ學期ハ十箇月トス
- 第七條 海軍主計學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長
 - 主計大監
 - 監事
 - 主計少監大主計

- 教官 教授
- 軍醫長 大軍醫
- 主計長 大主計
- 第七條 校長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ總理ス
- 第八條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生練習生ヲ監督ス
- 第九條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分擔ス
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ受ケ醫務衛生ヲ掌ル
- 第十一條 主計長ハ校長ノ命ヲ受ケ會計給與及庶務ヲ掌ル
- 第十二條 海軍主計學校ニ上等主帳下士卒屬ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ校務ニ從事セシム
- 第十三條 海軍主計學校ノ定員ハ左ノ如シ

校長 主計大監	一	監事	三	上等主帳
		或ハ大主計	四	下士
教官 軍醫長	一	大軍醫	一	卒
主計長 大主計	一	卒	一	卒

○司法省官制 明治二十四年七月 勅令第九十二號

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

- 第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政、司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監視シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス

第二條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第三條 司法省ニ總務局ヲ置ク
總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 民事ノ法律命令ニ關スル事項
- 二 刑事ノ法律命令ニ關スル事項
- 三 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 四 本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
- 五 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 六 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
- 七 統計報告ノ調整並官報掲載ニ關スル事項
- 八 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 九 公文書類ノ授受發送ニ關スル事項

第四條 總務局長ハ勅任トス

第五條 司法省試補ハ四人ヲ以テ定員トス

第六條 司法省屬ハ九十八ヲ以テ定員トス

附則
第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○事務分掌規定 明治二十四年八月十九日官報

大臣官房
大臣官房ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 機密文書ニ關スル事
- 二 機密事務ニ關スル事
- 三 大臣ノ官印及省印ヲ管守スル事

四 雇外國人身分ニ關スル事

總務局
總務局ニ於テハ參事官書記官ヲシテ民事刑事職員會計記錄往復等ノ事務ヲ分掌セシム

參事官
參事官ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス但事務ノ必要ニ依リ課長ヲ兼務シ又臨時命ヲ受ケ其事務ヲ助ケルコトアルヘシ

- 一 民事刑事其他ノ法律命令ニ關スル事項
- 二 民事刑事ノ裁判執行監視ニ關スル事項
- 三 死刑執行再審ノ訴非常上告特赦減刑復權假出獄免幽閉監視假免ニ關スル事項
- 四 外國文書翻譯ニ關スル事項

書記官
書記官ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理シ且各課ノ長ヲ兼務ス

- 一 總務局長ノ官印ヲ管守スル事
- 二 裁判所ノ設立廢止及ヒ管轄區域並ニ其變更ニ關スル事項
- 三 各課ノ主管ニ屬セザル事項若クハ各課ニ關係シテ其主管ヲ定メ難キ事項
- 四 判事檢事ヨリ進達スル報告ノ調査ニ關スル事項

職員課
職員課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 所部官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 裁判所附屬吏員及ヒ代言人ノ身分ニ關スル事項
- 三 判事檢事出張ニ關スル事項
- 四 判事檢事登用試驗文官普通試驗及ヒ公證人代言人ノ試驗

會計課
會計課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 本省所管ノ經費及ヒ諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 二 本省所管ノ官有財產及ヒ物品ニ關スル事項
- 三 保管金雜部金ノ收支及ヒ領置物品ノ出納ニ關スル事項
- 四 廳内取締ニ關スル事項
- 五 雇人使役監督ニ關スル事項

記録課
記録課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ノ調整ニ關スル事項
- 二 翻譯書又ハ草案類ノ印刷ニ關スル事項
- 三 省中一切公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

往復課
往復課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 公文書類及ヒ成案文書ノ授受發送ニ關スル事項
- 二 文書ノ淨寫ニ關スル事項
- 三 官報局ニ報告スヘキ官報掲載ニ關スル事項

○文部省官制 明治二十四年七月 勅令第九十三號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ

掌ル

- 一 公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 教員檢定ニ關スル事項
- 三 教科用圖書檢定ニ關スル事項
- 四 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スル事項
- 五 教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項
- 六 雇外國人ニ關スル事項
- 七 海外留學生ニ關スル事項
- 八 訴願ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官ハ二人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク

專門學務局
普通學務局

第五條 專門學務局長、普通學務局長ハ勅任トス

第六條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 大學校及高等專門學校ニ關スル事項
- 二 中學校ニ關スル事項
- 三 專門學校及技藝學校ニ關スル事項
- 四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
- 五 高等圖書館天文臺等ニ關スル事項
- 六 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
- 八 學士會院及學術會ニ關スル事項
- 九 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スル事項

- 第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範學校ニ關スル事項
 - 二 小學校ニ關スル事項
 - 三 高等女學校ニ關スル事項
 - 四 幼稚園普通圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項
 - 五 教育博物館及教育會ニ關スル事項
 - 六 通俗教育ニ關スル事項
 - 七 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
 - 八 郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項
 - 九 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スル事項
- 第八條 文部省ニ視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察及學校檢閱ノ事ヲ掌ル
- 第九條 文部省ニ技師一人ヲ置ク奏任トス學校建築ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十條 文部省試補ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第十一條 文部省ニ技師試補一人ヲ置ク
- 第十二條 文部省屬ハ百人ヲ以テ定員トス(明治二十五年六月勅令第五十六號ヲ以テ二百八十人ニ改定ス)

第十三條 本條ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

文部省分課規程

○分課規程

明治二十四年八月十七日官報

- 第一條 文部大臣官房ノ事務ハ祕書官ノ主管ニ屬スルモノ、外左ノ七課ヲ置キ之ヲ分掌セシム
 - 會計課
 - 文書課
 - 圖書課
 - 教員檢定課
 - 教員恩給課
 - 報告課
 - 記錄課
- 祕書官ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 機密ノ文書ニ關スルコト
 - 二 機密ノ事務ニ關スルコト
 - 三 大臣次官ノ官印及省印ノ管守
 - 四 職員ノ進退身分並服務ニ關スルコト
 - 五 雇外國人ニ關スルコト
 - 六 祝日祭日等ノ儀式ニ關スルコト
- 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト
 - 二 本省所管ノ官有財產及物品ニ關スルコト
 - 三 學校建築ニ關スルコト
- 文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 成案ノ審査及公文ノ起草ニ關スルコト
 - 二 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト
 - 三 文書ノ翻譯ニ關スルコト
 - 四 海外留學生ニ關スルコト

- 五 訴訟ニ關スルコト
 - 六 本省所轄各部ノ處務規程等ニ關スルコト
 - 七 他局課ニ屬セサル事務
 - 圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 教科用圖書檢定ニ關スルコト
 - 二 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スルコト
 - 教員檢定課ニ於テハ教員檢定ニ關スルコトヲ掌ル
 - 教員恩給課ニ於テハ教員恩給遺族遺族扶助料ニ關スルコトヲ掌ル
 - 報告課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 統計報告ノ調製ニ關スルコト
 - 二 統計局ヘ送致スヘキ統計材料ニ關スルコト
 - 三 官報材料ニ關スルコト
 - 四 教育博覽會ニ關スルコト
 - 記錄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公文書類ノ編纂保存ニ關スルコト
 - 二 報告書年報等ノ蒐集配付ニ關スルコト
 - 三 參考圖書ノ管理ニ關スルコト
- 第二條 專門學務局ニ第一課第二課第三課第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 第一課ニ於テハ大學校專門學校高等各種學校學士會院學術會天文彙學位稱號及學術技藝ノ保護獎勵等ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第二課ニ於テハ中學校及之ニ準スヘキ各種學校並高等圖書館等ニ關スルコトヲ掌ル
 - 第三課ニ於テハ農學校商業學校工業學校美術學校音樂學校

- 及之ニ類スル各種學校等ニ關スルコトヲ掌ル
- 第四課ニ於テハ本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト及他課ニ屬セサル事務ヲ掌ル
- 第三條 普通學務局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 - 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ教科目修業年限教則教科用圖書器具等ニ關スルコト
 - 二 幼稚園ニ關スルコト
 - 三 通俗教育ニ關スルコト
 - 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止經濟及設備等ニ關スルコト
 - 二 郡視學及市町村學務委員ニ關スルコト
 - 三 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト
 - 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長教員及生徒等ニ關スルコト
 - 二 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スルコト
 - 三 普通圖書館教育博物館及教育會等ニ關スルコト
 - 四 他課ニ屬セサル事務
- 第四條 以上各課ノ外別ニ文部省ニ視學部ヲ置ク
- 視學部ハ視學官及視學委員ヲ以テ組織シ學事ノ視察及學校檢閱ニ關スルコトヲ掌ル

○帝國大學職員定員 明治二十四年七月 勅令第三百三十六號
朕茲ニ帝國大學職員定員ノ件ヲ裁可ス

第一條 帝國大學職員定員左ノ如シ

- 總長 一人
- 分科大學長 六人
- 教頭 六人
- 書記官 專任二人
- 舍監 專任二人
- 書記 七十三人
- 技手 百十八人

第二條 教授助教ノ人員ハ學科ノ種類其受持ノ都合ニ依リ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 總長ハ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教授助教ノ外外國教師ヲ雇入シ又ハ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

第四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
明治二十三年勅令第二百七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○帝國大學教授助教定員

朕茲ニ帝國大學教授助教ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス
明治二十四年七月 勅令第三百四十號

明治二十四年勅令第三百三十六號第二條ニ依リ教授助教ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

教授 七十五人
助教 五十八人

○文部省直轄諸學校官制 明治二十四年七月 勅令第三百三十七號
朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制
通則

第一條 文部省直轄高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校高等中學校東京工業學校東京美術學校東京音樂學校東京盲啞學校ニ各左ノ職員ヲ置ク但教官ノ定員ハ學科ノ種類其受持ノ都合及生徒ノ員數ニ應シ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム又書記ノ定員並特ニ各學校ニ就キ規定スルモノハ各學校ノ部ニ之ヲ掲ク

學校長 一人 奏任
但高等師範學校長及女子高等師範學校長ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ

教授 奏任
助教 判任
舍監 奏任
書記 判任

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ク校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ク生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ上官ノ命ヲ承ク庶務會計ニ從事ス

第六條 學校長ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ雇入シ又ハ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

第七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

高等師範學校
第八條 高等師範學校ハ師範學校中學校及小學校ノ教員ヲ養成スル所トス

第九條 高等師範學校ニ附屬中學校附屬小學校ヲ置ク

第十條 高等師範學校ニ東京教育博物館ヲ附設ス
東京教育博物館ハ普通教育ニ關スル諸般ノ物品ヲ陳列シ參考ニ便スル所トス

第十一條 高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク
教諭 奏任
附屬中學校生徒ノ授業ヲ掌ル
助教 判任
附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル
技手 判任

上官ノ命ヲ承ク學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助クシムルコトアルヘシ

第十二條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及東京教育博物館主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第十三條 書記ハ九人技手ハ五人ヲ以テ定員トス

女子高等師範學校
第十四條 女子高等師範學校ハ女子師範學校高等女學校及小學校ノ女教員並幼稚園ノ保姆ヲ養成スル所トス

第十五條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第十六條 女子高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク
教諭 奏任
附屬高等女學校生徒ノ授業ヲ掌ル
助教 判任
附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル
技手 判任

第十七條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及附屬幼稚園主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第十八條 書記ハ六人ヲ以テ定員トス

高等商業學校
第十九條 高等商業學校ハ商務ヲ處理經營スヘキ者又ハ商業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二十條 高等商業學校ニ附屬主計學校ヲ置ク
附屬主計學校ハ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學科及實務ヲ教授スル所トス

第二十一條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬主計學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第二十二條 書記ハ十人ヲ以テ定員トス

高等中學校

第二十三條 高等中學校ハ高等ノ普通教育ヲ授ケ及大學並高等專門學科ノ學習ニ須要ナル豫備ヲ爲サシムル所トス

高等中學校ハ全國ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一校ヲ置キ第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校トス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條 高等中學校ハ法科文科理科醫科工科農科商科等ノ專門學部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ專門學部主事ヲ命シ部務ヲ掌ラシム

第二十六條 諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等中學校及鹿兒島高等中學校造士館トス

第二十七條 山口高等中學校及鹿兒島高等中學校造士館ハ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ル

第二十八條 各高等中學校書記ノ定員左ノ如シ

第一高等中學校 十四人
第二高等中學校 六人
第三高等中學校 十三人
第四高等中學校 六人
第五高等中學校 十人
山口高等中學校 五人
鹿兒島高等中學校造士館 五人

東京工業學校

第二十九條 東京工業學校ハ職工長又ハ工業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第三十條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

附屬職工徒弟學校ハ主トシテ木工若クハ金工ヲ業トスル者ノ子弟ニ實業ヲ授ケ適宜ノ職工ヲ養成スル所トス

第三十一條 東京工業學校ニ舍監ヲ置カス

第三十二條 東京工業學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第三十三條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬職工徒弟學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第三十四條 書記ハ六人技手ハ十人ヲ以テ定員トス

東京美術學校

第三十五條 東京美術學校ハ繪畫彫刻建築及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖畫教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第三十六條 東京美術學校ニ特ニ舍監ヲ置カス

第三十七條 東京美術學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第三十八條 書記ハ五人技手ハ二人ヲ以テ定員トス

東京音樂學校

第三十九條 東京音樂學校ハ音樂師又ハ音樂教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第四十條 東京音樂學校ニ舍監ヲ置カス

第四十一條 書記ハ四人ヲ以テ定員トス

東京盲啞學校

第四十二條 東京盲啞學校ハ盲啞教育法ノ模範ヲ示シ兼テ盲啞ヲ教育スル所トス

第四十三條 東京盲啞學校ニ第一條ニ定ムル所ノ教授助教授及舍監ヲ置カス左ノ職員ヲ置ク

教授 奏任
助教授 判任

第四十四條 教諭ハ生徒ノ授業ヲ掌リ助教授ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第四十五條 書記ハ二人ヲ以テ定員トス

附則

第四十六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○文部省直轄諸學校教官人員

明治二十四年七月
勅令第四百一十一號

朕茲ニ文部省直轄諸學校教官ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス

明治二十四年勅令第三百三十七號文部省直轄諸學校官制第一條ニ依リ文部省直轄諸學校教官ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

高等師範學校

教授 十五人
助教授 四人
教諭 五人
助教諭 五人
訓導 十人

女子高等師範學校

教授 十二人
助教授 四人
教諭 五人
助教諭 十人
訓導 十二人
保姆 五人

高等商業學校

教授 十五人
助教授 二十二人

高等中學校

教授 四十五人
第二高等中學校 二十三人
第三高等中學校 三十五人
第四高等中學校 二十人
第五高等中學校 二十五人

山口高等中學校 十八人
鹿兒島高等中學校造士館 十八人

東京工業學校

教授 十八人
助教授 十三人

東京美術學校

教授 十一人
助教授 十八人

東京音樂學校

教授 五人
 助教授 五人
 東京育嬰學校 三人
 教諭 三人
 助教諭 三人

尋常師範學校官制

明治二十四年十一月勅令第二百十六號

朕尋常師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

尋常師範學校官制

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
 教諭
 助教諭
 舍監
 訓導
 書記

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ノ中一人ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

第三條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承テ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

舍監ハ學校長ノ命ヲ承テ寄宿舍ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル
 第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承テ庶務會計ニ從事ス
 第九條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム
 第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

東京圖書館官制

明治二十四年七月勅令第三百三十八號

朕東京圖書館官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書

記錄ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一人 奏任
 司書 六人 判任
 書記 三人 判任

第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承テ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 司書ハ館長ノ命ヲ承テ圖書ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 書記ハ館長ノ命ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

第六條 館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第七條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ東京圖書館ニ商議委

員會ヲ設クルコトアルヘシ 其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

農商務省官制

明治二十四年七月勅令第九十四號

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條 農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標、及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、内外外博覽會及其進會、農商工諮詢會、圖書並報告書類ノ刊行管理及褒賞

其他各局ノ主宰ニ屬セシムル事務ヲ掌ル

第三條 農商務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 參事官ハ通則ニ掲クルモノ、外臨時命ヲ承テ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第五條 農商務省ニ左ノ五局一所ヲ置ク

農務局
 商工局
 山林局
 鑛山局
 特許局
 地質調査所

第六條 農務局長、商工局長、山林局長ハ勅任トシ鑛山局長、特

許局長ハ奏任トス

地質調査所長ハ局長又ハ技師ヲ以テ之ヲ兼テシム

第七條 農務局ニ於テハ農業、農會、農業組合、農業土木、農産物蟲害豫防及驅除、蠶業、茶業、獸醫、蹄鐵工、家畜、家禽、牛馬、狩獵、有益蟲類、漁業、漁業組合、漁場、漁船、漁具、水産物製造及鹽田ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 商工局ニ於テハ商業、商業會議所、商工同業組合、度量衡、商會社、商業仲立人及仲立人組合、内外通商、相場所、工場及保險營業ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 山林局ニ於テハ森林ノ施業、林野ノ區域及境界ノ調査、林野ノ利用及保護蕃殖、民有林、保存林及林野ノ畝帳ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 鑛山局ニ於テハ鑛業ノ許否、鑛區ノ境界及位置訂正、鑛區ノ合併分割、鑛業ノ保護及鑛業ノ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十二條 地質調査所ニ於テハ土性調査、主産植物及土性ノ關係試驗、地質ノ關係、地層ノ構造、鑛床ノ鑑定、有用鑛物ノ鑑定、有用物料ノ分析試驗、地形測量、土性圖、地質圖及其說明書編纂及實測地形圖編製ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 特許局ニ專任審判官一人專任審査官五人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ノ事ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ掌ル

第十四條 農商務省試補ハ三人ヲ以テ定員トス
 第十五條 農商務省ニ技師三十八人審査官補十二人及技手六十人ヲ置ク
 第十六條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク
 第十七條 農商務省屬ハ百八十八人ヲ以テ定員トス
 附則
 第十八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
 明治二十三年勅令第三百三號地質調査所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○分課規程 明治二十四年八月十八日官報

農商務省分課規程

第一條 大臣官房ニ祕書課庶務課會計課博覽會課及記錄課ヲ置ク
 第二條 祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 機密文書ニ關スルコト
 二 機密事務ニ關スルコト
 三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
 四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
 五 褒賞ニ關スルコト
 第三條 庶務ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 各局ノ成案ヲ審查シ及公文ヲ起草スルコト
 二 公文書類及成案文書ヲ授受發送スルコト
 三 參事官會議ニ關スル事項
 四 各局課ノ主宰ニ屬セサル事項

第四條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト
 二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト
 第五條 博覽會課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 内外博覽會及共進會ニ關スルコト
 二 農商工諮詢會ニ關スルコト
 第六條 記錄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
 二 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
 三 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スルコト
 第七條 農務局ニ第一課第二課第三課及第四課ヲ置ク
 第八條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 農業、農會及農業組合ニ關スル事項
 二 農業土木、農産物虫害豫防及驅除ニ關スル事項
 三 他課ノ主宰ニ屬セサル事項
 第九條 第二課ニ於テハ蠶業及茶業ニ關スル事務ヲ掌ル
 第十條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 獸醫蹄鐵工ニ關スル事項
 二 家畜家禽及有益蟲類ニ關スル事項
 三 牛馬籍ニ關スル事項
 四 狩獵ニ關スル事項
 第十一條 第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 漁業、漁業組合ニ關スル事項

二 漁業、漁船、漁具ニ關スル事項
 三 水産物産製造及鹽田ニ關スル事項
 第十二條 商工局ニ第一課第二課及第三課ヲ置ク
 第十三條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 商會社ニ關スル事項
 二 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
 三 相場所及保險營業ニ關スル事項
 第十四條 第二課ニ於テハ度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
 第十五條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 商業、商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
 二 内外通商ニ關スル事項
 三 工場ニ關スル事項
 第十六條 山林局ニ第一課第二課及第三課ヲ置ク
 第十七條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 森林施業ニ關スル事項
 二 森林收入豫算ノ編成ニ關スル事項
 三 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
 四 林野ノ利用處分及官民林保護蕃殖ニ關スル事項
 五 大小林區及時木場ノ設置變更ニ關スル事項
 六 林野編入及除却ニ關スル事項
 七 官林委託及保存林ニ關スル事項
 八 林野ノ統計及彙帳ニ關スル事項
 第十八條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 森林山野及立竹木官民有區分ニ關スル事項
 二 他課ノ主宰ニ屬セサル事項
 第十九條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 森林經費豫算編成ニ關スル事項
 二 森林收入及經費ノ取扱ニ關スル事項
 三 林區畧物品及林産物品會計ニ關スル事項
 四 林區所用ノ地所建物ニ關スル事項
 第二十條 鐵山局ニ第一課及第二課ヲ置ク
 第二十一條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 鐵業ノ許否ニ關スル事項
 二 鐵區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項
 三 鐵區ノ合併分割ニ關スル事項
 第二十二條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 鐵業ノ保護ニ關スル事項
 二 鐵業ノ技術ニ關スル事項
 第二十三條 特許局ニ審判課審查第一課審查第二課審查第三課審查第四課審查第五課庶務課及圖書館ヲ置ク
 第二十四條 審判課ニ於テハ審判ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二十五條 審查第一課ニ於テハ意匠及商標ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二十六條 審查第二課ニ於テハ發明低觸ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二十七條 審查第三課ニ於テハ左ノ各類ニ屬スル發明ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
 第一類 蒸氣電氣水力等ニ關スル諸器械
 第二類 農具器械
 第三類 車類
 第四類 船舶類
 第五類 製造用諸器械